

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

法政大学講義録

松岡, 義正 / 岡野, 敬次郎 / 加藤, 正治 / 若槻, 禮次郎 /
板倉, 松太郎 / 山田, 三良

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

9

(号 / Number)

3学年の3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

47

(発行年 / Year)

1906-01-30



明治三十八年十一月九日第三種郵便物認可
（毎月三回 十日、二十日、三十日發行）
明治三十九年一月三十日發行
第參學年ノ三

三十九年度

法政大學講義錄

第九號

法政大學發行

0429

三十九年度第九號目次

國際私法	(至五三)	法學博士 山田 三 良
民法相續	(至七〇五)	法學士 若槻禮次郎
商法手形	(至〇八九)	法學博士 岡野敬次郎
商法海商	(至八〇)	法學博士 加藤 正 治
破產法	(至三四五)	法學士 松岡 義 正
民事訴訟法	自第三編 至第五編 (至四九)	法學士 松岡 義 正
民事訴訟法	自第六編 至第八編 (至四九)	法學士 板倉松太郎

雜 錄 ○大審院判例要旨

090
1906
3-1-3

英米ノ學派ニ於ケルカ如ク狹隘ナル見解ニ陥ルノ危險ナキニシモ非サルヲ以テ此方法ヲ採ルト同時ニ況ク歐米ノ立法例及ヒ學說ヲ比較研究シ依リテ以テ理論の研究方法ノ長所ヲ併セ收ムルコトヲ得ハ茲ニ始メテ完全ニ近キコトヲ得タルモノト云フヘシ故ニ本講義ニ於テモ我現行ノ國際私法ヲ研究スルヲ目的トシ其法則ノ原理及ヒ其規定ノ缺點ヲ明カニスルカ爲メニ時時歐米ノ學說ヲ參考ニ供セント欲スルナリ

第二節 國際私法研究ノ範圍

第一 私法ノ抵觸問題 國際私法ハ如何ナル事項ヲ以テ其研究ノ目的物ト爲スヘキヤニ付テハ諸國ノ學者各其意見ヲ異ニシ必スシモ同一ノ範圍ヲ定ムルコトヲ得ス先ツ第一ニ此研究ノ目的物ハ法律ノ抵觸問題ナルコトハ學者ノ普ク一致スル所ニシテ此點ニ付テハ異論ナキモ如何ナル法律ノ抵觸問題ヲ解釋スルヲ以テ目的トスルヤニ至リテハ學說ノ分歧スル所ナリ通常國際私法ハ題シテ私法ト云フカ故ニ私法ノ抵觸問題ヲ研究ノ範圍トスルコトハ多數學者ノ一致スル所ナリ尤モ此點ニ付テモ二三ノ學者ハ尙ホ異見ヲ懷キ國際私法ハ總テノ公法ノ抵觸ハ勿論私法ト雖モ商法ノ抵觸問題ノ如キハ之ヲ國際私法ノ範圍外ニ屬セシムヘキモノトシ單ニ民法ノ抵觸問題ノミヲ研究ノ範圍ト爲スヘキモノトセリ例ヘハ白耳義ノ「ローラン」獨逸ノ「チーテルマン」等ノ如キ是ナリ然レトモ此學說ヲ主張スル者ハ極メテ少數ニシテ國際私法ノ範圍ヲ不當ニ縮少スルノ誹ヲ免レス普通ノ學說ニ依レハ國際私法ハ民法商法等一切ノ私法ノ抵觸問題ハ勿論民事訴訟法及ヒ破産法等ニ關スル抵觸問題ヲモ併セテ研究スヘキモノトスルニ在リ民事訴訟法又ハ破産法ハ近來之ヲ公法ナリトスルノ說一般ニ行ハレ居ル

0430

モ皆私權ノ保護ニ關スル手續法ニシテ民法商法等ノ補助法ナルカ故ニ國際私法ニ於テハ民法商法等ノ抵觸問題ト同シク此等ノ抵觸問題ヲモ併セテ論究スヘキモノトスルナリ然レトモ其他ノ公法殊ニ刑法ノ抵觸問題、刑事訴訟法ノ共助、犯罪人引渡等ニ關スル問題ハ國際私法研究ノ範圍ニ屬スヘキヤ否ヤノ點ニ付テハ學說區區ニシテ今之ヲ大別スレハ左ノ三トナスコトヲ得

第一說 ハ之ヲ國際私法中ニ於テ論究スヘキモノトスルニ在リ 伊太利ノ「フィオレ」佛蘭西ノ「レネ」獨逸ノ「フオン、パール」等ノ諸家ハ此說ヲ主張シ國際私法中ニ於テ刑法、刑事訴訟法ニ關スル抵觸問題ヲモ説明セリ而シテ此等ノ學者ノ理由トスル所ハ此問題モ亦普通ノ國際私法ノ問題ト同シク法律ノ抵觸ニ關スルモノニシテ同一ノ方法ニ依リテ之カ法則ヲ發見シ得ヘキモノナルカ故ニ其目的物ハ異ナルモ研究方法ノ同一ナル點ニ於テ國際私法中ニ研究スルヲ便利ナリトスルニ在リ

第二說 ハ右ニ反シテ斯ル問題ハ國際公法中ニ論究スヘキモノトスルニ在リ二三ノ國際公法學者ハ現ニ國際公法中ニ之ヲ論究セリ又國際私法學者ニシテ和蘭ノ「アッセル」佛蘭西ノ「ウエイヌ」デバ「ネー」ルノ「」及ヒ「リビエ」等ノ諸氏ハ此說ヲ採用セリ其理由トスル所ハ斯ル問題ハ一個人ノ私權ニ關スルモノニ非スシテ國家ノ刑罰權即チ主權ニ關スル問題ナルカ故ニ一般ノ主權ニ關スル國際問題カ國際公法中ニ論究セララルカ如ク此問題モ亦其性質上當然國際公法ニ屬スヘキモノトスルニ在リ

第三說 ハ斯ル問題ハ國家刑罰權ノ抵觸問題ニシテ國際公法ニモ亦國際私法ニモ屬セシムルコトヲ得サルモノナルカ故ニ之ヲ獨立ノ一學科トシ國際刑法トシテ研究スヘキモノトスルニ在リ

瑞西ノ「マイリー」佛蘭西ノ「シュトルツギユ」ウエイヌ」及ヒ英米ノ國際私法學者ハ皆此說ヲ採用セリ其理由トスル所ハ此等ノ問題ハ國家刑罰權ノ外國人ニ對スル關係ニシテ主權ノ抵觸問題ニ非サルカ故ニ研究方法ノ同一ナルノ點ヲ以テ之ヲ國際私法ニ屬セシムルコト能ハサルト同時ニ此等ノ主權ニ關スル問題ハ通常ノ國際關係ト異ナリテ國家ノ對外主權ニ關スルヨリハ寧ロ對内主權即チ刑罰權ニノミ關スルモノナルカ故ニ之ヲ國家ト國家トノ關係ヲ規定スル公法中ニ屬セシムヘキモノニ非ストスルニ在リ實際ニ於テモ國際公法學者ハ刑法ノ研究ニ力ヲ容ルルノ餘地ナク所謂國際刑法ノ問題ヲ説明セサルヲ通例トナスカ故ニ學問分化ノ原則ニ從ヒ之ヲ獨立ノ一科トシテ研究スルニ至ルハ極メテ正當ト信スルナリ

之ヲ要スルニ本講義ニ於テモ國際刑法ニ關スル問題ハ之ヲ範圍外トシ其說明ヲ省略スルモノト知ル

第二 外國人ノ地位 國際私法ハ外國人カ一定ノ權利ヲ享有スルヲ以テ其存在ノ前提條件ト爲スヘキコトハ既ニ第一章ニ於テ説明セリ從テ斯ル前提條件モ亦此研究ノ範圍内ニ屬スヘキモノト云ハサルヘカラス既ニ國際法協會等ニ於テモ外國人ノ私權ノ享有ニ關スル原則ヲ國際私法ノ第一ノ原則トセリ尤モ諸國ノ國際私法學者ハ必スシモ此點ニ於テ一致スルモノニ非ス英米ノ學者ハ此問題ヲ一般ニ説明セサルヲ例トシ獨逸ノ學者ハ唯外國人ノ私權ノ享有ニ關スル大原則ヲ説明スルノミ之ニ反シテ佛蘭西伊太利等ノ學者ハ此問題ヲ國際私法ノ開卷第一ニ詳細研究スルヲ以テ例トス我國ニ於テハ外國人ノ權利ノ享有ニ關スルコト近來一大變遷ニ遭遇シタルモノニシテ之カ沿革ヲ明カニスルニ非サレハ國際私法ノ存在ヲ明カニスルコト困難ナリ從テ本講義ニ於テハ伊佛學者ノ例ニ倣ヒ外國人ノ地

位ニ關スル説明ヲモ研究ノ範圍ニ屬セシムルモノトス

第三 國籍 國籍法ハ一國ノ公法ニシテ私法ニ非ス然レトモ國籍ノ抵觸即チ國籍法ノ抵觸問題ハ何レノ國際私法學者ト雖モ之ヲ研究ノ範圍内ト爲セリ何トナレハ國籍カ抵觸スル場合ニ於テハ之ヲ決定スルニ非サレハ外國人ノ本國法如何ヲ定ムルコト能ハサルカ故ナリ此點ニ於テハ諸國ノ學者ノ一致スル所ナルモ國籍自體ノ取得又ハ喪失等ニ付テハ英米ノ學者ハ之ヲ簡單ニ説明スルヲ以テ例トスルモ獨逸ノ學者ハ之ヲ以テ國際私法ノ範圍外ト爲セリ之ニ反シテ伊佛等ノ學者ハ此點ニ付テモ尙ホ國際私法ノ先決問題トシテ研究スルヲ例トス我國ニ於テハ國籍自體ニ關シテ特別ノ講義ナキヲ以テ普通國際私法中ニ於テ併セテ之ヲ論究スヘキモノトスルカ故ニスル研究ノ便宜上ヨリ本講義ニ於テモ亦國籍ノ抵觸ノミナラス國籍自體ヲモ併セテ之ヲ説明セント欲スルナリ

以上ノ事項ヲ以テ此講義ノ範圍トス之ヨリ本論ニ入り諸君ト共ニ研究スヘキ事項ヲ講述ノ順序ニ從フテ舉示セハ左ノ如シ

第一編 外國人ノ地位

第二編 國籍及ヒ國籍法ノ抵觸問題

第三編 民法、商法、破産法、民事訴訟法ノ抵觸問題

即チ是ナリ

第一編 外國人ノ地位

外國人ノ地位トハ外國人カ其滞在國ニ於テ法律上享有セル權利及ヒ負擔セル義務ノ實際上ノ狀態ヲ謂

フ抑モ近世ノ文明國ニ於テハ國家ハ獨立自由ノ主權ヲ行フニ當リ國際公法又ハ文明國普通ノ慣例ニ基キ外國人ノ權利ヲ保護スヘキ義務ヲ負擔スルモノニシテ國際私法ハ素ト外國人カ斯ル國際公法上ノ原則ヨリシテ或一定ノ權利保護ヲ享有スルコトヲ前提トシ其享有セル權利ニ關シテ之ニ適用スヘキ法則ヲ明カニシテ外國人ノ權利ノ保護ヲ完ツセントスルノ必要ヨリ發達シタルモノナルカ故ニ國際私法ノ研究ヲ完ツセントセハ先ツ外國人ノ地位如何ヲ明カニセサルヘカラサルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ而シテ外國人ノ何タルヤハ他日國籍法ヲ説明シタル後始メテ之ヲ知得スヘキコトニ屬スト雖モ茲ニハ單ニ內國人ニ非サル者即チ內國人ノ國籍ヲ有セサル人類ヲ稱シテ外國人ト云フヲ説明スルヲ以テ足リトス故ニ予ハ本章ニ於テ外國人ノ地位ヲ研究スルニ當リ之ヲ分テ三章ト爲シ先ツ第一章ニ於テ外國人ノ地位ノ過去即チ沿革ヲ叙述シ第二章ニ於テ其現在即チ我國現行法令ノ下ニ於ケル外國人ノ地位ヲ説明シ第三章ニ於テ諸外國ニ於ケル我國民ノ地位如何ヲ比較研究シ終リニ第四章ニ於テ我國ニ於ケル外國法人ノ地位如何ヲ説明セントス

第一章 外國人ノ地位ノ沿革

歴史ニ徴シテ之ヲ考フルニ一國ニ於ケル外國人ノ地位ノ如何ハ其國ノ文明開化ノ程度ヲト知スルニ足ルヘキモノニシテ文明開化ノ進歩スルニ伴ヒ外國人ノ地位モ亦從テ進歩スルモノナリ夫ノ古代未開ノ社會ニ於テハ四邊皆警敵ニシテ各國ハ自己ノ共同生存ヲ維持スルノ必要ヨリ一切ノ權利保護ヲ舉ケテ之ヲ國民ノ特權トシ外國人ヲ敵視シテ毫モ其權利ヲ保護セザリシモ社會ノ文化稍發達シ國家ノ共同體ノ組織漸次鞏固トナルニ從ヒ益外國人ノ權利ヲ保護スヘキ必要ヲ認メ内外人ノ差別ハ益倫理的

及ヒ政治的ノモノト爲リ愛國心ノ如キ又ハ參政權ノ如キハ國民ノ本分特權トシテ外國人ニ之ヲ囑望シ付與スルコトヲ得サルモ一個人間平等ノ關係ヲ規定セル私法上ニ於テハ内外人ヲ平等視シ國家ノ公益ニ反スルカ如キ重大ナル原因ノ存セサル限ハ内國人ト等シク外國人ノ權利ヲ保護スルヲ以テ原則ト爲スニ至レリ故ニ若シ諸君カ古今東西ノ歴史ニ徴シテ外國人ノ地位ヲ研究セハ世界各國ノ法則ハ皆外國人切捨御免ノ敵視主義ヨリ漸ク内外人平等主義ニ進ムモノニシテ左ノ五期五主義ヲ經過シ又ハ經過セントスルコトヲ知ラルナルヘシ

第一期敵視主義 第二期賤外主義 第三期排外主義 第四期相互主義 第五期平等主義

第一期 敵視主義 太古ノ原始社會ハ暫ク措キ歴史以來古代ノ民族カ生存競争ノ必要ヨリ漸ク共同生存ノ範圍ヲ擴張シテ部落ヲ成シ會族ヲ爲シ遂ニ國家ヲ建設スルニ至リタル方法ハ主トシテ武力即チ戰爭ニ依リタルモノニシテ會族間又ハ國家間ノ自然ノ狀態ハ平和ニ在ラスシテ戰爭ナリシコトハ歴史ノ證スル所ナリ蓋シ歐洲大陸ニ於ケルカ如ク各民族互ニ土壤ヲ接シテ相對峙セル諸國ニ於テハ四圍ノ外國皆敵ニシテ他ヲ征服スルニアラスンハ則チ自ラ滅亡スルコトヲ免レサリシカ故ニ自己ノ共同團體ヲ維持シ之ヲ擴張スルノ必要ヨリ外國ト敵國人トヲ區別スルノ餘地ヲ存セサリシナリ故ニ斯ル時代ノ國民ハ皆外國人ト敵國人トヲ同一視シ各領國攘夷主義ヲ採リ外國人斬捨御免ヲ以テ國法トシタルコトハ羅旬語ニ於テモ古代ノ獨逸語ニ於テモ外國人ナル語ハ皆敵國人ナル意義ヲ有スル文字ナリシヲ以テ之ヲ知ルニ足ルヘシ既ニ之ヲ仇敵視シ其生命ヲ殺傷シ其財產ヲ沒收スルヲ以テ正當トナス以上ハ外國人ハ其身體及ヒ財產ニ對シ何等ノ權利保護ヲモ享有セサリシコトハ固ヨリ論ヲ俟タルナリ

第二期 賤外主義

社會ノ文化漸ク開發スルニ從ヒ自國ト平和關係ヲ有スル外國人ヲ強ヒテ敵國人トシテ虐遇スルノ必要漸ク減少シ共同團體ノ組織漸ク整備シテ風俗、宗教ヲ異ニスル外國人ト接觸スルモ敢テ其生存ヲ危クスルノ憂稍、減少スルニ從ヒ漸ク外國人ノ來住ヲ認許スルニ至リタリト雖モ仍ホ痛ク外國人ヲ卑賤視シテ遙ニ劣等ノ人類ト爲シ始ト禽獸ト同一視セシコト猶ホ漢人カ四圍ノ外人ヲ夷狄蠻貊ト蔑視セシカ如シ蓋シ人類ハ自己ノ了解セサル言語ヲ口ニシ自己ト別種ノ風俗、人情ヲ有スル外國人ニ接觸スルトキハ其事情ヲ審ニスルニ先チ之ヲ嫌厭スルノ感情ヲ有スルノミナラス文化尙幼稚ナル時代ニ於テハ政治ト宗教トヲ混同シ宗教ヲ以テ民心統一ノ要具ト爲シ此宗教ニ與ルコトヲ得ケル外國人ヲ目シテ異端外道ト爲シ以テ共同團體ノ鞏固ヲ期セシカ故ニ賤外主義ノ初期ニ於ケル外國人ノ地位ハ奴隸ヨリモ遙ニ劣等ニシテ尙ホ法律上權利享有ノ能力ヲ有セサリシノミナラス社會上ニ於テモ亦之ト共ニ齒スル者ナカリシコトハ印度、埃及、猶太、希臘、羅馬等ノ古代史ノ證明スル所ナリ

第三期 排外主義

各國ノ國民相交通往來スルコト漸ク増加スルニ從ヒ賤外主義漸ク減少シ外國人ハ必スシモ劣等動物トシテ蔑視スヘカラサルコトヲ知得スルニ至リタルト同時ニ國民ノ利己主義ノ思想益、熾ニシテ外國人ニ特別ノ利益ヲ付與スルコトヲ拒絕シ外國人ノ取得セル財產ヲ沒收シ以テ君主又ハ國民ノ私欲ヲ逞シウスルニ至レリ予輩ハ此時期ヲ稱シテ外國人排斥主義ト言ハントス即チ賤外主義ハ内外人ノ品質の優劣ノ觀念ヨリ胚胎シ排外主義ハ内外人ノ實利的保護ノ區別ヨリ由來ス故ニ排外主義ノ初期ニ於テハ賤外主義ノ終期ト實際上ノ結果ヲ異ニスル所尠シト雖モ大ニ其思想ヲ異ニセルコトヲ知ルヘシ蓋シ賤外主義ニ於テハ外國人ハ國法ニ服從セス又其保護ヲ享ケサルコトヲ以

テ原則トスルモ排外主義ノ時代ニ於テハ之ニ反シテ外國人ハ必ス國法ニ服從シ隨テ其保護ヲ享クヘキコトヲ原則トシ唯特定ノ保護ヨリ外國人ヲ排斥シテ内國人ヨリモ不利益ナル地位ニ立タシムルノミ而シテ賤外主義ノ遺風ハ内外人ノ結婚及ヒ歸化ノ禁制ト爲リテ近世ニ至ルマテ存在シ排外主義ノ遺風ハ外國人ノ遺產沒收若クハ土地所有權ノ禁制ト爲リテ現在尙ホ其迹ヲ絶タサルモノアリ

第四期 相互主義 人類社會ノ文化益開發シ通商貿易ノ便宜漸ク進歩スルニ隨ヒ排外主義ハ各國民

交通ノ自由ヲ妨害シ他ヲ排スルハ必スシモ己ヲ利スル所以ニ非サルコト益々明白ト爲ルニ從ヒ諸國ノ立法者モ亦國家ノ公益ヲ害セサル範圍内ニ於テ外國人ノ地位ヲ増進シテ内國人ノ地位ニ近カラシムルコトヲ力ムルニ至レリ然ルニ國家間ノ關係ハ個人間ノ關係ヨリハ利益ノ左右スル所ト爲ルコト更ニ甚シキヲ以テ一國カ他國ノ國民ヲ優待スルモ他國カ必スシモ自國ノ國民ヲ爾カ優待スルコトヲ期スヘカラサルカ故ニ他國カ自國臣民ヲ優遇スル程度ニ應ジテ其他國ノ臣民ヲ優遇スルヲ以テ原則トスルニ至レリ之ヲ稱シテ相互主義ト名ク此主義ヲ別テ外交上ノ相互主義ト立法上ノ相互主義ト爲ス

(一) 外交上若クハ條約上ノ相互主義トハ外國人ノ私權享有ノ條件ヲ條約上ノ擔保ニ繫ラシムル主義

ニシテ外國人ハ其本國カ條約上自國人ニ許與スル權利ト同一ノ權利ヲ享有スルモノト規定スルニ在リ佛國民法ヲ首メトシ白耳義、希臘、ルクセンブルヒ、大侯國、瑞西其他佛國民法ヲ採用セル諸國

ニ行ハルモノナリ

(二) 立法上ノ相互主義トハ外國ノ法律カ自國國民ニ許容スル程度ニ於テ外國人ニ私權ヲ許與スルヲ以テ原則トスル諸國ノ法律ヲ謂フ即チ立法上ノ相互主義ハ條約上ノ相互主義ヲ矯正シタルモノナ

リ獨逸民法施行前ノ普通法、奧大利國、瑞典、諸國、比利ヤ等ノ民法ハ之ニ屬ス

抑モ私權ノ保護及ヒ享有問題ハ一國私法上ノ問題ニシテ素ト國家ノ自由ニ規定スヘキ事項ニ屬スルカ故ニ相互主義ヲ以テ國家カ其私法上人類ノ權利ヲ保護スルノ基礎ト爲スカ如キコトハ現今ノ法律思想ト背馳スル不當ナル立法ト謂ハサルヘカラス又彼ノ法律相互主義ヲ採ル諸國カ同一ノ權利ヲ保護スルニ權利者所屬國ノ法律如何ニ依リテ之ヲ異ニスルカ如キハ私權ノ保護畫一ノ法律思想ニ背反スルモノナリ特ニ佛國民法ノ如ク相互主義ヲ採リ最モ恒久的性質ヲ要スル私權ノ享有ヲ外交政略ノ如何ニ依リテ臨機應變ノ與奪ヲ免カレサル條約上ノ規定ニ任スルカ如キハ一國ノ民法及ヒ通商條約ノ性質ニ違レサルモノニシテ内外人間ノ交通ノ自由ヲ害シ取引ノ安全ヲ妨クルヤ甚タ大ナリトス故ニ佛國法學者ハ羅馬法ノ市民法及ヒ萬民法ノ區別ヲ費用シテ私權ヲ民權(ドロワ、シグキル)ト自然權(ドロワ、ナチエール)トニ區別シ前者ハ原則上内國人ノミニ專屬スル私權ニシテ外國人ハ民法第一一條ノ規定ニ隨ヒ相互條約ノ規定ヲ俟テテ始メテ之ヲ享有スルコトヲ得ルモ後者ニ屬スル私權即チ自然權ニ至リテハ條約上ノ相互ヲ要セスシテ外國人モ等シク之ヲ享有スルモノトセリ然ルニ民權及ヒ自然權ノ區別ハ素ト機械的區別ニシテ學理上ノ根據ヲ有セサルカ故ニ學者ニ依リテ其標準ヲ異ニシテ外國人ノ地位ニ關スル法律思想漸ク發達スルニ隨ヒ自然權即チ外國人ノ當然享有スルコトヲ得ヘキ私權ノ範圍漸ク増進スルト同時ニ所謂民權ノ範圍ハ之ト反比例ヲ爲シテ愈々縮小シ現今ニ於テハ殆ト有名無實ト謂フモ敢テ過言ニ非サルニ至レリ是ニ於テ佛國現時ノ法學者ハ民法第一一條ノ解釋ニ苦ミ種種ノ理由ヲ附會シテ外國人ハ内國人ト同等ノ私權ヲ享有スルヲ以テ原則トスルコトヲ主張シ其結果トシテ學說

上ニ於テモ裁判例ニ於テモ民法ノ明文ト牴觸スルカ如キ反對解釋一般ニ行ハルルニ至レリ
佛國民法ヲ繼受シタル白耳義國ニ於テモ亦民法第一一條ノ規定ハ殆ト死文死法ニ歸シ立法上ノ改正ト
學說ノ進歩トニ依リ現今同國ニ於ケル外國人ハ相互條約ヲ要セスシテ殆ト一切ノ私權ヲ享有スルコト
ヲ得ルニ至レリ即チ唯養子ヲ爲シ又ハ養子ト爲ルノ權、後見人ト爲ル權等二三ノ私權ノミ尙ホ所謂民
權トシテ相互條約ノ擔保ヲ要スルノミ之ヲ要スルニ相互主義ヲ以テ私權ヲ享有ラ規定スルカ如キハ現
今ノ法律思想ト相容レサルカ故ニ或ハ立法上ノ改正ニ依リ或ハ裁判上ノ解釋ニ依リ漸ク其述ヲ絶ツニ
至ラントス

第五期 平等主義 私權ノ享有ニ關スル規定ノ相互主義ハ前述ノ如ク到底現今ノ狀態ニ適セサルカ故
ニ近世文明國ニ於テハ佛國民法ヲ模倣シタル諸國ニ於テモ皆此主義ヲ拋棄シテ内外人平等主義ヲ採
ルニ至レリ而シテ之カ先登第一ハ實ニ和蘭民法ナリトス蓋シ千八百二十九年ノ制定ニ係ル和蘭民法
及ヒ法例ハ近世國際私法ノ發達上一大時期ヲ爲スモノニシテ當代ニ於ケル最も進歩シタル法律思想
ヲ表彰シタルモノト謂フヘシ即チ同國法第九條ニ於テ「王國ノ民法ハ法律ニ定メタル例外ヲ除クノ
外和蘭人及ヒ外國人ニ對シ均シク之ヲ適用ス」ト規定シ而シテ民法第一編第一章ニ於テ私權ヲ享有
及ヒ喪失ヲ規定スルニ當リ外國人モ亦內國人ト等シク私權ヲ享有スヘキ能力ヲ有スルコトヲ明言セ
リ其法文ニ曰ク

第二條 王國領土内ニ在ル者ハ總テ自由人ニシテ私權ヲ享有スルノ能力ヲ有ス

奴隸及ヒ其他ノ人役ハ其性質又ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ王國內ニ於テハ之ヲ認メス
即チ第一項ニ於テ汎ク和蘭國內ニ現在スル人類ハ內國人ト外國人タルトヲ問ハス皆私權ヲ享有スヘキ

權利能力ヲ有スヘキコトヲ明言セリ而シテ第二項ニ於テ奴隸其他ノ人役ヲ認メサルコトヲ再說セル所
以ハ今日ニ於テハ當然自明ノ法理ニ屬スルモ當時ニ於テハ奴隸制度尙ホ存在セシカ故ニ和蘭國ハ他國
ニ於テ奴隸タル者ニシテ苟モ和蘭國內ニ在ル限ハ自由ノ人類トシテ私權ヲ享有スヘキコトヲ明カニセ
ンカ爲メナリ是レ實ニ私法ハ人類ノニシテ私權ハ人類ノ等シク享有スヘキ權利ナルコトヲ表彰シタル
嚆矢ナリトス
和蘭民法ニ次テ内外人平等主義ヲ明言シタル法律ハ千八百六十五年制定ノ伊國民法第三條ナリ其條文
ニ曰ク

外國人ハ內國臣民ニ屬スル私權ヲ享有ス

此法文ハ有名ナル「ビザチー」及ヒ「マンチニ」等カ自由、平等、博愛ノ三大綱領ニ基キ絶對的ニ内外
人平等主義ノ原則ヲ明言シタルモノニシテ外國人ハ如何ナル場合ニ於テモ伊國人ト同一ノ私權ヲ享有
スヘキモノトセリ抑モ當時ノ歐米諸國ニ於テハ排外主義又ハ相互主義ノ學說、立法例尙ホ嚴存セシニ
モ拘ハラズ伊國立法者ハ斷然無條件ニテ内外人ノ同權ヲ認メタルカ故ニ歐米諸國ノ法學者ハ皆滔滔數
千言以テ伊國立法者カ世界各國ニ率先シテ内外人平等主義ヲ斷行セシコトヲ稱贊セサルハナシ而シテ
伊國立法者ハ能ク民法第三條ノ精神ヲ保持シテ特別ノ制限ヲ設ケサルカ故ニ現今伊國ニ於ケル外國人
ハ伊國船舶所有權及ヒ漁業權制限ノ外ハ伊國人ト全ク同等ノ私權ヲ享有セリ

其他葡萄牙民法(千八百六十八年)第二六條、西班牙民法(千八百八十九年)第二七條等ニ於テハ「法律又
ハ條約ニ特別ノ規定アル場合ノ外、外國人ハ內國人ト同シク私權ヲ享有ス」ト規定シ「コンゴ」國法律
(千八百九十一年二月二十日)第一條ニ於テハ「外國人ハ總テノ私權ヲ享有シ其身體及ヒ財產ノ保護ニ

關シテハ内外人ト同一ノ權利ヲ有スト規定セリ又千八百七十八年南米八箇國間ニ調印シタル「リマ」條約草案第一條ニ於テハ伊國民民法第三條ト同シク「外國人ハ內國人ト同一ノ私權ヲ享有ス」ト規定セリ英國ニ於テハ千八百七十年以後彼ノ有名ナル歸化條例ヲ以テ慣習法ノ排外主義ヲ廢止シテ外國人ニ英國臣民ト同シク動産ノ不動産ヲ取得シ、所有シ、讓與スルノ權利ヲ付與セシカ故ニ英國現行法ハ即チ内外人平等主義ヲ採ルモノニシテ英國ニ於ケル外國人ハ英國船舶所有權其他「二」ノ例外ヲ除ク外內國人ト等シク私權ノ全體ヲ享有スルコトヲ得ルニ至レリ米國ニ於テハ各州ノ法律區區ニシテ一定セサルカ故ニ茲ニ之ヲ概論スルコトヲ得サレトモ外國人ハ不動産所有權及ヒ船舶所有權制限ヲ除クノ外ハ一般ニ內國人ト同シク私權ヲ享有スルヲ以テ原則トスルニ至リテハ則チ一致セリ其他瑞典、諾威、丁抹及ヒ露西亞ノ如キモ平等主義ヲ以テ原則トセサルハナシ

之ヲ要スルニ私法上ニ於ケル内外人平等主義ハ實ニ現今文明諸國ニ於ケル法律思想ノ進歩シタル結果ナリトス蓋シ現今ニ於テハ權利及ヒ人格ノ觀念ハ之ヲ形式的ニ論スルトキハ素ト各國立法者ノ制定物ニ外ナラサルモ之ヲ實質的ニ論スルトキハ各人ノ法律思想ニ存在シ世界ノ即チ人類ノ性質ヲ有スルモノニシテ各國ノ立法者カ必ス之ヲ保護セサルヘカラサル性質ヲ有ス國ヨリ國家ノ主權ハ萬能ナルカ故ニ一個人ノ權利及ヒ人格ヲ保護スルト否トハ全ク自由ニシテ人類ハ敢テ天賦固有ノ權利ヲ有スルニ非サルモ是レ一片ノ理論タルニ過キスシテ實際ニ於テハ必ス個人ノ權利ヲ保護シ人格ヲ認メサルヲ得サルナリ彼ノ碩學「イェリソグ」カ之ヲ形容シテ現今ニ於テハ權利及ヒ自由ハ尙ホ空氣及ヒ水ノ如ク內國人タルト外國人タルト問ハス各人ノ等シク享有スヘキ共有物ナリト云ヘルカ如キハ即チ此法律思想ヲ現ハシタルモノナリ又之ヲ國際法上ヨリ論スルトキハ各國ハ必スヤ個人ノ權利及ヒ自由ヲ認定スヘ

キ義務ヲ有スルモノニシテ安ニ之ヲ否認スルカ如キハ國際法上ノ慣例ニ違反スルノ結果ヲ來スモノナリ何トナレハ各國ハ其國民ノ權利自由ヲ保護シ且他國ヲシテ之ヲ尊重セシムルノ權利ヲ有スレハナリ近世ノ法律思想ハ斯ノ如ク私權ノ人類ノ性質ヲ認ムルカ故ニ彼ノ國際法協會ニ於テハ國際私法ノ原則ヲ調査シテ之ヲ一定スルニ當リ千八百八十年「オックスフォード」ノ會議ニ於テ滿場一致ヲ以テ左ノ平等主義ノ原則ヲ國際私法ノ八大原則ノ劈頭ニ掲グルニ至レリ

第一條 外國人ハ何レノ國家又ハ宗教ニ屬スルヲ問ハス現行法律ニ依リテ特ニ設ケタル例外ヲ除キ內國人ト同一ノ私權ヲ享有ス

且國際法協會ハ各國立法者ニ之ヲ採用スヘキコトヲ勸告シ左ノ趣旨ノ國際條約ヲ締結シテ之カ實行ヲ期スヘキコトヲ勸告セリ
其前文ニ曰ク本協會ハ各國民ニ於テ左ノ八大原則ヲ一般ニ採用シ且之ト同時ニ第一條ノ補則トシテ左ノ規定ヲ掲グル國際條約ヲ以テ之カ實行ヲ擔保スヘキ希望ヲ茲ニ表示ス

各締盟國ハ相互ニ他ノ締盟國全體ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ此規定ニ對シ新ニ何等ノ例外ヲモ設定セサルコトヲ約ス

現今尙ホ例外ノ存スル諸國ハ成ルヘク速ニ其內國法制ヲ改良シテ此規定ニ一致セシムヘキコトヲ約ス(國際法協會年報第五卷第五六頁)

右ノ決議ハ現今各國公法學者ノ一般ニ是認スル所ニシテ右ノ原則ハ現今文明諸國ノ立法者ノ概ネ採用スル所ナリ左レハ現今ニ於テハ一國ノ私法ハ決シテ其國民ノミニ專屬スルニ非スシテ況ク人類ヲ基礎トシ人類ノ爲メニ人類ノ權利ヲ保護スルモノナリ即チ之ヲ形容シテ言ヘハ私法ハ人類ノ權利ノナリ私權ハ人

類ノ享有スヘキ共有物ナリト謂フコトヲ得ヘシ故ニ碩學「ローラン」ハ嘗テ白國民法草案ヲ起草スルニ當リ從來諸國ノ立法例ヲ打破シテ其第五〇條ニ於テ私權ノ享有ヲ左ノ如ク規定セリ曰ク

凡ソ人ハ私權ヲ享有ス

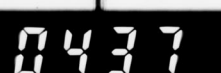
ト其理由ヲ説明シテ曰ク此草案ハ總テノ人ニ私權ノ享有ヲ付與スルコトニ依リテ外國人ヲ白耳義人ト同一視シタリ蓋シ我國公法ニ依リハ總テノ人類ハ皆法律上ノ人ニシテ外國人ヲシテ内國人ト等シク私權ヲ享有セシムルカ爲メニ伊國民法ノ如キ特別ノ明文ヲ要セサルナリト此草案ハ尙ホ未タ法典ト爲ルニ至ラスト雖モ外國人カ内國人ト同シク私權ヲ享有ストノ規定ハ自明ノ法理ニシテ理論上無用ナルコトヲ觀破シタル嚆矢ナリトス

白國民法草案ニ次テ編纂セラレ千九百年一月一日ヨリ法典トシテ實施セラレタル獨逸民法カ外國人ノ私權享有ニ關スル規定ヲ掲ケサルモ亦此趣意ヨリ由來スルモノナリ蓋シ獨逸民法施行法第三一條ニ外國政府又ハ外國人ニ對スル報復權ヲ規定セルハ外國人ハ特別ノ制限ノ外ハ内國人ト同シク私權ヲ享有スヘキ原則ヲ前提トスルモノナリ而シテ其前提タル平等主義ノ原則ヲ民法中ニ規定セサル所以ハ獨逸民法理由書ニ明記セルカ如ク現今ノ國際私法上ニ於テハ外國人カ内國人ト同シク私權ヲ享有スルコトハ既ニ當然自明ノ法理ニ屬スルカ故ニ敢テ特別ノ規定ヲ要セストセルカ爲メナリ

我民法第二條ニ於テ「外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享有ス」ト規定セルハ前掲諸國ノ立法例ニ倣ヒ内外人平等主義ノ原則ヲ明言シタルモノニシテ現今ノ文明國ニ於テハ既ニ明文ヲ要セサル自明ノ法理ニ屬スト雖モ我國現今ノ立法上外國人ノ權利ニ關スル主義ハ一大變遷ノ時期ニ際會セルカ故ニ特ニ此規定ヲ必要トセルナリ蓋シ我國ノ法制ハ最近五十餘年間ニ外人斬捨御免ノ敵視主

義ヨリ内外人平等主義ニ進ミタルモノニシテ墨船始メテ近海ニ出沒シタル當時ニ於テハ外國人ハ刑法

上ニ於テモ尙ホ人格ヲ認メザリシカ舊條約締結ノ際ヨリ漸ク人格ヲ認メラルルニ至リシモ仍ホ外國人ハ原則上無權利ナリシナリ然ルニ維新以來我國文化益々開發シ法律制度亦範ヲ泰西ニ採リテ漸ク完備スルニ隨ヒ國法ノ原則上外國人無權利ノ舊主義ハ漸ク迹ヲ潛メ近世文明諸國ノ通義ニ則リテ外國人ノ權利自由ヲ保護シ其國家ノ公益上ヨリ制限ヲ要スルカ如キ權利ハ例外トシテ一之ヲ明言スルニ至レリ且無條約國ノ人民ニ對シテモ我國ノ實際上一般外國人ノ享有セル權利保護ヲ付與スルヲ以テ原則トセリ今此等ノ事實ヲ法的ニ綜合スルトキハ我國現今ニ於テハ民法第二條ノ規定ヲ俟タズシテ外國人ハ法令ニ特別ノ制限アル場合ヲ除クノ外ハ内國人ト同シク私權ヲ享有スルヲ以テ原則トスト謂ハサルヘカラス即チ我國法律ハ法律思想ノ自然的發達ニ由リ暗晦裡ニ内外人平等主義ノ原則ヲ採用シテ外國人ノ私權ヲ保護スルニ至リシト蓋シ争フヘカラサルノ事實ナリ而シテ此法律思想ノ發達ハ即チ我國文明ノ進歩ニシテ我國民カ歐米列國ト對等ノ國交際ヲ爲スノ權利ヲ有スルニ至リタル所以ノモノ亦實ニ此ニ存ス唯從來此原則ヲ一般的ニ明言シタル法文存セザリシカ故ニ若シ新民法ヲ編纂スルニ當リ獨逸民法ノ如ク此原則ヲ明言セザルトキハ或ハ法律ノ適用上誤解ノ虞アルカ故ニ外國人ノ地位ニ關スル解釋ヲ一定センカ爲メ理論上寧ろ無用ニ屬スルモ過渡時代ニ於ケル法典トシテ今日現行ノ區別ヲ概括的ニ明言セルノミ故ニ民法第二條ハ我國立法ノ沿革の理由ノ爲メニ必要ナル規定ナリト謂フヘシ之ヲ要スルニ私法上ニ於ケル内外人平等主義ハ實ニ現今文明諸國ニ於ケル通則ニシテ荷モ文明國ヲ以テ自任スル國ノ立法者ハ一トシテ明文上或ハ實際上外國人ハ禁止ノ明文アル場合ヲ除クノ外、内國人ト等シク私權ヲ享有スヘキコトヲ認メサルハナシ唯夫レ平等主義ノ原則ノ例外タル禁止ノ多少ニ至リ



テハ國情ニ依リテ其程度ヲ異ニシ或ハ伊國、英國ノ如ク僅ニ一、二ノ制限ニ過キサルモノアリ或ハ獨、佛、米ノ諸國ノ如ク四五ノ禁止アルモノアリテ固ヨリ一定セスト雖モ現今諸國ニ於テ外國人ニ禁止又ハ制限セル私權ハ概ネ左ノ事項ニ屬ス

(一) 土地所有權ノ制限 (二) 船舶所有權ノ制限 (三) 漁業權ノ制限 (四) 鑛業權ノ制限 (五) 訴訟上ノ保證ノ義務

第二章 外國人ノ地位ノ現存

本章ニ於テハ我國ニ於ケル外國人ノ現在ノ地位如何ヲ説明スヘシ

我國法令上ニ於ケル外國人ノ地位ハ之ヲ公權及ヒ私權ニ區別シテ論及セントス然ルニ公權、私權及ヒ公法、私法ノ區別ハ古來種種ノ學說アルモ未タ一定シタル學說ナシ隨テ是等ノ區別ノ研究ハ他ノ學科ニ於テ諸君ノ研究ニ一任シ予ハ茲ニ唯普通ノ學說ニ從ヒ國家ト個人トノ間ニ存スル法律關係ヲ規定スル法律ヲ公法トシ個人相互ノ間ニ存スル法律關係ヲ規定スル法律ヲ私法トシ斯ル公法ノ規定ニ依リテ保護セララルル利益ヲ公權トシ私法ノ規定ニ依リテ保護セララルル利益ヲ私權トシ左ニ我國現行法令上ニ於テ外國人カ享有スル所ノ公權及ヒ私權ノ大要ヲ説明スヘシ

第一節 公權

公權ヲ分チテ又左ノ三種トス

(一) 個人カ國家ニ對スル關係ヨリ生スル權利即チ所謂國民權又ハ人權「ドローワー、ドロンム」ニシテ

個人的自由ノ保護ノ目的トスル權利ナリ

(二) 個人カ國家ニ對シテ保護又ハ救助ヲ請求スル權利

(三) 個人カ國家統治權ノ行使ニ參與スルノ權所謂參政權ニシテ一個人カ國家的共同團體ノ一員タル資格ニ於テハ國家ノ機關トシテ働キ或ハ國家機關ノ組織ニ參與スルノ權利ナリ

第一款 個人的自由權

個人的自由權又ハ人權トハ國家ノ干渉ヲ受ケサル自由ノ範圍ヲ謂フ蓋シ個人ノ自然的行為ノ自由ハ多クハ國家ノ制限ヲ受ケサルモノナリ隨テ此等ノ行為ニ對シテ特別ノ明文ヲ以テ之ヲ保障スルノ必要ナキモ或種ノ行為ハ古來國家ノ制限ヲ受ケタルカ故ニ所謂國民ノ基本權又ハ人權ナルモノヲ確保シ依リテ以テ國家ノ制限ヲ除却スルノ必要アリ近世公法ノ發達ハ即チ此必要ヨリ由來シタルモノニシテ英國ノ權利ノ憲章ヲ始トシ米國獨立ノ憲法等ニ於テ益々之ヲ確認シ殊ニ紀元千七百九十一年佛國大革命ノ憲法ニ於ケル所謂人權ノ宣言ニ依リテ益々其範圍ヲ擴張セシ以來各國ノ憲法ニ於テ個人ノ自由權ヲ保障スルノ習慣ヲ生セリ即チ此等ノ制限ヲ除去シタル憲法及ヒ法律ノ規定ハ同時ニ國家ノ干渉ヲ免カサルノ權利ヲ各個人ニ與フルモノナリ故ニ個人的自由權ハ國家ノ行政行為ニ對スル制限ニシテ此等ノ事項ハ概ネ諸君カ行政法ニ於テ研究セラルヘキ點ナレトモ今外國人カ如何ナル個人的自由權ヲ享有スルヤヲ説明スルニ當リ便宜ノ爲メ之ヲ左ノ四項ニ別チテ略述セントス

(一) 往來、居住ノ自由 (二) 身體ノ自由、所有權及ヒ住居ノ不可侵 (三) 信教、言論、著作、集會及ヒ結社ノ自由 (四) 營業ノ自由

以上ニ掲ケタル諸種ノ自由權ニ付テ予ハ外國人カ我國法上如何ニ之ヲ享有スルカ又如何ナル制限ヲ受ケツツアルカヲ研究スヘシ

此等ノ自由權ハ近世文明國ニ於テハ外國人モ亦之ヲ享有スルヲ以テ原則トスルモ外國人ハ必スシモ内國人ト同一ノ程度ニ於テ之ヲ享有スルモノニ非ス又此等ノ權利ハ往往行政權ノ行使ニ依リテ左右セララルルノ虞アルヲ以テ各國ハ其在外臣民ノ權利ヲ保護スルノ必要ヨリ概ネ通商條約ヲ以テ此等ノ權利ヲ享有セシムルノ擔保ヲ規定スルヲ例トス故ニ此等外國人ノ權利ヲ論及スルニ當リテハ我現行ノ法令ヲ攻究スルト同時ニ我國現行ノ條約ヲ研究セサルヘカラス

第一 往來居住ノ自由 從來我國ニ來住スル外國人ハ領事裁判權ノ特典ニ浴シタルト同時ニ其特典ヲ享受スル範圍ハ所謂開港地ニ限ラレタルモノニシテ其區域以外ニ出ツルトキハ單純ノ旅行ト雖モ皆許可ヲ受クルコトヲ要シタリ然ルニ明治二十一年日墨間ノ通商條約ヲ首メトシ明治二十七年以來歐米諸國ト結ヒタル通商航海條約ニ於テハ近世文明國間ノ慣例ニ基キ彼此對等ノ權利義務ヲ規定シ互ニ其臣民ノ往來居住ノ自由ヲ與フヘキコトヲ約定シタリ即チ之ヲ例示セハ日英條約第一條第一項ニ「兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ到リ旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘクテシテ其身體及ヒ財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ」ト規定セル如キ其一例ナリ

此等ノ改正條約ハ明治三十二年七月以來實施セラレタルモノニシテ現今ニ於テハ歐米條約國民ハ汎ク我國版圖内ニ於テ完全ナル往來居住ノ自由ヲ享有スルモノナリ然レトモ外國人ノ享有セル往來居住ノ自由ハ内國人ノ如ク絕對的ニ非スシテ(一)入國ノ拒絶及ヒ(二)犯罪人引渡ニ依リテ之ヲ制限セラルルコトアリ即チ若シ我國ノ安寧秩序ヲ害スルノ虞アル外國人ニ對シテハ我政府ハ其

來住ヲ拒絶シ又ハ既ニ來住セル者ヲ國外ニ放逐スルコトヲ得而シテ斯ル場合ニ其本國政府ハ放逐セラレタル者ヲ必ス引取ラサルヘカラス之ニ反シテ帝國臣民ハ如何ナル場合ニモ海外ヨリ我國ニ歸來スルコトヲ禁止セララルコトナク又我國外ニ放逐セララルコトナシトス帝國憲法第二二條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及ヒ移轉ノ自由ヲ有ス」ト隨テ帝國臣民ノ帝國内ニ於ケル居住ノ自由ヲ制限セントスルトキハ必ス法律ノ形式ヲ以テ爲ササルヘカラス而シテ今日ニ至ルマテ我立法者ハ近世文明各國間ノ通義ニ則リ帝國臣民ヲ國外ニ放逐スルコトヲ規定セル法律ヲ發布セサルカ故ニ帝國臣民ハ絕對的ニ我國内ニ居住スルコトヲ得ルヤ明カナリ此點ニ於テ内國人ハ外國人ト異ナル特典ヲ有ス

外國人ノ來住拒絶及ヒ放逐ニ付テハ實際上屢々複雑ナル問題ヲ生スルカ故ニ千八百九十二年國際法協會ハ(一)外國人ノ來住ヲ許否シ又ハ一定ノ條件ヲ以テ之ヲ認許シ若クハ放逐スルノ權利ハ各國主權獨立ノ論理的且必然の結果ナリト雖モ(二)人道及ヒ正義ノ觀念ハ各國ヲシテ其公安ト兩立スヘキ範圍内ニ於テ現ニ其國ニ到來シ又ハ現ニ在留セル外國人ノ權利及ヒ自由ヲ尊重スルニ非サレハ此權利ヲ行ハサラシムルカ故ニ(三)此國際上ノ觀察點ヨリ一般ニ異議ナク認メラルヘキ原則ヲ定ムルノ必要ヲ考ヘ外國人ノ入國及ヒ放逐ニ關シ列國ノ共ニ遵守スヘキ規則ヲ提出スルニ至レリ今其主要ナル規則ヲ摘抄スレハ左ノ如シ

第六條 風俗又ハ文化ノ根本的差異若クハ群ヲ成シテ渡來スル外國人ノ危險ナル團體又ハ増加ノ如キ公益上重大ナル理由存スル場合ニ限り國內ニ外國人ノ自由ニ渡來スルコトヲ一般且永久的ニ禁止スルコトヲ得

第七條 單ニ内國労働者ノ保護ノミヲ以テ來住拒絶ノ理由ト爲スコトヲ得ス
第八條 戰爭、内亂又ハ疾疫流行ノ際外國人ノ渡來ヲ一時制限シ又ハ禁止スル權利ハ此規定ノ爲

メニ妨ケラルコトナシ

第十條 外國人ノ渡來又ハ在留ヲ禁過センカ爲メ苛重ノ税金ヲ賦課シテ禁スヘカラス
第十二條 浮浪者、乞食又ハ公衆衛生ヲ害スヘキ性質ノ疾病人若クハ外國ニ於テ人ノ生命、健康、

財產又ハ公衆信用ニ關スル罪ヲ犯シタル確實ノ嫌疑アル者及ヒ此等ノ犯罪ノ爲メ刑罰ヲ宣告セ
ラレタル外國人ニ對シテハ渡來ヲ禁止スルコトヲ得

之ヲ要スルニ浮浪者、赤貧者、傳染病者、犯罪人等來住者ノ一身の理由ヨリシテ國家カ警察又ハ公安
ノ爲メ其來住ヲ禁止スルコトヲ得ルハ一般ノ來住自由ノ例外トシテ國際法ノ認ムル所ナルカ故ニ條
約ニ此例外的禁止ヲ明言スルト否トヲ問ハサルモノナリ例ヘハ日英條約、日伊條約及ヒ日獨條約等
ニハ來住ノ自由ヲ規定スルノミニシテ此例外ヲ明言セサルモ日米條約、日露條約、日丁條約第二條末
項ニ於テハ第一條及ヒ第二條ニ保障セル自由ハ絕對のニ非スシテ警察及ヒ公安ニ關スル法令ノ制限
ニ從フヘキコトヲ明言セリ此等ノ明言ノ有無ニ拘ハラス我國ハ前述ノ外國人ニ對シ來住ヲ禁止スル
コトヲ得ルハ當然ノコトナリヤス

來住者ノ身分、職業ニ由リテ或ハ來住ノ自由ヲ制限セントスル者アリ即チ一國ニ來住スル外國人ニ
ハ他國ノ官吏アリ公吏アリ或ハ學藝ヲ授クル教師、學業ヲ目的トスル留學生、其他商人、工業人又ハ
單純ニ快樂ノ爲メニ渡來スル旅客アリ或ハ勞役ニ從事スル労働者アリ今國家ハ此各種類ノ外國人ニ
對シテ其來住ノ制限ヲ異ニスルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題アリ例ヘハ北米合衆國カ支那人ノ來住ヲ禁

タル權利ヲ實行シ自己ノ相續權ヲ侵害スルノ事實アルコトヲ知了スルヲ要スルモノトス
法律カ時効ノ起算點ヲ相續人又ハ其法定代理人カ權利侵害ノ事實ヲ知了シタル時ニ置キタルハ權利者
ノ不知ノ間ニ時効ヲ進行セシメサルノ趣旨ニ出テタルモノナリト雖モ若シ相續權ノ時効ハ常に相續人
又ハ其法定代理人カ權利侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年ヲ經過シテ始メテ完成スヘキモノトセハ時
ニ相續開始後二十年ヲ經過スルモ尙ホ相續權ノ時効完成セザルノ結果ヲ生スヘシ斯ノ如キハ普通時効
ニ對シ特ニ短期ノ時効ヲ設ケタル精神ヲ沒了スルモノナリ故ニ民法ハ相續開始ノ時ヨリ二十年間權利
ノ行使ナキトキハ相續人又ハ其法定代理人カ權利侵害ノ事實ヲ知リタルト否トヲ問ハス時効完成スヘ
キモノト定メ以テ相續權ニ關スル特別時効ハ如何ナル場合ニ於テモ普通時効ヨリ長期ニ至ルコトナキ
モノト爲シタリ

第五節 相續財產ニ關スル費用

相續財產ニ關シテ生シタル費用ハ之ヲ以テ相續人ノ負擔ニ歸スヘキモノナルヤ將タ相續財產ノ負擔ニ
歸スヘキモノナルヤ相續人ハ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルモノナルカ故ニ此問題ハ一見甚ダ實益ニ
乏シキ問題ナルカ如シト雖モ實際ニ於テハ大ニ然ラサルモノアリ相續人ハ相續ニ關シ單純又ハ限定ノ
承認ヲ爲シ若クハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ルモノナルコト後ニ述フルカ如クナルヲ以テ相續人カ相續ノ限
定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル場合ニ於テハ相續財產ニ關スル費用カ相續人ノ負擔タルヤ將タ相續財產ノ
負擔タルヤハ直チニ關係者ノ利害ニ影響スルモノナリ相續人カ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テモ相續
債權者又ハ相續人ノ債權者カ相續財產ノ分離ヲ請求シタルトキハ此問題ノ決定如何ニ依リ相續債權者

又ハ相續人ノ債權者ノ孰レカ一方ハ時トシテ其費用ノ限度ニ於テ辨濟上ニ缺損ヲ受クルヲ免レザルモノトス

相續財產ニ關スル費用ハ相續財產ニ起因シテ生シタルモノナルカ故ニ其負擔ハ相續財產ニ在ラザルヘカラス(九六七條一項本文九九三條)而モ其支辨ハ相續債權又ハ遺贈ノ辨濟ニ先ダサルヘカラス何トナレハ相續財產ニ關スル費用ハ相續債權及ヒ遺贈ニ對シ一種ノ其益費用ヲ爲スモノナルヲ以テナリ

第九六七條ニ於テ「相續財產ニ關スル費用」ト稱スルモノハ如何ナル費用ヲ指稱スルモノナルヤニ付テハ時トシテ頗ル疑ハシキモノナキニ非ス相續財產ノ管理、清算、配當等ニ因リテ生スル費用カ相續財產ニ關スル費用ナルコトハ勿論ナリト雖モ相續人カ其承繼シタル不動産ヲ登記スルカ爲メニ要スル登録稅、之ヲ以テ相續財產ニ關スル費用ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤ凡ソ不動産ハ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テハ登記ニ因リ第三者ニ對スル對抗力ヲ確保スルニ非サレハ取得ノ目的ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ登記ヲ爲スコトハ取得ニ伴フ當然ノ手段ナリ相續人カ其承繼シタル不動産ノ登記ヲ爲シ之カ爲メニ登録稅ヲ要シタリトセハ是レ則チ財產ヲ相續シタルカ爲メニ費用ヲ要シタルモノニシテ之ヲ以テ相續財產ニ關スル費用ナリト爲ササルヘカラス

法律カ相續財產ニ關スル費用ハ其財產中ヨリ支辨スヘキモノト爲シタルハ其費用ハ相續財產ノ管理、清算、配當等ヲ爲スニ付キ普通生スヘキヲ以テナリ若シ相續財產ニ關スル費用ニシテ相續人ノ過失ニ因リテ生シタルモノナルトキハ其費用ハ相續財產ノ管理、清算、配當等ニ付キ普通生スヘキモノニ非サルカ故ニ之ヲ以テ相續財產ノ支辨ニ歸セシムルコト能ハス過失アル相續人自ラ之ヲ負擔セサルヘカラスルモノトス(九六七條一項但書、九九三條)

相續人ハ其遺留分ヲ保全スルカ爲メ被相續人ノ爲シタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ(二二三四條)而シテ相續人カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財產ハ相續ニ基因シテ取得シタル財產ナルカ故ニ是レ亦相續財產ニ外ナラス故ニ若シ法律ニ於テ何等ノ除外例ヲ設ケザルトキハ第九六七條第一項ノ規定ニ依リ相續財產ニ關スル費用ハ此財產ヲ以テモ之ヲ支辨セサルヘカラス其結果トシテ贈與ノ減殺ハ時ニ相續人ヲ利セスシテ却テ相續債權者ヲ利スルニ至ルコトアルヘシ斯ノ如キハ法律カ相續人ヲシテ被相續人ノ爲シタル贈與ノ減殺ニ因リ其遺留分ヲ保全スルコトヲ得セシメントシタル趣旨ニ反スルモノナリ故ニ法律ハ特ニ例外ノ規定ヲ設ケ遺留分權利者タル相續人カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財產ヲ以テハ相續財產ニ關スル費用ヲ支辨スルコトヲ要セサルモノト爲シタリ(九六七條二項、九九三條)

本節ノ説明ヲ終ルニ臨ミ一言以テ附加スル所ナキ能ハス民法中相續開始後ニ生シタル費用ニシテ相續財產ノ負擔タルヘキコトヲ規定シタルハ第九六七條及ヒ之ヲ準用シタル第九九三條ノ兩條ニ過キス而シテ其規定スル所ハ一ニ相續財產ニ關スル費用ノミニ止マレリ相續財產ニ關スル費用トハ既ニ述(タル如ク其管理、清算、配當等總テ相續財產ニ起因シテ生シタル費用ヲ謂フモノナルヲ以テ被相續人ノ葬式費用ノ如ク其發生原因カ被相續人ノ身體ノ處置ニ在リテ其財產ノ處置ニ在ラザルモノハ之ヲ包含セス故ニ相續開始後ニ生シタル被相續人ノ葬式費用カ相續財產ノ負擔タルヤ否ヤニ付テハ民法ハ明カニ規定ヲ設ケザルモノナリ然レトモ葬式費用ノ先取特權ヲ定メルタ第三〇六條及ヒ第三〇八條ノ規定ヲ見ルニ該兩條ハ葬式費用ヲ以テ相續財產ノ負擔トシ相續財產ニシテ之ヲ支辨スルコト能ハサルトキハ之ヲ以テ扶養ノ義務アル親族又ハ戸主ノ負擔トスルコトヲ前提トス葬式費用モ亦原則トシテハ相續財

産ノ負擔タルヘキモノナリト謂ハサルヘカラス予ハ民法カ條文ヲ省略シ相續編ニ於テ相續財産ニ關スル費用ニ付テノミ規定ヲ爲シ葬式費用ニ付テハ何等ノ規定ヲ爲サザリシヲ惜ムモノナリ

第二章 相續人ノ資格

家督相續ト遺產相續トハ相續ノ目的ヲ異ニスルカ故ニ相續人タルヘキ者ノ資格モ亦此二者ノ間多少ノ相違ナキコト能ハス故ニ相續人ノ資格ニ付テハ區別シテ之ヲ論セントス

第一節 家督相續人ノ資格

家督相續人タルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- (一) 相續ノ開始ノ時ニ於テ存在スルコト
 - (二) 法律上ノ缺陷ナキコト
 - (三) 裁判上ノ失權ナキコト
 - (四) 日本ノ國籍ヲ有スルコト
 - (五) 他家ノ戸主タラサルコト
 - (六) 他家ノ推定家督相續人タラサルコト
- 以下順次ニ右ノ要件ヲ細說セントス
- 第一 家督相續人タルニハ相續開始ノ時ニ於テ存在スルコトヲ要ス
- 凡ソ權利義務ハ主體ヲ離レテ存在スルコト能ハサルカ故ニ既ニ權利義務ノ承繼アリト云ヘハ之ヲ承繼

スヘキ主體ナカルヘカラス家督相續人ハ家督相續ニ因リ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルヲ以テ家督相續人タル第一ノ要件ハ實ニ其人カ相續開始ノ當時ニ於テ存在スルコトニ在ラサルヘカラス而シテ人ノ存在ハ出生ニ始マリ死亡ニ終ルモノナルカ故ニ(一)相續開始ノ時ニ於テ未タ出生セザル者及ヒ(二)相續開始ノ時ニ於テ既ニ死亡シタル者ハ家督相續人タルコトヲ得サルモノトス

相續開始ノ時ニ於テ既ニ死亡シタル者カ相續權ヲ有セザルコトニ付テハ特ニ言說ヲ爲スヲ要セスト雖モ未タ出生セザル者ノ相續權ナキコトニ付テハ少シク説明スル所ナルヘカラス出生トハ嚴格ニ論スルトキハ生兒カ母體ヲ離レテ獨立ノ存在ヲ有スルニ至ルヲ謂フモノナルカ故ニ懷胎セラルルモ苟モ母ノ體内ニ在ル間ハ之ヲ以テ出生ト爲スコト能ハス隨テ胎兒ハ家督相續人ト爲ルコト能ハサルヘシ然レトモ斯ノ如キハ胎兒ノ利益ニ對スル保護其完キヲ得サルノミナラス亦其父母其他ノ親族ノ期待ヲモ満足セシムル所以ニ非ス故ニ羅馬ニ於テハ「胎兒ノ利益ヲ保護スルニ付テハ之ヲ以テ既ニ生レタルモノト看做ス」(Iupans conceptus pro nato habetur, quoties de commodis eius agitur)ノ原則行ハレ歐洲諸國ノ立法例モ亦多クハ相續ニ關シテハ胎兒ノ權利ヲ認メタリ(佛民七二五條伊民七二四條獨民一九二三條)我邦ノ慣例ハ從來胎兒ノ相續權ヲ認メ舊民法ハ人事編第二條ニ於テ羅馬法ノ原則ト同一ノ規定ヲ設ケタリ新民法ハ胎兒ノ利益ヲ保護スルニ付テハ之ヲ以テ既ニ生レタルモノト看做スト謂フカ如キ廣汎ナル規定ヲ設ケスト雖モ胎兒ノ利益ヲ保護スヘキ場合ニ於テハ特ニ之カ規定ヲ爲シ(七二一條八三一條一〇六五條特ニ第九六八條第一項ニ於テハ)「胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做ス」コトト爲シタルヲ以テ相續開始ノ時ニ於テ既ニ懷胎セラレタル以上ハ尙ホ母ノ體内ニ在ル者ト雖モ法律ノ假定ニ依リ出生シタル者ト同視セラレ家督相續人タル權利ヲ有スルモノナリ故ニ予カ相續開始ノ時

ニ於テ未タ出生セザル者ハ家督相續人タルコトヲ得スト謂ヒシハ相續開始當時ニ在リテ法律上ノ出生ヲモテササル者即チ未タ懐胎セラレザル者ハ家督相續人タルコトヲ得ストノ意義ヲ有スルモノト解セザルヘカラス

家督相續開始ノ時既ニ懐胎セラレタル者ハ相續ノ權利ヲ有スルカ故ニ懐胎カ相續開始前ニ在ルトト其後ニ在ルトハ直チニ權利ノ消長ニ關係アルモノトス生兒ノ嫡出子タルヤ否ヤヲ定ムルコトニ付テハ各國ノ立法例ハ出生ノ時ヨリ一定ノ期間ヲ定メ生兒ハ其間ニ懐胎セラレタルモノト推定スルヲ常トスルカ故ニ(八二)〇條佛民法三二二條乃至三二五條伊民法一六〇條獨民法一五九二條)問題ノ解決ハ困難ニ非スト雖モ相續開始ノ時ニ於テ既ニ懐胎セラレタルヤ否ヤニ付テハ諸國ノ民法ハ多クハ何等ノ推定ヲ設ケザルヲ以テ若シ嫡出子ニ關スル民法ヲ推定ラ此場合ニ適用スルコトヲ得ルニ非サレハ問題ヲ決定スルハ容易ニ非ス獨逸民法第一五九二條ハ親族ニ關スル章中ニ規定セラレ而モ其條文ハ廣ク懐胎期ノ何レニ在ルヤニ付テ規定スルカ故ニ之ヲ以テ總テノ場合ニ適用セラルヘキモノト解スルニ於テ何等ノ妨ナシト雖モ我民法第八二〇條及ヒ佛民法第三二二條乃至三一五條伊民法第一六〇條ハ専ラ子カ婚姻中ニ懐胎セラレタルヤ否ヤニ關シテ規定シタルモノナルカ故ニ子カ相續開始ノ時ニ於テ懐胎セラレタルヤ否ヤノ問題ニ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキモノナリト謂ハサルヘカラス故ニ佛國ニ於ケル者ノ議論ハ此問題ニ對シ積極消極折衷ノ三說ニ分レタリ積極論者ハ二箇ノ場合ハ其ニ同一ノ推定ヲ適用スヘキ理由ヲ有スルカ故ニ之ヲ其ニ一ニ適用シテ他ノ一ニ適用セザルハ立法ノ精神ニ反スト主張シ消極論者ハ法律ノ推定ハ嚴正ニ解釋スルコトヲ要ス之ヲ敷衍スヘカラスト論難折衷論者ハ相續權ニ關スル問題カ嫡出子ニ關スル問題ニ關聯シテ起リタルトキ例ヘハ父ノ死亡後二百九十九日目に出生シタル

ル子ニ相續權アリヤ否ヤヲ定ムヘキ場合ニ於テハ嫡出子ナルヤ否ヤノ問題ト相續權アリヤ否ヤノ問題トヲ分離シテ觀察スルコト能ハサルカ故ニ前者ニ適用セラレタル推定ハ自ラ後者ニ適用セラレザルヲ得ス之ニ反シテ相續權ニ關スル問題カ嫡出子ニ關スル問題ト獨立シテ生シタルトキ例ヘハ兄ノ死亡後二百九十九日目に生レタル弟カ相續權ヲ有スルヤ否ヤヲ定ムヘキ場合ニ於テハ縱令弟カ嫡出子タルコト確定スルモ之カ爲メニ其弟ハ兄ノ死亡ノ際ニ懐胎セラレタルモノト見ルヘキ憑據ト爲ルヘキモノニ非サルヲ以テ法律カ前者ノ爲メニ設クタル推定ハ之ヲ後者ニ引用スルコトヲ得サルモノト爲セリ我民法ハ兄弟ヲ以テ當然相續權ヲ有スルモノト爲ササルカ故ニ我民法ノ下ニ於テハ積極消極兩說中ニ於テ其ニ一ヲ選フノ外折衷說ヲ唱フルノ必要ナシ而シテ嚴正ニ論スルトキハ Bandry 氏ノ主張スルカ如ク消極說ヲ以テ法律解釋ノ當ヲ得タルモノト爲ササルヘカラサルヲ以テ予ハ此說ニ左祖スルモノナリ但消極說ハ事實ノ實際ニ於テハ積極說ヲ取ルト其結果ヲ異ニセス何トナレハ法律ノ推定ナキ以上ハ裁判官ハ事實ノ推定ニ依ラサルヘカラス而シテ嫡出子ニ關スル法律ノ推定ニシテ懐胎ニ關スル醫學上ノ眞理ニ基クモノタル以上ハ裁判官ハ法律ノ推定トシテ之ヲ適用セザルモ事實ノ推定トシテ自ラ之ニ依ラサルヲ得サルヘキヲ以テナリ

法律カ胎兒ヲ以テ既ニ生レタルモノトシテ其相續權ヲ認メタルハ胎兒ハ早晚事實ノ出生ニ因リ獨立ノ人格ヲ有スルニ至ルヘキヲ以テ豫メ其利益ヲ保護シタルナリ即チ法律カ胎兒ノ相續權ヲ認メタルハ其獨立ノ人格ヲ有スルニ至ルコトヲ條件トスルモノナリ故ニ胎兒ニシテ死體ニテ生レ嘗テ一日モ獨立ノ存在ヲ有スルコトナキトキハ法律ノ與ヘタル利益ナル推定ハ其效ヲ失ヒ相續ニ付キ初ヨリ何等ノ關係ナカリシモノト爲ルヘキモノトス(九六八條二項)佛民法ニ於テハ胎兒ヲ以テ既ニ生レタルモノト看做

0443

スニハ(一)生存シテ出生スルコト(Infant)(二)生存シ得ヘキカヲ備ヘテ出生スルコト(Major)ニ條件ヲ要スト爲シタリ生存シテ出生スルモ生存シ得ヘキカヲ備ヘサルトキハ死體ニテ生レタルト殆ト選フ所ナキカ故ニ佛民法カ此ニ條件ヲ必要トシタルハ理論ニ於テ間然スル所ナシ然レトモ生兒カ生存シ得ヘキカヲ備フルヤ否ヤヲ定ムルハ極メテ難事ニ屬スルカ故ニ斯ノ如キ規定ハ時ニ紛争ヲ生スルノ因ト爲ルヘシ故ニ伊民法ハ疑アル場合ニ於テハ生存シテ出生シタル證據アル者ハ生存シ得ヘキカヲ備ヘタルモノト推定シ以テ紛争ヲ防止セントセリ獨逸法系ノ立法ハ更ニ一步ヲ進メ胎兒ハ生存シテ出生スルノ一事ニ因リ其相續權確定スルモノト爲シ其生存シ得ヘキカヲ備ヘテ出生シタルヤ否ヤハ之ヲ問ハス我民法ノ規定ハ獨逸法系ノ立法例ト其趣ヲ一ニスルモノナリ

第二 家督相續人タルニハ法律上ノ缺格ナキコトヲ要ス
被相續人又ハ相續ノ先順位者ニ對シ極惡ノ罪行ヲ犯シタルモノヲシテ平然トシテ相續人ノ人格ヲ承繼スルコトヲ得セシムルコトハ獨リ道義ノ觀念ニ悖反スルノミナラス若シ斯ノ如キ非行ヲ爲シタル者ヲシテ尙ホ且相續ヲ爲スコトヲ得セシムルトキハ多クノ場合ニ於テハ行爲者ハ非行ノ目的ヲ達スルコトヲ爲リ品性ノ下劣ナル徒輩ハ時ニ相續權ノ實行ヲ速ナラシムルカ爲メ敢テ斯ノ如キ非行ヲ企ツルニ至ルナキヲ保セス又相續ニ關スル遺言ハ直チニ人ノ相續權ノ消長ニ影響スルモノナルカ故ニ相續ニ付テハ遺言者ノ真意ヲ托ケ以テ遺言ノ利益ヲ享ケ又ハ其不利益ヲ避ケンツルコト往往ニシテ吾人ノ實見スル所ナリ而シテ此種ノ非行ハ元來相續上ニ於ケル利益ナル地位ヲ獲得セントスルニ起因スルモノナルカ故ニ各國ノ民法ハ其規定ニ多少ノ相違アリト雖モ大體ニ於テハ被相續人ニ對シ極惡ノ罪行ヲ犯シタル者又ハ被相續人ノ遺言ノ自由ヲ妨ケタル者ヲ相續ヨリ排斥シテ不正ノ慾望ヲ達セシメス依リテ以

テ犯罪誘起ノ源泉ヲ杜塞センコトヲ力メタリ我民法モ亦此例ヲ蹈襲シ家督相續人ニシテ一定ノ非行ヲ爲シタルトキハ其資格ヲ喪失スヘキモノト爲シタルヲ以テ家督相續人タルニハ法律ノ定メタル缺格ノ事由ナキコトヲ要スルモノナリ

(甲) 缺格ノ事由 ハ掲ケテ第九六九條ノ各號ニ在リ其規定左ノ如シ
第九六九條 左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

- 一 故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
 - 二 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セザリシ者但其者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス
 - 三 詐僞又ハ強迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者
 - 四 詐僞又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者
 - 五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者
- 右ニ舉ケタル事由ノ其一アルトキハ家督相續人ハ其資格ヲ喪失スルモノトス然レトモ元來第九六九條ハ人ノ失權ニ關スル規定ナルカ故ニ之ヲ解釋スルニハ嚴ニ明文ニ依據スルコトヲ要ス精神ヲ推シテ之ヲ敷衍スヘカラス予ハ少シク進ミテ之カ細説ヲ試ミント欲ス
- (一) 第九六九條第一號ノ事由 第九六九條第一號ハ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ殺

害シ又ハ殺害セントシタル極惡ノ徒ヲ相續ヨリ除斥セントスルモノナリ相續ノ先順位者ヲ殺害セントシタル者ヲ總テ家督相續ヨリ除斥スル立法上ノ當否ハ暫ク之ヲ措キ同號ノ事由ニ因リ家督相續上ノ資格者ナリト爲スニハ左ノ三項ニ悉ク該當スル場合ニ限ルモノトス

(イ) 被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタルコト 死ニ致シ又ハ死ニ致サントストハ行為者カ單獨ニ又ハ他人ト共ニ斯ノ如キ行為ヲ爲スコトヲ謂フモノナルカ故ニ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル者ノ犯罪ヲ幫助シ之ヲ容易ナラシメタル者即チ從犯者ハ第九六九條第一號ニ依リ家督相續人タル資格ヲ失フモノニ非ス然レトモ他人ヲ教唆シテ此ノ如キ犯罪ヲ爲サシメタル者ハ刑法上正犯タルヘキモノニシテ其行為タル自ラ手ヲ下シタル者ト選フ所ナキカ故ニ教唆者カ同號ノ規定ニ依リ家督相續人タルコト能ハサルハ論ヲ須タス

佛伊等ノ民法ニ於テハ條文上明カニ死刑又ハ重罪ノ刑ニ處セラルヘキ犯罪アリトシテ被相續人ヲ誣告シタル者ヲ相續上ノ缺格者ト爲スコトヲ定ム我民法ニハ斯ノ如キ明文ナシ故ニ死刑ニ處セラルヘキ犯罪アリトシテ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ誣告シタル者ハ之ヲ以テ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ死ニ致サントシタル者トシテ家督相續上ノ缺格者ト爲スヘキヤ否ヤハ我民法ノ下ニ於テハ問題ナリ裁判所ハ事實ノ真相ヲ審査シテ判決ヲ與フルモノナルヲ以テ必スシモ告發又ハ告發ノ目的トスル刑罰ヲ科スルモノニ非スト雖モ誣告ノ目的ハ被相續人ヲシテ誣告セラレタル犯罪ニ相當スル刑罰ヲ受ケシメントスルニ在ルカ故ニ被相續人又ハ相續ノ先順位者ニ死罪アリト誣告シタル者ハ之ヲ死ニ致サントシタル者ト爲スニ於テ何等妨アルヲ見ス故ニ斯ノ如キ誣告者ハ我民法ニ於テハ第九六九條第一號ノ適用ヲ受クル者ト謂ハサルヘカラス

(ロ) 故意アリタルコト 故意トハ殺害スルノ意思アリタルコトヲ謂フ故ニ過失ニ因リ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ死ニ致シタル者ハ家督相續權ヲ失ハス又被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ毆打シ因リテ之ヲ死ニ致シタル者モ亦之ヲ殺害スルノ意思ナキヲ以テ第九六九條第一號ノ範圍外ニ屬ス他人ヲ殺サントシテ誤リテ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ殺シタル者ハ如何此ノ場合ニ於テハ行為者ニ殺害ノ意思アリタルコトハ明カナリ然レトモ第九六九條第一號ハ「故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付

キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シタル場合ニ適用セラルヘキモノナルヲ以テ同號ノ所謂「故意」トハ單ニ人ヲ殺スノ意思アルヲ以テ足レリトセス必スヤ被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ殺スノ意思ナカルヘカラス故ニ誤殺ノ場合ニ於テハ同號ヲ適用スルコト能ハサルモノトス

(ハ) 刑ニ處セラレタルコト 被相續人又ハ相續ノ先順位者ヲ殺害シ又ハ殺害セントシタルモノ刑ニ處セラレザリシトキハ家督相續人ハ其相續權ヲ失ハス故ニ斯ノ如キ非行為シタル者カ刑法上論罪ノ場合ニ該當スルコトキ公訴ノ時効ニ罹リタルトキ處刑前ニ死亡シタルトキ又ハ大赦ニ遭ヒタルトキハ家督相續人タルコトヲ妨ケラルモノニ非ス然レトモ苟モ刑ニ處セラレタル以上ハ之ニ因リテ家督相續人タル資格ヲ喪失スルモノニシテ其刑ニ服シタルト否トハ問フ所ニ非ス故ニ有罪ノ判決確定後刑ノ時効ニ罹リ又ハ特赦ニ遭フモノニ因リテ相續權ノ回復ヲ生ゼス

(二) 第九六九條第二號ノ事由 被相續人ハ横死ヲ見テ最モ深ク感動セラルヘキ相續人ニシテ被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リナカラ然ラシテ他人ノ事ヲ略ルカ如ク之カ告發又ハ告發ヲ爲ササル者ハ殺害ナル行為ヲ喜フ者カ又ハ之ヲ認容スル者カ若クハ少クトモ變死者ニ同情ヲ有スルコト甚タ薄キ者ニシテ其心事タル頗ル惡ムヘシ特ニ斯ノ如キ徒輩ノ中ニハ往往ニシテ自ら犯罪ヲ幫助シ之ヲ穩憑シ

- 又ハ之ヲ救済シタル者ナキヲ保セス故ニ第九六九條第二號ハ斯ノ如キ悻德無情ノ徒ヲ相續ヨリ排斥シタルナリ同號ノ事由ニ因リ家督相續權ヲ喪失スルニハ左ノ六項ニ悉ク該當セサルヘカラス
- (イ) 殺害セラレタル者カ被相續人ナルコト 故ニ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者カ殺害セラレタル場合ニ於テ之ヲ告訴又ハ告發セサルモ相續權ヲ失フモノニ非ス
- (ロ) 殺害ナル事實ヲ知リタルコト 事實ヲ知ラサル者ハ告訴又ハ告發ヲ爲スニ由ナキ者ナルカ故ニ知ラサルカ爲メニ爲ササル者ニ付テハ失權ナルコトヲ生セス
- (ハ) 告訴又ハ告發ヲ爲ササルコト 告訴又ハ告發ト自首トハ全ク別事ナリ故ニ自ラ殺害行爲ヲ爲シタル者カ其犯罪ヲ自首セサルモ之ヲ以テ告訴又ハ告發ヲ爲ササルモノト爲スヘカラス隨テ被相續人ヲ殺害シタル者ト雖モ第九六九條第一號ノ規定ニ該當セサル以上ハ其犯罪ヲ自首セザリシノ故ヲ以テ同條第二號ニ依リ相續權ヲ失ハシメラルモノニ非ス
- (ニ) 殺害ナル事實ヲ告訴又ハ告發セサルコト 告訴又ハ告發ヲ爲スニハ殺害ナル事實アリタルコトヲ申出ツレハ足レリ加害者ノ何人ナルヤハ之ヲ申出ツコトヲ要セス
- (ホ) 相當ノ期間内ニ告訴又ハ告發ヲ爲ササルコト 法律ハ告訴又ハ告發ヲ爲スヘキ期間ヲ定メサルヲ以テ解釋上ハ相當ノ期間内ニ告訴又ハ告發ヲ爲ササル場合ニ於テ始メテ失權アルモノト爲ササルヘカラス而シテ相當ノ期間内ニ告訴又ハ告發ヲ爲サザリシヤ否ヤハ事實ノ問題ナルカ故ニ爭アルトキハ裁判官ノ認定ニ依ラサルヘカラス
- (ヘ) 事實カ官ノ知ル所ト爲ラサル場合ニ於テ告訴又ハ告發ヲ爲ササルコト 相續人カ事實ヲ知リタル時既ニ他人ニ於テ告訴又ハ告發ヲ爲シタルカ又ハ檢事若クハ司法警察官カ事實ヲ了知シタルトキハ

相續人ハ更ニ告訴又ハ告發ヲ爲ササルモ之ニ因リテ相續權ヲ失ハス第九六九條第二號ハ告訴又ハ告發ヲ爲スニ實益アル場合ニ於テ之ヲ爲ササル者ヲ責ムルモノニシテ既ニ其要ナキニ至リタル場合ニ於テ之ヲ爲ササルコトハ同號ノ問フ所ニ非ス

- (ト) 法定又ハ指定ノ家督相續人若クハ之ニ準スヘキ者カ告訴又ハ告發ヲ爲ササルコト 第九六九條ハ其各號ニ掲クル者ハ家督相續人タルコトヲ得サルコトヲ定ムルカ故ニ單ニ據リテ解釋スルトキハ同條各號ニ該當スル者ハ其事由ノ發生シタル當時ニ於テハ未ダ家督相續人タラザリシ者ト雖モ同條ノ規定ニ依リ家督相續人ト爲ルコト能ハサルニ至リタル者ト爲ササルヘカラス隨テ同條第二號ニ該當スル者ハ他日之ヲ選定シテ家督相續人ト爲サントスルモ同號ノ規定ハ之ヲ許ササルモノト爲ササルヘカラス然レトモ元來同號ノ如キ規定ヲ設ケタル所以ノモノヲ案スルニ其精神ハ被相續人ノ人格ヲ承繼スヘキ地位ニ在ル相續人ニシテ其横死ヲ見テ之ヲ官ニ告ケサルカ如キ人情ニ反スル心事ヲ有スル者ヲ相續ヨリ排斥スルニ在ルカ故ニ被相續人横死ノ當時未ダ相續人タル地位ニ在ラサル者ノ如キ其横死ヲ告ケサルモ必スシモ之ヲ以テ人情ニ反スト見ルヘカラス者ニ對シテマテ相續權ヲ拒否スルコトハ同號規定ノ趣旨ニ非ス故ニ同號ハ法定又ハ指定ノ家督相續人若クハ第九八二條ノ各號ニ掲クル者カ被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告訴又ハ告發セサル場合ニ於テ適用セラルヘキモノニシテ其他ノ者カ被相續人ノ横死ヲ告發セサル場合ニハ同號ノ適用ナキモノト爲スコト同號規定ノ精神ニ適合スルモノト謂ハサルヘカラス但同號ニ該當スヘキ佛國民法第七二七條ニハ明カニ成年ノ相續人ニシテ被相續人ノ變死ヲ知り之ヲ裁判所ニ告發セサル者ハ相續ヨリ除外セラルヘキコトヲ規定スルニ拘ハラヌ我民法第九六九條第二號ハ特ニ相續人又ハ之ニ準スヘキ者ニノミ適

用スヘキモノナルコトヲ明言セザリシハ子ノ遺憾トスル所ナリ
 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リナカラ之ヲ告訴又ハ告發セサル者ヲシテ相續權ヲ有セシメザ
 ルハ殺害行為ヲ喜フカ又ハ之ヲ認容スルカ若クハ之ニ因リテ感動セラレサルカ如キ者ニシテ斯ノ如
 キ者ヲ被害者ノ相續人ト爲ラシムルハ道義ノ許ササル所アルヲ以テナリ隨テ殺害行為ヲ告訴又ハ告
 發セザリシコトカ之ヲ喜ヒ又ハ之ヲ認容シ若クハ之ニ因リテ感動セラレサルニ非ザリシ場合ニ於テ
 ハ相續權ノ喪失ヲ生セシムヘキモノニ非サルコト論ヲ俟タス故ニ被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ
 知ル者カ左ノ場合ニ該當スルトキハ之ヲ告訴又ハ告發セサルモ家督相續人タル資格ヲ害スルモノニ
 非ス

(イ) 是非ノ辨別ナキトキ 幼者又ハ心神喪失者ノ如キ是非ヲ辨別スルコト能ハサル者ハ判斷ノ能力
 ナキモノナルヲ以テ被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告訴又ハ告發セサルモ相續權ヲ喪
 失セス但法律ハ是非ノ辨別ナキトキニ關シテノミ例外ヲ設クルヲ以テ未成年者ト雖モ是非ヲ辨別ス
 ル力アル者ハ告訴又ハ告發ヲ爲スノ責ヲ免レヌ又禁治產者カ心神ヲ回復シタル時ニ於テ被相續人ノ
 變死ヲ知リ之ヲ告訴又ハ告發セザリシトキハ相續權ヲ失フモノトス

(ロ) 殺害者カ自己ノ配偶者又ハ直系血族ナリシトキ 自己ノ配偶者又ハ直系血族カ犯罪ヲ爲シタル
 場合ニ於テ之カ告訴又ハ告發ヲ爲ササルハ人情ノ自然ニシテ之ヲ責ムルハ酷ナリ故ニ加害者カ自己
 ノ配偶者又ハ直系血族ナリシトキハ犯罪ノ告訴又ハ告發ヲ爲ササルモノニ因リテ相續人タルコトヲ
 失ハス但相續權ニ付キ争アル場合ニ於テ殺害ノ事實ヲ告訴又ハ告發セザリシ者カ其配偶者又ハ直系
 血族カ加害者ナリシコトヲ理由トシテ其相續權ヲ失ハザリシコトヲ主張セントセハ忽テ其最愛ノ者

ヲシテ刑事ノ被告人ト爲ラシムルノ恐アルカ故ニ加害者ノ何人タルヤカ既ニ裁判所ニ於テ知了セラ
 レタルトキ又ハ犯罪行為カ既ニ公訴ノ時效ニ罹リタルトキノ外ハ此例外規定ノ適用ヲ見ルコトハ實
 際ニ於テハ甚タ稀ナルヘシ

養子ト養親及ヒ其血族トハ血族ニ非ス繼父母ト繼子ト又ハ嫡母ト庶子トモ亦然リ然レトモ養子ト養
 親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルヲ以テ
 (七二七條)親族關係ニ依リ法律上ノ效力ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ養子及ヒ其直系卑屬ト養親及ヒ其
 直系尊屬トハ常ニ之ヲ以テ直系血族ト爲ササルヘカラス隨テ被相續人ヲ殺害シタル者カ養親又ハ養
 子ナリシ場合ニ於テ養子又ハ養親カ其事實ヲ告訴又ハ告發セサルモ第九六九條第二號但書ニ依リ家
 督相續權ヲ喪失セザルモノトス繼父母ト繼子トノ間又ハ嫡母ト庶子トノ間ニ付テハ法律ハ之ヲ以テ
 親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルモノト爲シ(七二八條)養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ關
 スル場合ノ如ク之ヲ以テ血族間ニ於ケル親族關係ヲ失フコトナシトセハ之ト同一ノ親族關係ヲ
 於テハ其犯罪ヲ告訴又ハ告發セサルモノニ因リ相續權ヲ失フコトナシトセハ之ト同一ノ親族關係ヲ
 生スル繼父母ト繼子トノ間又ハ嫡母ト庶子トノ間ニ於テモ亦其犯罪ヲ告訴又ハ告發セサルコトハ相
 續權喪失ノ原因ト爲ラサルモノト爲ササルヘカラス故ニ第九六九條第二號ノ適用ニ於テハ繼父母ト
 繼子トノ間又ハ嫡母ト庶子トノ間ハ之ヲ以テ直系血族ナリト論斷セサルヲ得ス

(三) 第九六九條第三號ノ事由 詐偽又ハ強迫ニ因リ被相續人カ遺言ヲ爲サントスルヲ防止シ又ハ其既
 ニ爲シタル遺言ノ取消若クハ變更ヲ爲サントスルヲ妨礙スル者ハ多クハ之ニ因リテ自己ノ欲望ヲ達セ
 ントスル者ナルヲ以テ法律ハ斯ノ如キ者ノ家督相續權ヲ剝奪シ以テ其非望ヲ抑止セントシタリ第九六

九第三號ノ事由ニ因リ家督相續權ナキ者ト爲スニハ左ノ二項ニ該當スルコトヲ明カニセサルヘカラス
 (イ) 被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタルコト 第九六九
 條第三號ニ依リ相續權ナキモノト爲スニハ被相續人カ遺言ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ若クハ之ヲ變更ス
 ルコトヲ妨ケタルコトナカルヘカラスハ勿論其妨ケタル所ノモノハ相續ニ關スル遺言ナラサルハ
 カラス推定家督相續人ノ廢除及ヒ廢除ノ取消、家督相續人ノ指定及ヒ指定ノ取消ニ關スル遺言カ相
 續ニ關スルモノタルコトハ何等ノ疑ヲ容レズ私生子ノ認知及ヒ養子縁組ニ關スル遺言カ相續ニ關ス
 ルモノナルヤ否ヤハ問題ナリ然レトモ私生子ノ認知又ハ養子縁組ハ家督相續人ノ順位ヲ變更シ又ハ
 家督相續人タラサル者ヲシテ家督相續人タラシムルモノナルヲ以テ相續ニ關スルモノト爲ササルヘ
 カラス遺贈ヲ受クルハ相續ヲ爲スニ非サルカ故ニ遺贈ヲ爲スノ遺言カ相續ニ關スル遺言ナルヤ否ヤ
 ニ至リテハ最モ疑フヘシ然レトモ遺贈ハ相續財産ノ負擔タルヘキモノナルヲ以テ遺贈ヲ爲スノ遺言
 ハ相續財産ヲ減スルノ遺言ナリ故ニ予ハ遺贈モ亦相續ニ關スル遺言ナリトシテ不可ナキモノナリト
 信ス

第九六九條第三號ハ單ニ「相續ニ關スル遺言」ト言フカ故ニ被相續人カ未タ戸主タラサル時ニ於テ遺
 産相續ノ相續分ニ關シテ遺言ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ若クハ之ヲ變更セんとスルニ當リ詐偽又ハ強迫
 ニ因リ之ヲ妨ケタル者ハ同號ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サルカ如シト雖モ同條ハ家督相續人ノ
 資格ニ付テ規定スル條文ナルカ故ニ同條ノ所謂「相續」トハ家督相續ヲ指稱スルモノト解スルヲ以テ
 穩當トス隨テ遺產相續ニ於ケル相續分ニ關スル遺言ニ關シテ妨害ヲ爲シタル者ハ同條第三號ニ依リ
 家督相續人タル資格ヲ失フモノニ非スト謂ハサルヘカラス

カラスト雖モ开ハ姑ク措キ予ハ我商法ノ解釋トシテハ二種ノ抗辯ノ事由ヲ認メタルモノト論セント欲
 ス其一ハ手形法(商法第四編)ニ規定シタル事由ニシテ他ノ一ハ民法及ヒ商法ノ一般ノ規定ニ從ヒテ直
 接ニ請求者ニ對抗シ得ヘキ事由ナリ前者ハ之ヲ手形法上ノ抗辯(wechsrechtliche Einreden)ト稱シ後
 者ハ民法上ノ抗辯(civilrechtliche Einreden)ト稱スルヲ得ヘシ斯ノ如ク抗辯ヲ認ムル法律ヲ標準トシ
 テ抗辯ノ事由ヲ區別スルハ全ク抗辯ノ實體ヲ顧ミサルモノニシテ其立法上ノ可否ニ付テハ論スヘキモ
 ノナキニ在ラスト雖モ第四四〇條ハ「本編ニ規定ナキ事由」ノ文字ヲ用ヒ自ラ手形法ニ規定セル事由ト
 手形法ニ規定セサル事由ニシテ請求者ニ對スル一般私法上ノ關係ニ基キ直接ニ對抗スルヲ得ヘキモノ
 トノ二種ニ大別セルノ意ナルハ解釋論トシテ疑ヲ容レサル如シ「ベルンスタイン」ハ「wechsrechtliche
 Einreden」ト「genauhinreichende Einreden」ノ區別ナリトシ手形法上ノ抗辯ヲ當事者間ノ手形上ノ關
 係ニ基因スル抗辯ト解シ其效力ニ付テハ各手形所有者ニ對抗スルヲ得ルヲ本則トシ特定ノ所持人ニ對
 抗スルヲ得ルヲ例外ナリト論スルモ我商法ノ解釋トシテハ當ラサルナリ孰レカ本則ニシテ孰レカ例外
 ナルカノ別アルヲ認メス又民事上ノ抗辯ヲ當事者相互ノ手形上ノ關係以外ニ於ケル地位ヨリ生スルモ
 ノトシ其效力ニ付テハ當該原告ト當該被告トノ間ニ於ケル特別ノ關係ニ基因スルトキニ限り其效力ヲ
 有スト説明スルモ是レ亦我商法ノ解釋トシテ採ルヘカラス

予ハ手形法上ノ抗辯モ民法上ノ抗辯モ其ニ物的效力ヲ有スルモノト人的效力ヲ有スルモノトノ二種アル
 ルヲ認ム物の抗辯(dingliche Einreden, exceptions in rem)ハ「之ヲ客觀的抗辯(objective Einreden)」
 ト稱シ手形上ノ債務ノ存否ヲ爭フ抗辯ニシテ一切ノ所持人ニ對抗スルヲ得ルモノナリ發行ノ形式ノ欠
 缺ヲ理由トスルハ手形上ノ法律關係ノ根本的不成立ヲ主張スルナリ保全行爲ノ懈怠ヲ理由トスルハ被

請求者ニ於テ其後者全員ニ對シ債務ノ消滅ヲ主張スルモノナリ是レ手形法上ノ物の抗辯ナリ手形發行ノ意思ナキヲ對抗スルハ民法上ノ物の抗辯ナリ無能力ヲ理由トシテ債務ヲ否認スルモ亦手形法ニ規定セサル事由ニ基因スル物權の抗辯ナリ人的抗辯 (personliche Einreden, exceptions in personam) ハ或ハ主觀的抗辯 (subjektive Einreden) ト稱シ當該請求者ニ對スル當該被請求者ノ抗辯ニシテ手形發行ノ基礎タル法律關係ヲ理由トスルモノハ民法上ノ人的抗辯ナリ惡意又ハ重大ナル過失アリテ手形ヲ取得シタル者ニ對抗スルモノハ手形法上ノ人的抗辯ナリ

物の抗辯ハ債務者ニ於テ其債務ヲ否認スルノ理由ヲ爲スカ故ニ其理由カ手形法ノ規定ニ基クテ民法其他一般私法ノ規定ニ基クテ問ハス況ク各人ニ對抗スルノ效力ヲ有ス以テ何人ニ對抗スルヲ得ヘキヤノ範圍ヲ論スルノ必要ナシ之ニ反シテ當該請求者ニ對抗スル人的抗辯ニ至リテハ請求者ノ外尚ホ何人ニ對抗スルヲ得ヘキヤラ一言スルノ要アリ原始的ニ獨立ノ權利ヲ取得セス所謂權利ヲ承繼スル者ハ其被承繼人ニ對シテ存スル抗辯ヲ受ケサルヘカラス拒絕證書作成ノ期間經過ノ後ニ於ケル被裏書人ハ裏書人ノ權利ヲ取得スルノミ(四六二條) 振出人カ裏書ヲ禁止シタル手形ノ讓受人ノ相續人ニ對シテハ前者ニ對スル抗辯ハ自ラ其對抗力ヲ有セサルヘカラス

物の抗辯ハ手形法ニ規定スル事由ニ因ルモノト然ラサルモノト別アルハ前述セルカ如シテ其效力モ亦一ナラス手形法上ノ物の抗辯ニシテ各債務者カ各債權者ニ對抗スルヲ得ルモノアリ發行行為形式ノ欠缺、引受人又ハ約束手形ノ振出人カ手形金額ノ全部又ハ一部ヲ支拂ヲ爲シ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シ(四八五條) 引受人ナキ場合ニ於テ所持人拒絕證書ノ作成期間内ニ手形ヲ呈示セス(拒絕證書ヲ作成セシメタルハ免除者免責ノ理由タラス) 他他拋拂又ハ一覽後定期拂ノ手形所

持人カ呈示期間ヲ遵守セサルカ如キ其例ナリ又一人ノ債務者カ各債權者ニ對抗スルヲ得ル抗辯トシテ偽造、無擔保ノ裏書、拒絕證書作成期間ノ經過後ニ於ケル裏書ヲ例トシテ裏書禁止ノ裏書ヲ爲シタル者ハ其直接ノ後者ノ外一切ノ債權者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負擔セサルナリ

手形法ニ規定セサル抗辯ノ事由モ亦其種類一ナラス一人ノ債務者カ各債權者ニ對抗スルヲ得ヘキモノハ債務負擔ノ意思ノ欠缺、無能力、代理權ノ欠缺ノ如シ一人ノ債務者ノ特定ノ債權者ニ對抗シ得ヘキモノハ債務ノ免除、交互計算其他手形發行ノ基礎タル實質上ノ關係ニ基因スルモノノ如キ是ナリ代理權ニ加ヘタル制限アルヲ知りテ手形ヲ取得シタル者ニ對抗シ得ヘキ事由モ亦此種ニ屬ス支配人、合名合資會社ノ代表社員、株式會社ノ取締役ノ手形發行例トス

第八章 國際手形法

手形ハ流通證券ニシテ國際商業上ノ相殺具タルハ其經濟的作用ノ著シキモノナリ一國ニ於テ發行シ終始其國ニ於テ輾轉シ又其國ニ於テ支拂ハルモノニ非ス甲國ニ於テ發行シタル手形カ乙國ニ於テ流通シ更ニ丙國ニ轉シ竟ニ丁國ニ於テ支拂ハルモノハ稀ナラス其他引受又ハ支拂ヲ求ムルカ爲メニスル呈示、引受又ハ支拂拒絕ノ場合ニ於ケル遡求權等ハ必スシモ一國ニ於テ發生セサルナリ而シテ各國ノ法律此等ノ點ニ關シ其規定ヲ同シクセサルニ於テハ手形上ノ債務者タル能力、手形發行ノ形式、手形發行ノ法律上ノ效力、手形上ノ權利ノ保全若クハ執行ニ必要ナル手續等ハ何レノ國ノ法律ニ從フヘキモノナリヤヲ研究セサルヘカラス而シテ我法例ハ國際私法上ノ原則ヲ定メタルモ手形發行ニ應用スヘカラサルモノアリ亦特ニ手形發行爲ニ固有ノ規定ヲ要スルモノアリ是ヲ以テ商法施行法ハ其第一二五條及ヒ第

二六條ニ於テ手形行為ノ效力、手形行為ノ方式、手形行為ノ手形上ノ權利ヲ保全スルニ必要ナル手續等一ヲ定メタリ

第一 當事者ノ能力ニ付テ其本國法ニ從フハ國際私法上ノ原則ニシテ我法例第三條第一項モ亦此原則ヲ明揭シタリ而シテ手形能力ニ關シテハ特別ノ規定ナク法例ノ適用ヲ受クヘキハ固ヨリ明カナリ外國人カ日本ニ於テ法律行為ヲ爲シ得ル場合ニ於テ其本國法ニ依レハ無能力者タルトキハ其行為ハ或ハ不成立或ハ取消シ得ヘキナリ然レトモ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルトキハ其外國人ノ日本ニ於テ爲シタル行為ハ之ヲ有效トス是レ則チ法例ノ定ムル所ニシテ此例外ヲ認メタルノ理由ヲ釋スルニ外國人ハ日本ニ於テ法律行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ其外國人カ其本國法ニ依レハ果シテ能力者ナルヤ否ヤハ之ヲ知り易カラス殊ニ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルトキハ何人モ其能力者タルヘキヲ信スヘク外國人ヲシテモ其本國法ニ依ル不能力ヲ主張スルヲ許スハ偶、善意者ノ利益ヲ傷クルニ至ルノミ手形能力ニ付テモ其理ハ一ナリ而シテ現行ノ法律ニ於テ所謂一般能力ヲ認ムルモノト然ラサルモノトアリ其然ラサルモノハ固ヨリ一般能力ノ原則ヲ採用スル法律ニ於テモ其規定スル所相異ナレリ故ニ能力ニ關スル規定ハ大ニ其適用ヲ見ルヘキナリ

外國人カ其本國法ニ依リテ能力者タルトキハ日本ノ法律ニ依レハ無能力者タルヘキト雖モ完全ナル能力者トシテ債務ヲ負擔スヘキハ言フ俟タス蓋シ人ノ能力ハ其本國法ニ依ルカ我法ノ原則ナレハナリ

第二 手形行為ノ形式ハ彼ノ行為地ノ法律ニ依ルノ原則 (locus regit actum) ニ從フ外國ニ於テ爲シタル手形行為ノ要件ハ總テ其行為ヲ爲シタル國ノ法律ニ依リテ定マルモノニシテ其行為者ノ本國法ノ

如何ヲ問ハス支拂ヲ爲スヘキ國ノ法律如何ヲモ問ハサルナリ此行為地ノ法律カ行為ノ形式ヲ定ムルノ原則ハ外國法ニ於テモ汎ク認ムル所ニシテ獨、匈、瑞、伊、英等皆然リ佛國ノ學者亦之ヲ認ム蓋シ手形行為ヲ爲ス者ハ其行為地ノ法律ヲ知り其定ムル所ニ從テ之ヲ爲シタルハ自然ノ推定ナレハナリ其行為地トハ手形ニ記載シタル地ニ非シテ事實行為ヲ爲シタル地ト解スヘキハ當然ナリ行為地法ノ定ムル形式ヲ履行シタルトキハ我法ハ其行為ヲ有效トシ其行為カ日本法律ノ定ムル要件ヲ具備セルヤ否ヤヲ區別セス其手形カ日本ニ於ケル手形行為ノ基礎タルヲ得ヘキハ言フ俟タス之ニ反シテ行為地ノ法律ニ從ハサル手形行為ハ其行為地ニ於テ無効ナルハ勿論我法亦之ヲ無効トス是レ行為地法ニ依ルノ必然ノ結果ナリ

此原則ニ對シ商法施行第一二五條第二項ハ二箇ノ例外ヲ認ム

其一ハ外國ニ於テ爲シタル手形行為カ其國ノ法律ニ定メタル形式ヲ具ヘス從テ其國法律ニ依レハ無効タルヘキモノト雖モ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行為ハ有效トスルニ在リ例セハ發行地ノ法律指圖文句ノ記載ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ記載セサルトキハ我法ハ其發行行為ヲ無効トス從テ其手形ハ日本ニ於テ有效ナル手形行為ノ基礎タルヲ得サルヲ原則トス然レトモ其手形カ日本ニ於テ流通スル場合ニ於テハ日本人ハ日本ノ法律ノ定ムル所ニ從テ手形行為ヲ爲スモノト推測スルハ不當ニ非ス故ニ裏書、引受等日本ニ於テ爲シタル手形行為ハ我法之ヲ有效トス

其二ハ日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對シテ手形行為ヲ爲シタル場合ニ於テ其行為カ外國法ノ定ムル所ニ適セサルモ日本ノ法律ノ定ムル所ニ適シタルトキハ我法之ヲ有效トス蓋シ日本人カ日本人

ニ對シテ手形行為ヲ爲シタルトキハ縱令外國ニ於テ之ヲ爲スモ日本ノ法律ニ從フノ意思ナリト推定シテ可ナレハナリ故ニ日本ノ法律ニ定メタル形式ヲ履行シタルトキハ我法律ハ之ヲ以テ足レリトシ敢テ行為地法ノ形式ヲ履行シタルヤ否ヤヲ問フヲ要セサルナリ予ハ商法施行法第一二五條第二項ヲ解シテ我法ハ行為地法ノ形式ヲ履行セサル行為自體ヲ有效ト認メタルモノト論セント欲ス其行為ヲ無効トシ唯爾後日本ニ於テ爲シタル行為ヲ有效トスルハ寧ろ法文ノ字句ニ拘泥スルモノニシテ法律ノ精神ニ非ラサルナリ

第三 手形上ノ權利ノ行使及ヒ保全ニ關スル行為ノ形式ハ其行為地ノ法律ニ依ル(商法二二六條)是レ亦多數外國立法例ノ認ムル所ニシテ獨、匈、瑞、伊、英等然リ此原則ハ唯形式ニ於テ行為地ノ法律ニ依ルヘキヲ云フニ止マリ如何ナル行為カ手形上ノ權利ノ保全又ハ行使ニ必要ナルヤノ問題ヲ決スルニ非ス故ニ支拂拒絶ヲ證スルノ手續如何拒絶證書ノ作成期間、場所、作成者等即チ行為地ノ法律ニ依ル

第四 外國ニ於テ爲シタル手形行為ノ效力ニ付テハ商法施行法何等ノ明文ヲ掲ケス獨國手形法モ亦之ヲ規定セス學者ノ説ク所同シカラス行為地ノ法律ニ依ルヘシトスルアリ主タル債務者ニ付テハ履行地、償還義務者ニ付テハ其住所地ヲ標準トスルアリ主タル債務者ニ付テハ履行地トシ償還義務者ニ付テハ手形ニ記載シタル行為地其記載ナキトキハ事實上ノ行為地ニ依ルヘシトスルアリ或ハ履行地ヲ一般ノ標準トシ主タル債務者ニ付テハ之ヲ支拂地トシ償還義務者ニ付テハ其手形行為ノ當時ニ於ケル住所地トスルアリ我法例第七條ハ法律行為ノ效力ハ當事者ノ意思ニ從ヒ何レノ國ノ法律ニ從フヘキカラ定メ其意思分明ナラサルトキハ行為地法ニ依ルヘシトス而シテ此規定ハ亦手形行為ニ適用

スヘキハ論ヲ俟タスト雖モ其所謂當事者ノ意思ハ法例ノ規定上必スシモ手形ニ表示スルヲ必要トセス且之ヲ表示スルモ其意思表示ハ商法ノ解釋上手形法上ノ效力ヲ生セサルヲ以テ手形行為ニ付テハ當事者ノ意思ノ如何ヲ問ハス常ニ行為地法ニ依ルモノト論セント欲ス而シテ手形行為ノ效力ト稱スルハ行為者ノ負擔スル責任ノ種類、範圍、債務ノ執行ヲ強制スル條件、其消滅理由特ニ時效、不可抗力ノ拒絶證書作成ノ期間ニ及ボス效力、手形上ノ權利ノ保全ニ如何ナル條件ヲ必要トスルヤ等是ナリ無記名式ノ裏書、滿期日以後ニ於ケル裏書、拒絶證書作成期間ノ經過後ニ於ケル裏書、單純ナラサル引受等各其效力如何、支拂人ノ手ニ存スル資金ハ手形ノ移轉ニ依リテ所持人ニ移轉スルヤ否ヤ、償還金額ハ如何ニシテ之ヲ定ムルヤ、債務者ハ債權者ニ對シテ如何ナル抗辯ヲ爲スヲ得ルヤ等ノ問題モ亦皆行為地法ニ依リテ之ヲ決スヘク其他擔保ノ請求又ハ償還ノ請求ヲ爲スノ條件例ハ一定ノ期間内ニ手形ヲ呈示スルノ必要アルヤ、引受又ハ支拂ノ拒絶ヲ證明スルノ必要アリヤ、所持人ハ豫備支拂人又ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受又ハ參加支拂ヲ受諾セサルヘカラサルヤ否ヤ等モ亦手形行為ノ效力ニ關スル問題ナリ

第五 支拂ノ體裁例セハ支拂日恩惠期日等ハ支拂地ノ法律ニ依ルヘキナリ此點ニ關シテハ商法施行法及ヒ法例共ニ規定ナシ故ニ所謂一般法理ニ依リテ判斷スルノ外ナシ

第九章 時效

手形上ノ債務者カ普通ノ債務者ニ比シテ嚴格ナル拘束ヲ受クルハ手形上ノ債權ヲ鞏固確實ニシテ手形ノ流通ヲ圓滑ナラシメントスルカ爲メナリ而シテ一方ニ於テ債務者ニ此著大ナル負擔ヲ命セハ自ら

他ノ一方ニ於テ債權者ニ其權利行使ヲ怠ラサルヘキヲ命シ以テ二者ノ待遇ノ均衡ヲ圖ラサルヘカラス
 償還請求ヲ爲スニ當リテ特ニ短キ期間ヲ定メ其期間内ニ拒絕證書作成及ヒ通知ノ發送ヲ爲サシメ一覽
 後定期拂ノ手形及ヒ一覽拂ノ手形ニ付キ呈示期間等ヲ定メ他地拂ノ手形ノ所持人カ支拂擔當者ニ手形
 ヲ呈示シ支拂拒絕ノ場合ニ於テ拒絕證書ノ作成及ヒ通知ノ手續ヲ盡ササルトキハ主タル債務者ニ對ス
 ル權利ヲモ失フヘキヲ定メ又參加引受人アル場合ニ於テ所持人カ拒絕證書作成期間内ニ之ニ手形ヲ呈
 示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免レ參加支拂ニ付テモ所持人法定ノ期間内ニ法定ノ手續ヲ爲サ
 サルトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ參加人並ニ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フニ至ル等皆
 此趣旨ニ基テ法律カ特ニ短期ノ時効期間ヲ定メタルモ亦債務者ノ負擔ヲ輕減スルノ制度ナリ
 我商法ハ時効期間ヲ定メタルノミ故ニ時効ノ中斷・停止・其法律上ノ效果等總テ民法ノ規定ニ從ハサル
 ヘカラス

- 一 引受人及ヒ約束手形ノ振出人ノ債務ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス他
 地拂手形ノ引受人、他地拂約束手形ノ振出人參加引受人、主タル債務者ノ保證人等ノ債務モ亦理ニ於
 テ一ナリ支拂人カ引受ヲ爲スニ當リ滿期日ヲ變更シタル場合ニ於テ時効期間ハ手形ニ記載シタル滿
 期日ニ依ルヘキカ或ハ引受ノ滿期日ニ依ルヘキカニ付テハ學說一ナラサルモ前説ヲ正當ナリトス即
 チ滿期日ノ延長短縮ヲ區別セサルナリ
- 二 爲替手形ノ振出人及ヒ爲替手形、約束手形、小切手ノ裏書人ニ對スル償還請求權ノ時効期間ハ六個
 月ニシテ所持人ニ付テハ拒絕證書作成ノ日ヨリ裏書人ニ付テハ償還ヲ爲シタル日ヨリトス其償還ト
 ハ必スシモ償還金額ノ支拂ノミヲ謂フニ非ス相殺・交互計算ニ組入レタルモ亦償還ト同視スヘキハ

當然ナリ
 償還義務者カ拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル場合ニ於テ所持人之ヲ作ラシメサリシトキハ其免除ナキ
 場合ニ於テ作成スヘカリシ日即チ作成期間ノ末日ヲ以テ第四四三條ノ支拂拒絕證書作成ノ日ト解ス
 ヘキナリ

各論

第一章 振出

第一節 振出ノ形式

手形ハ設權證券ニシテ手形上ノ法律關係ノ設定ハ手形ナル證券ノ作成ヲ必要トシ又手形行爲ト稱スル
 ハ各法定ノ要件アリ而シテ手形ノ發行ハ所謂基本的手形行爲ニシテ此行爲アリテ始メテ裏書引受其他
 ノ手形行爲ノ基礎成レリト云フヘシ特ニ手形ハ流通ノ目的トスル證券ニシテ其授受ニ當リテハ何人モ
 能ク其外觀ニ於テ手形タルヲ知ルヲ得セシメサルヘカラス之ヲ授クル者ハ嚴格ナル債務ニ服スルヲ知
 リテ受クル者ハ亦鞏固ナル債權ヲ取得スルヲ知リ以テ敏活ナル商業上ノ交通ニ於テ過度ナキヲ期セ
 ントス發行行爲ノ形式ヲ定ムルノ理由茲ニ在リ故ニ左ノ結果ヲ生ス

第一 法律カ要件トシテ掲タルモノハ商四四五條、五二五條ハ大體ニ於テ命令的ノ性質ヲ有スルモノ
 ニシテ法律ハ嚴格ニ之ヲ遵奉スヘキヲ命ス其列記スル事項ハ之ヲ手形ニ記載スヘキヲ注意スルニ在
 ラス各人ノ採否ニ任スルニ在ラス故ニ之ヲ遵奉セサルトキハ手形行爲トシテノ成立形式ヲ缺クモノ

商法手形 各論 振出ノ形式

ニシテ自ラ手形ナク手形上ノ債權債務ヲ設定スルヲ得ス而シテ其形式ヲ缺クノ理由如何ヲ問ハス
故意、錯誤、過失ノ手形行爲ヲ無効タラシムルニ於テハ則チ一ナリ

第二 手形タルノ形式ヲ具フルヤ否ヤハ一ニ手形其モノニ依リテ之ヲ決シ荷モ方式ヲ具ヘサレバ公然
ノ瑕疵ヲ帶フルモノニシテ何人モ能ク外形ヲ見テ手形タラサルヲ知ルヘキナリ其不備ハ手形以外ノ
意思表示ヲ以テ補足スルヲ許サス當事者ノ意思手形行爲ヲ爲スニ在ルノ證據顯然ナルモ其事實ヲ證
明シテ以テ債權債務ノ成立ヲ主張スヘカラス

第三 手形ノ形式ハ一ニ外觀ニ依リテ之ヲ決定ス予ハ之ヲ外觀の解釋ノ原則ト稱ス蓋シ手形ニ記載シ
タル事項ハ形式ニ於テ完全ナルヲ必要トスルノミニシテ事實ト符合スルヲ要セサルナリ若シ事實ト
符合スルヤ否ヤヲ問ヒ符合セサル場合ニ於テ手形行爲ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノトセハ實ニ法律カ
模標ノノ形體ヲ備ヘサルヘカラストシ且之ニ依リテ手形ノ圓滿ナル流通ヲ期シタル目的ヲ達スルヲ
得サラシム凡ソ手形ノ授受ニ當リテ其所載ノ事項カ事實ト符合スルヤ否ヤヲ調査スヘシトセハ全然
手形ノ流通力ヲ奪フモノト云ハサルヘカラス而シテ手形ニ記載スル所事實ニ符合セサル場合ニ於テ
其取得者ノ善意、惡意ヲ問ハス手形行爲ノ效力ヲ左右スルコトナキナリ(大審院判決錄第一〇輯、第
一八卷九三七頁、一〇二二頁法學新報第一四卷第一號)

第四 振出行爲其形式ヲ具ヘサルカ爲メ無効ナルトキハ其無効手形ニ爲シタル他ノ手形行爲モ亦自ラ
無効タラサルヲ得ス之ヲ明定スル立法例尠カラスト雖モ敢テ明文ヲ俟テ知ルヘキニ非ス唯茲ニ注意
スヘキハ手形行爲獨立ノ原則ト抵觸セサルコト是ナリ法定ノ形式ヲ具ヘサルトキハ何人モ能ク手形
其モノニ就テ其無効ナルヲ知ルヘケレハナリ

第五 形式ハ法律ノ嚴命スル強行的法規ニ屬シ當事者ノ意思如何ニ關セサルナリ故ニ其形式ヲ具ヘタ
ルヤ否ヤハ裁判官職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニシテ當事者ノ抗辯ヲ俟ツヘキモノニ非ス大審院カ振
出地記載ノ有無ハ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ非スト判決シタルハ斷シテ誤ナリ(大審院判決錄第
一〇輯第二五卷一三七頁)又當事者カ如何ナル意思ヲ以テ或事項ヲ記載シタルヤヲ問フハ亦外觀
ヲ以テ手形行爲力ヲ決スルノ原則ト兩立セス(此點ニ付テハ大審院判決錄第九輯第一〇卷四七八頁
第九輯第一一卷五三二頁第一〇輯第二卷七六頁第一〇輯第七卷二七九頁)ヲ參照スヘキナリ

振出行爲トシテ其形式ヲ具ヘタルヤ否ヤハ振出人ノ行爲ニ付テ之ヲ觀察スヘキハ論ナキナリ他ノ手形
行爲ヲ以テ其足ラサル所ヲ補充スルヲ許サス(例セハ手形金額ノ記入ナキ場合ニ於テ支拂人引受ヲ爲
スニ當リテ之ヲ記載スルモ其引受ケタル金額ヲ手形金額ト解スル能ハサルノミナラス引受モ其效力ヲ
有セス)又後日ニ至リ足ラサルヲ補ヒ既往ニ溯リテ不備ヲ追完スルヲ認メス然レトモ當事者ノ同意ヲ
以テ之ヲ追完スルハ妨ナシ唯之ヲ稱シテ追完ト云フハ當ラス債務者ノ同意ヲ與ヘタルハ新ナル手形行
爲ヲ爲シタルモノト解セサルヘカラス(大審院判決錄第一一輯第二卷五七頁)

以上説明シタルカ如ク法定ノ形式ハ嚴格ノ遵守ヲ要スルモ其記載カ通常ノ方法ニ依ラズ若クハ正確ナ
ラサルノ故ヲ以テ手形ヲ無効ナリトスルハ形式ヲ過重スル極端論ト云ハサルヘカラス多少不明ノ點ア
ルモ手形其モノニ付テ意義ノ在ル所ヲ推知スルヲ得ヘキトキハ敢テ手形行爲ノ效力ヲ妨クルニ非サル
ナリ

終ニ一言スヘキハ手形カ其形式ヲ缺キタル爲メ無効タル場合ニ於テ法律上何等ノ效果ヲモ有セサルヤ
ノ問題はナリ予ハ當事者ノ意思ハ一ニ手形上ノ債務ヲ負擔セントスルニ在リ唯單ニ債務ヲ負擔スルヲ



得ハ足ルトニ在ラサルヲ主張ス

第一款 爲替手形

爲替手形振出ノ要件ハ商法第四四五條ニ列舉セリ

第一 爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字 是レ學者ノ手形文句 (Wechselklausel) ト稱スルモノニシテ之ヲ必要トシタル所以ハ他ノ證券ト識別シ其授受ニ當リ爲替手形タルヲ知リ易カラシメントスルニ在リ之ヲ要件トスルト然ラサルトハ立法例ニ於テハ殆ト相半ス

第二 手形金額 手形金額ハ手形上ノ債權債務ノ目的ニシテ債務者ハ其支拂フヘキ金額如何ヲ知り手形ノ取得者ヲシテ其請求スルヲ得ヘキ金額如何ヲ知ラシム

一 債權債務ノ目的ハ金錢ナルヲ要ス是レ流通ノ圓滿、執行ノ迅速ヲ圖ルニ在リ我商法ハ商品手形ヲ認メス公債證書、株券其他ノ有價證券ハ手形上ノ債權債務ノ目的タル能ハサルナリ

二 手形金額ハ一種ノ貨幣ヲ以テ示ササルヘカラス然レトモ特種ノ貨幣ヲ以テ支拂フヘキヲ記載シ若クハ外國ノ貨幣ヲ以テスルハ妨ナシ

三 手形金額記載ノ場所ハ之ヲ問ハス手形金額タルヲ推知スルヲ得ハ可ナリ

四 手形金額ハ一定シテ且確定ナラサルヘカラス 百圓ヲ下ラサル金額ヲ支拂フヘシハ滿期日ニ於テ百馬克ニ相當スル金額ヲ支拂フヘシ又ハ百圓以上ノ金額ヲ支拂フヘシ又ハ二百圓ヲ支拂フヘシトスルカ如キハ共ニ手形金額ノ記載トシテ不適當ナリ利息ノ約束ニ付テハ我商法明文ヲ掲ケス然レトモ手形ニハ確定ノ金額ヲ示スヲ必要トスルカ故ニ其金額一定セザレハ計算上之ヲ確定シ

得ヘキ場合ト雖モ不可ナリ

五 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額ト他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形ト定ム(四四六條)外國語ヲ以テ發行スル手形ニ付テモ外國法ノ如ク文字ヲ以テ記載シタルト數字ヲ以テ記載シタルトヲ區別セス然レトモ通例文字ヲ以テ記載スルモノヲ主タル部分ノ記載ト解スルヲ得ルナリ

第三 支拂人ノ氏名又ハ商號 支拂人ハ手形ニ記載シタル振出人ノ委託ニ應シテ手形金額ノ支拂ヲ爲スヘキ者ニシテ其氏名又ハ商號ヲ手形ニ記載セサルヘカラスハ言ヲ俟タス而シテ其記載ハ或ハ氏名タルコトヲ得ヘク又ハ商號タルコトヲ得ヘキモノトス法律ノ求ムル所ハ支拂人トシテ氏名又ハ商號ノミ振出人カ支拂人トシテ指定セント期シタル者ノ氏名又ハ商號タルヲ要ス又手形ニ記載シタル氏名又ハ商號カ事實ニ於テ存在スルヲ要セス又商號ニ付テハ固ヨリ登記シタル商號ナルヲ必要トセス唯氏名又ハ商號トシテアリ得ヘキモノノ記載アルヲ以テ足ル

數人ノ支拂人ヲ記載スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ分離のニ付テモ重復の記載ニ付テモ學說必スシモ同シカラス甲及ヒ乙ヲ支拂人トシテ指定スルハ有效ナルハ明カナリ或ハ數人ノ支拂人ノ記載ハ數箇ノ支拂地ヲ生スヘキヲ以テ手形ヲシテ無効ナラシムト論スル者アルモ其無効ノ理由ハ支拂人ノ指定ニ關スルニ非スシテ支拂地ノ指定ナリ數人ノ支拂人アリ其住所地各相異ナルトキト雖モ一箇ノ支拂地ヲ指定シタルトキハ支拂地トシテハ唯一アルノミ而シテ數人ノ支拂人中其一人ノ引受拒絕ハ擔保請求權行使ノ結果ヲ生シ償還請求權ハ支拂人皆支拂ヲ拒絕シタル場合ニアラスンハ之ヲ行フコトアラサルモノト云ハサルヘカラス予ハ反對說ヲ是ナリトセス甲或ハ乙支拂ヲ爲スヘシト分離のニ支

拂人ヲ指定スルハ其號レカ支拂ヲ爲スヘキ者ナルヤ不明ナルヲ以テ手形ヲ無効ナラシムルハ其旨ニ於テ之ヲ記
 第四 受取人ノ氏名又ハ商號 受取人ハ第一ノ受者ナリ無記名式ヲ以テ發行セサル手形ニ於テ之ヲ記
 載スヘキハ當然ナリ而シテ其氏名又ハ商號ノ記載ニ付テハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ付テ述ヘタル所
 ヲ應用スルコトヲ得ヘシ唯茲ニ注意スヘキハ事實受取人トシテ指定セントシタル者ノ氏名又ハ商號
 ヲ記載セサル場合ニ於テハ其者ハ受取人タルノ權利ヲ取得スルコトヲ得サルナリ
 數人ノ受取人ノ記載ニ付テモ亦學說一致セス重複的記載ノ場合ニ於テハ數人ノ受取人ハ共同シテ其
 權利ヲ行使スヘク分離的記載ノ場合ニ於テハ受取人ハ單獨ニ其權利ヲ行ヒ又其一人ノ裏書ニ依リテ
 後者ノ形式的資格(裏書ノ連續)ヲ構成スルニ足ルモノト信ス
 第五 單純ナル支拂ノ委託 爲替手形ニ在リテハ支拂ノ委託ヲ記載セサルヘカラス且其支拂ノ委託ハ
 單純ナルヘク條件ヲ附スルヲ得ヌ又支拂ノ原因ヲ定メ支拂金額ノ淵源ヲ指定スルカ如キハ之ヲ許サ
 ス

第六 振出ノ年月日 振出人カ手形發行ノ當時能力者ナリシヤ否ヤ代理人タルノ資格仍ホ消滅セザリ
 シヤ否ヤ破産ニ瀕シテ爲シタル行爲ナルヤ否ヤ等ヲ知ルノ便アリ振出ノ年月日モ事實ト符合スルヲ
 必要トセサルハ外觀的解釋ノ原則ノ一適用ナリ
 振出ノ年月日ハ手形ノ滿期日ヲ確定スルニ必要ナルコトアリ日附後確定シタル期間ヲ經過シタル日
 ヲ以テ滿期日トシタル手形ニ於テ其日附トハ振出ノ年月日ヲ謂フ又一覽拂ノ手形ニ在リテ支拂ヲ求
 ムルカ第メニスル呈示期間及ヒ一覽後定期拂ノ手形ニ在リテ引受ヲ求ムルカ爲メニスル呈示期間ハ
 振出ノ年月日ニ依リテ之ヲ計算ス(四八二條四六六條)

第七 滿期日 滿期日トハ手形金額ノ支拂アルヘキ日ナリ債權者ハ此時期ニ於テ支拂ヲ請求スルヲ得
 債務者モ亦此時期ニ於テ支拂ヲ爲ヌヲ得ルナリ

滿期日ノ記載方法ハ商法第四五〇條ニ之ヲ限定ス其他ノ指定ノ方法ヲ認メヌ唯我商法ハ英國手形法
 ニ倣ヒ滿期日ヲ記載セサルトキハ之ヲ一覽拂ノ手形ト看做ス(四五一條)

滿期日ニ關スル一般ノ原則ヲ舉ケルハ
 一 不能ナルヘカラス 不能ナル滿期日トハ振出ノ日附以前ノ時期ヲ指定シ又ハ二月三十日トスル
 カ如シ

二 不定ナルヘカラス 滿期日ノ到來スルヤ否ヤハ未定ナルヘカラサルノミナラス其到來ノ時期モ
 亦未定ナルヘカラス換言セハ滿期日ハ必然到來シ其到來スヘキ時期確定スルヲ要ス到來ノ未定ト
 ハ結婚後八日トシ成年ニ達シタル時トスルカ如シ到來スルコト必然ナルモ其時期ノ未定ナルトハ
 甲ノ死亡後五日トシ甲死亡ノ日ト定ムルカ如キヲ謂フ

三 滿期日ハ手形金額ノ全部ニ付キ一ナラサルヘカラス其一部ニ付テ或日ヲ滿期日トシ他ノ一部ニ
 付キ他ノ日ヲ滿期日ト定メ一月一日以後毎月金百圓ヲ支拂フヘシトスルハ不可ナリ又滿期日ノ重
 複的記載若クハ分離的記載ハ手形ヲシテ無効タラシムル則チ手形金額ノ全部ニ付キ滿期日ノ單一確
 定ナルヲ要スルナリ

四 年ノ記載ヲ缺クハ必スシモ手形ヲ無効タラシメス滿期日發行ノ年ニ在ルトキ例セハ三十八年六
 月一日ニ振出シタル手形ニ十月三十一日トスルハ可ナリ
 滿期日ヲ定ムルノ方法ニ依リ手形ヲ四種ニ分ツコトヲ得

- 一 定日手形 定日手形トハ確定ノ日ヲ以テ滿期日トシタル手形ヲ謂フ而シテ其日トハ一日ヨリ長カルヘカラス亦短カルヘカラス又其日ハ手形ニ記載スヘキハ當然ナルモ必スシモ曆日ナルヲ要セス三十八年ノ天長節トシ明年ノ紀元節トスルカ如シ
 - 二 日附手形 日附手形トハ日附後確定セル期間ヲ經過セル日ヲ以テ滿期日トシタル手形ナリ滿期日ヲ振出ノ年月日ニ依リテ確定スルナリ振出ノ年月日ヲ基礎トシテ算定スル點ニ於テ定日手形ト異ナレリ
 - 三 一覽拂手形 一覽拂ノ手形トハ呈示ノ時ニ於テ支拂ハルヘキ手形ヲ謂フ其支拂ヲ求ムルカ爲メニスル呈示期間ハ法律上一年ヲ以テ最長期トス其期間内ニ於テ債權者ノ行爲ニ因リテ滿期日定マレナリ
 - 四 一覽後定期拂手形 一覽後定期拂手形トハ一覽後確定ナル期間ヲ經過シタル日ヲ以テ滿期日トシタル手形ナリ其一覽ト稱スルハ法律上單純ナル一覽ノ意ナルカ將タ引受ヲ求ムルカ爲メニスルノ呈示ヲ指スカニ付テハ學說同シカラサルモ予ハ少クモ我商法ノ解釋トシテハ爲替手形ニ在リテハ後説ヲ可トス
- 第八 支拂地 支拂地トハ手形金額ノ支拂ハルヘキ地ナリ我商法ハ所謂同地手形ヲ認メ振出地ト支拂地ト相異ナル (Zigantia loch, Orsvenska hand) ヲ必要トセス而シテ支拂ハ支拂人ノ住所所在地ニ於テスルヲ通例トスルカ故ニ特ニ支拂地ヲ掲ケサルトキハ手形ニ記載シタル支拂人ノ住所所在地ヲ以テ支拂地トス(四五二條)若シ手形ニ住所地ノ記載ナキトキハ其手形支拂地ナキノ故ヲ以テ無効ナリ

住所地トハ形式のニ解スヘキカ將タ真正ノ住所地タルヲ要スルカハ一箇ノ疑問ナルヘシ獨國手形法ニ於テハ支拂人ノ傍ニ記載シタル地ハ事實ノ如何ニ拘ハラズ法律上形上ノ住所地タリト規定スルカ故ニ疑ヲ容ルルノ餘地ナシトス我商法ハ斯ル明文ヲ掲ケスト雖モ予ハ手形ノ外觀ノ解釋ノ原則ヨリ同一ニ論斷スルヲ得ヘシト信ス

數箇ノ支拂地ハ重複の若クハ分離の記載共ニ手形ラシテ無効ナラシム

- 第九 振出人ノ署名 爲替手形ハ其發行ノ當時ニ於テ主タル債務者ナクテ手形ハ振出人ノ擔保義務ニ基キテ流通ス從テ振出人ノ手形行爲者トシテ署名スヘキハ當然ナリ(明治三十二年法律第一七號參照)
- 會社カ振出人タル場合ニハ其會社ヲ代表スル者會社ノ商號ヲ記載シ且自己ノ氏名ヲ署セサルヘカラス(大審院判決錄第一一編第四卷一三五頁)
- 數人ノ振出人ハ固ヨリ法律ノ禁セサル所ニシテ數人ハ皆自己ノ手形行爲ニ基キテ手形上ノ債務ヲ負擔ス

印紙ヲ貼用スヘキハ印紙稅法ノ定ムル所ナリ(印紙稅法及ヒ明治三十七年法律第一號非常特別稅法)印紙ヲ貼用セサルトキハ法律ノ定ムル制裁アリト雖モ手形ヲ無効ナラシムルニ非サルナリ

第二款 約束手形

約束手形ハ我商法亦手形ノ一種トシ之ヲ爲替手形ト同列ニ置ク

約束手形ニ在リテハ振出人カ主タル債務者トシテ自ラ支拂ヲ爲スヘキ債務ヲ負擔シ第三者ニ支拂ノ委託ヲ爲スニ非ス從テ引受ノ制度アルノ理ナク引受ノ拒絕又ハ擔保請求ニ關スル規定ハ約束手形ニ應用

スヘカラス
約束手形發行ノ要件ハ商法第五二五條ノ列擧スル所ナリ而シテ其各箇要件ノ意義ニ付テハ前款ニ於テ爲替手形ノ要件ニ付キ述ヘタル所ヲ應用スヘキナリ手形文句、手形金額、受取人ノ氏名又ハ商號、振出ノ年月日、一定ノ満期日等ハ總テ爲替手形ト異ナルコトナシ唯約束手形ニ於テハ振出地ノ記載ヲ必要トシ支拂地ノ記載ナキ場合ニ於テハ振出地ヲ以テ支拂地トスルナリ(五二六條)而シテ其振出地トハ爲替手形ノ支拂地ト同シク事實上ノ振出地タルヲ要セサルハ外觀的解釋ノ原則ノ結果ナリ大審院モ近時此解釋ヲ採レリ尙ホ一言加フヘキハ振出人肩書ノ地ヲ振出地ト稱スルハ大審院ノ屢次判決セル所ナリ予ハ理論ニ於テ之ヲ是ナリトセス

第三款 變形手形

第一 振出人自己ヲ受取人トシタル手形 振出人ハ他人ヲ受取人トシテ指定スルヲ以テ通例トスルモ又自己ヲ受取人トスルコトヲ得(四四七條)此場合ニ於テハ同一人カ振出人ト受取人トノ資格ヲ併有スルモノニシテ此種ノ手形ハ發行ノ當時ニ於テ受取人未タ定マラサルカ又之ヲ發見セサルカ若クハ先ツ支拂人ニ引受ヲ爲サシメタル後之ニ依リテ流通ヲ容易ナラシメントスル等ノ場合ニ於テ發行スルナリ

振出人ト受取人トカ同一ナル手形ハ當然完全ナルヤ否ヤニ付テハ學者其說ヲ異ニス佛法ニ於テハ學說判例共ニ裏書アリテ始メテ手形トシテ完備ストスルカ如シ獨國ノ學者申引受又ハ裏書アリテ始メテ手形ノ成立ヲ論スル者ナキニアララト雖モ法律ハ振出人ニ許スニ自己ヲ受取人ト指定スルヲ明揭スルヲ以テ手形ノ完成ニ付テ振出人受取人カ別人ナル場合ト毫モ區別スヘキ理由ナキナリ手形ノ裏書ハ受取人タル資格ニ於テ爲スモノニシテ純然タル裏書ナリ之ヲ以テ發行行爲ノ補充ナリト解スヘカラス換言セハ振出ト裏書トヲ併セテ單一ノ行爲ト見ル能ハス則チ裏書ノ内容ヲ以テ振出内容ヲ補充スルヲ許サス殊ニ引受又ハ裏書アリテ始メテ手形トシテ成立スト論スルハ振出行爲ノ未タ完成セサル手形ノ引受裏書ニ因リテ手形タルノ效力ヲ生スルヲ認ムルニ歸着スヘシ然レトモ振出人ト受取人ト同一ナル場合ニハ債務者債權者ノ對立ヲ缺クヲ以テ未タ手形タルノ作用ヲ發揚セサルモノト云フヘキナリ

第二 振出人自己ヲ支拂人トシタル手形 同一人ニシテ振出人ト支拂人トノ資格ヲ併有スルハ亦我商法ノ認ムル所(四四七條)ニシテ支拂地振出地ノ同地ナルト異地ナルトヲ區別セサルナリ同一ノ商號ヲ有スル本店若クハ支店ト又ハ支店ト支店トノ間ニ於テ手形ヲ發行シ又ハ振出人カ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲サントスルトキハ此種ノ手形ヲ發行ス而シテ振出人支拂人ノ同一ナルハ手形ノ形式ニ明カナラサルヘカラス同一人ナルヤ否ヤハニ手形ノ外觀ニ依リテ決ス故ニ事實同一人ナルモ相異ナレル商號ヲ記載スルカ又ハ一方ニ於テハ氏名ヲ記載シ他方ニ於テハ商號ヲ記載シ又ハ二種ノ商號ヲ有スル者カ其一ヲ以テ振出人ト爲リ他ノ一ヲ以テ支拂人ト爲ルカ如キ場合ニ於テハ共ニ通常ノ手形ト云ハサルヘカラス
振出人自ラ支拂人トシテ手形ノ支拂ヲ爲スヘキ地位ニ在リ他人ニ支拂ヲ委託スルノ形ナク約束手形ニ類スト雖モ法律上之ヲ爲替手形ト論スヘキナリ從テ引受、引受拒絕及ヒ擔保請求ニ關スル規定ハ、皆之ヲ適用スヘク又所持人カ手形上ノ權利ヲ保全スルノ行爲ヲ爲ササルトキハ振出人ハ其資格ニ於

テ償還請求ノ義務ヲ免ルルニ至ルナリ

第三 他地拂手形 爲替手形ノ支拂人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ於テスルヲ通例トス而シテ振出人カ之ト異ナリタル地ヲ支拂地ト定メタルトキハ之ヲ他地拂手形ト稱ス此種ノ手形ヲ認ムルノ要ハ支拂人ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ商業上ノ交通ナキカ又ハ其交通ノ甚タ稀ナル場合ニ於テ特ニ交通ノ頻繁ナル地ヲ手形ノ支拂地トシテ之ニ依リテ手形金額ノ取立ヲ簡易ニシ手形ノ流通ヲ圓滑ナラシメトスルニ在リ

支拂地ハ支拂人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト相異ナレルコト亦手形面ニ明カナラサルヘカラス事實上ノ異地ハ法律ノ間フ所ニ非スニ地相異ナルモノ之ヲ手形ニ記載セサルトキハ他地拂手形ニ非ス又ニ地同シキモ相異セル地ヲ記載セルトキハ他地拂手形ナリ果シテ然ラハ支拂地及ヒ支拂人ノ營業所若クハ住所ノ所在地ト解スヘキ地共ニ手形ニ顯然タラサルヘカラス然ルニ商法第四五三條ニ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナルトキト云ヒ手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ト明言セサルヲ理由トシテ第四五二條ト對比シ其所謂住所地ハ手形ニ明記スルノ要ナシト論スル者アリ是レ文字ノ末ニ拘泥シテ他地拂手形ノ性質ヲ誤解シ手形ノ外觀ノ解釋ノ大原則ニ反スルモノト云ハサルヘカラス

他地拂手形ニ二種アリ振出人カ支拂地ニ於テ支拂人ノ爲メニ支拂ヲ爲スヘキ者(支拂擔當者)ヲ指定スルト然ラサルト是ナリ前者ヲ確定ナル他地拂手形ト云ヒ後者ヲ不確定ナル他地拂手形ト稱スルヲ通例トス不確定ナル他地拂手形ニ在リテハ支拂人引受ヲ爲スニ當リ支拂擔當者ヲ記載スルコトアリ之ヲ記載セサルコトアリ其記載ヲ爲サシムルノ便宜ヲ與フル爲メニ振出人ハ引受ヲ求ムル爲メニスル呈示期間ヲ定ムルコトヲ得支拂人引受ヲ爲シテ支拂擔當者ヲ記載セサルトキハ自ラ支拂地ニ於テ

支拂ヲ爲ササルヘカラス(四七二條)

約束手形ニモ他地拂ナルモノアリ商法第五二九條ニ於テ爲替手形ニ關スル第四五三條ノ規定ヲ約束手形ニ準用シタルカ故ニ他地拂約束手形トハ振出人ノ住所地ニ非サル地ヲ以テ支拂地ト定メタル手形ヲ指稱スルナリ

第四 無記名式手形 無記名式手形ハ所持人又ハ持參人ニ支拂フヘキ旨ヲ記載シタル手形ニシテ我商英米之ヲ認ム其他諸國ニ在リテハ概ネ之ヲ認メス
法ニ於テハ手形金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ發行スルヲ得ルナリ(四四九條)無記名式ノ發行ハ

第五 白地手形 白地手形トハ手形ニ記載スヘキ要件ヲ故ラニ記載セスシテ他人ヲシテ他日之ヲ補充セシムル意思ヲ以テ發行スル手形ナリ我商法其有效ナルヲ明定セス外國ノ法律概ネ皆然リ而シテ學說判例共ニ之ヲ有效ト認ムルカ如シ凡ソ手形ニ要件ヲ記載スルノ順序ハ法律ノ間ハサル所ニシテ時ニ於ケル先後ハ手形行爲ノ效力ヲ左右スルコトナシ故ニ發行者ニ於テ署名ヲ了シ將來他人ノ補充スル所ニ從テ責任ヲ負擔スルノ意思ヲ表示シタルトキハ法律ハ其意思表示ノ效力ヲ認メサルヘカラス

發行者ハ手形上ノ債務ヲ負擔スルノ意思ヲ以テ署名セサルヘカラス署名ノ必要ナルハ論ナク債務負擔ノ意思ノ必要ナルハ手形理論ニ於テ予ノ主張スル原則ノ當然ノ結果ナリ苟モ其意思存セサルトキハ善意ノ取得者ニ對シテモ債務ヲ負擔スルコトナキナリ
白地手形ハ要件ノ補充アルマテハ手形タルノ形體ヲ具ヘサルカ故ニ署名者ニ於テ未タ手形上ノ債務ヲ負擔セス所持人之ニ依リテ擔保ノ請求ヲ爲ス能ハサルハ明カナリ而シテ一旦補充アリタルトキハ

署名者ハ署名ノ當時ニ溯リテ責任ヲ負擔スルヤ將タ補充ノ時ニ於テ始メテ債務成立スルモノ問題ニ付テハ學說一致セズ然レトモ手形行為者ノ債務ハ署名ノ當時ヲ以テ之ヲ決スヘキモノナルハ反覆說述シタル所ニシテ而カモ補充權カ相續若クハ移轉スルヲ得ヘキ一種ノ財產權ナルヲ認ムル以上ハ署名者ノ意思ハ白地手形ヲ授與シタル當時既ニ補充スル所ニ從テ責任ヲ負擔セント欲スルニ在リテ其意思ハ既ニ確定セルモノト云ハサルヘカラス唯手形タルノ形體ヲ具ヘサルカ故ニ所持人ニ於テ權利實行ノ手段ヲ缺クニ過キサルノミ予ハ補充ノ溯及力ヲ説クヨリ寧ロ法律關係ノ成立ハ署名ノ當時ヲ以テ之ヲ決スヘキモノト論スルヲ當レリトス是ヲ以テ署名者死亡シ破産若クハ禁治産ノ宣告ヲ受ケ其他代理權消滅スルモ署名者ニ於テ補充スル所ニ從ヒテ債務ヲ負擔セントスル意思ニ影響ヲ及ホスノ理ナキナリ

補充權ハ一身ニ專屬スルノ權利ニ非ス署名者ハ補充スル所ニ從テ債務ヲ負擔スルノ意思ヲ表明シ特定人ニ對シテ債務ヲ負擔スルノ意思ヲ表示セザルトキハ手形轉讓ノ結果其所有權ヲ取得シタル者ニ對シテ債務者タラント欲スルモノト解セザルヘカラス是故ニ學者皆補充權ノ相續性、移轉性ヲ解クナリ

補充ノ方法ニ付テハ固ヨリ當事者間ニ於テ豫メ約セル所ニ從フヘキナリ手形金額、満期日等署名ノ當時尙ホ未定ナルトキハ金額ニ付テハ其最高限度ヲ約シ満期日ニ付テハ其最長若クハ最短期限ヲ約シテ手形ヲ授受スルノ如キ制限ヲ設ケタルトキハ之ヲ遵奉スヘキハ論ナク又當事者間約スル所ナキトキト雖モ慣例ノ認ムル普通ノ方法ニ依リテ補充セザルヘカラサルナリ特ニ手形ノ支拂地ヲ記載シテ之ヲ他地拂トスルカ如キ普通ノ方法ト認ムヘカラス阿トナレハ支拂ハ支拂人ノ住所地ニ於テス

ルヲ通則トシ其他ノ地ヲ記載スルトキハ振出人ハ償還請求ニ遭過スルノ虞アレハナリ而シテ所持人カ契約又ハ慣例ニ反シテ補充シタルトキハ署名者ハ補充權濫用ノ抗辯ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ善意ノ取得者ニ對シテ補充シタル所ニ從テ責任ヲ負擔セザルヘカラス終リニ一言スヘキハ白地引受モ白地手形行為トシテ前述セル一般ノ原則ニ從テ之ヲ論スヘキナリ

第二節 任意事項

予ノ任意事項ト稱スルハ通常手形ニ記載スル事項及ヒ特別ノ必要ニ基キテ特ニ記載スル事項ノ總稱ナリ我商法ハ手形法ニ規定セザル事項ノ之ヲ手形ニ記載スルモノモ手形上ノ效力ヲ生セザルノ大原則ヲ掲ケタル(四三九條)ヲ以テ任意事項ト雖モ手形上ノ效力ヲ生スルモノハ手形法ニ其規定ナカルヘカラス其他ノ事項ニ至リテハ法律敢テ其記載ヲ禁ズルニ非ス之ヲ記載スル手形ノ本體ニ反セザルニ於テハ其效力ヲ害セス唯手形法ニ規定セザルモノナルヲ以テ所謂直接ノ當事者間ニ於テ其效力ヲ有スルノミ任意事項ヲ大別シテ二トス

第一 手形上ノ效力ヲ生スル事項ヲ列舉スル左ノ如シ

- 一 裏書禁止(商四五條) 裏書ハ手形ノ通性ニシテ其要素ニ非ス振出人カ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ法律ハ其效力ヲ認ム
- 二 豫備支拂人(商四四八條) 豫備支拂人トハ支拂人カ引受又ハ支拂ヲ拒絕シタル場合ニ於テ其引受又ハ支拂ヲ爲スカ爲メ特ニ手形ニ指定セラレタルモノヲ謂フ豫備支拂人ノ引受又ハ支拂拒絕ノ後ニアラスンハ擔保義務者ハ擔保請求若クハ償還請求ニ應セスシテ可ナリ(四八〇條、五〇〇條)

- 三 支拂ノ場所(四五四條) 支拂ノ場所トハ支拂地内ニ於ケル確定的ノ場所ヲ謂フ此場所ハ爲替手形ニ在リテハ支拂人引受ヲ爲スニ當リテ之ヲ記載シ約束手形ニ在リテハ振出人ノ記載スルヲ例トス(四七三條)主タル債務者カ特定ノ場所ヲ選定シ其場所ニ於テ自ら支拂ヲ爲セハナリ我商法ハ振出人ニ於テ支拂ノ場所ヲ記載スルヲ認ムト雖モ如何ナル場所カ支拂人ノ最モ便宜トスル所ナルヤハ之ヲ知ルヘカラス
- 支拂ノ場所ノ記載アルトキハ所持人ハ其場所ニ於テ支拂ヲ求ムルカ爲メノ呈示ヲ爲スヘク支拂拒絶ノ場合ニハ其場所ニ於テ拒絶證書ヲ作ラシメサルヘカラス(商四四二條)我邦ニ於テ判例久シク區別タリシト雖モ大審院ハ遂ニ此見解ニ從ヘリ(大審院判決録第九輯第一卷三九九頁同第二三卷一一七七頁、第一〇輯第一五卷七五七頁、同第二〇卷一〇九頁)
- 四 支拂拒絶證書作成ノ免除(四八九條) 爲替手形ノ振出人此免除ヲ爲シタルトキハ所持人ハ支拂拒絶ノ場合ニ於テ拒絶證書ヲ作ラシメシテ之ニ對シ償還請求權ヲ行フヲ得ルナリ免除ノ法律上ノ效果ニ至リテハ他日ヲ俟テテ詳述スヘシ
- 五 呈示期間(四六六條、四七二條、四八二條) 一覽拂 一覽後定期拂及ヒ他地拂手形ノ呈示期間ハ既ニ述ヘタリ
- 六 支拂擔當者(四五三條) 他地拂手形ニ於テ振出人カ支拂擔當者ヲ記載シ得ルハ曩ニ説明シタルカ如シ而シテ支拂擔當者ノ記載ノ手形上ノ效力ハ第四九〇條ニ定ムル所ナリ
- 七 複本ノ指示(五一八條以下) 爲替ノ複本ヲ作りタル場合ニ於テハ各通ニ其複本タルコトヲ示スヘキ文字ヲ記載セサルヘカラス之ヲ記載セサルトキハ其各通ハ各獨立ノ手形トシテ效力ヲ生スル

ニ至ルヘシ(五八九條)

- 第二 手形上ノ效力ヲ生セサル事項ニシテ之ヲ記載スルヲ例トスルモノ左ノ如シ
 - 一 原因文句 原因文句ハ手形行爲ノ理由ヲ示ス文字ニシテ振出人ト受取人トノ間ニ於テ如何ナル理由アリテ手形ヲ發行シタルカラ表ハス此當事者間ニ於ケル實質的關係ハ即チ手形發行ノ原因ニシテ其原因固ヨリ一ナラスト雖モ我邦ニ於テ外國語ヲ以テ發行スル手形ニハ *Value received* 又 *Value paid* ノ文字ヲ用フルヲ常トス邦語ノ手形ニハ絶エテ原因文句ヲ記載スルノ例ナシ
 - 二 資金文句 資金文句トハ手形金額ノ支拂ニ對スル報酬ヲ示ス文字ニシテ支拂ヲ爲ス者ト資金義務者間ノ關係ヲ表ハス資金ハ商品タルコトアリ有價證券タルコトアリ振出人ノ支拂人ニ對スル債權ナルコトアリ振出人ハ支拂人ト信用契約ヲ締結シテ手形ヲ發行スルコトアリ凡ソ此等ノ場合ニ於テ資金關係ヲ表スルノ文字之ヲ資金文句ト稱ス此關係ノ手形上ノ法律關係ニ非サルハ既ニ述ヘタル所ニシテ所持人ハ振出人ニ對シテ資金義務ノ履行ヲ請求スルノ權利ナク又振出人資金義務ヲ履行セザルトキト雖モ所持人其權利保全ノ行爲ヲ爲サザルトキハ振出人ニ對スル權利ヲ失フナリ
 - 三 通知文句 振出人ハ爲替手形ノ發行ニ關スル事項ヲ支拂人ニ通知スルコトアリ之ヲ通知文句ト云フ今通知ニ從テ支拂ヲ爲スヘシト記載シタル場合ニ於テ支拂人ノ俟タスシテ支拂ヲ爲シタルトキハ資金關係ニ於テ大ナル不利ヲ被ルコトアルヘシ
 - 四 指圖文句 指圖文句トハ指圖式發行ヲ表スル文字ナリ「又ハ其指圖人」*orderer* ヲ通例ノ文字トス我商法ハ裏書ヲ以テ手形ノ通性ト認メタルヲ以テ指圖文句ノ記載ナシト雖モ手形ノ效力ヲ害ス

セサルハ勿論裏書ニ依リテ移轉スルヲ得ルナリ
手形法ニ規定セサル事項ハ固ヨリ手形上ノ效力ヲ生セスト雖モ直接ノ當事者間ニ於テハ其效力ヲ有ス
ヘク又ハ手形ニ記載セサル事項ト雖モ當事者間ノ契約トシテ抗辯ノ事由タルハ論ナキナリ

第三節 違式事項

形式ニ反スル事項ハ之ヲ二ニ區別スルヲ得ヘシ其一ハ手形ニ記載スルモ其效力ヲ生セサルニ止マリ手
形行爲ノ效力ヲ害セサルモノナリ一覽後定期拂又ハ他地拂手形ニ非サル手形ニ引受ヲ求ムルカ爲メノ
呈示期間ヲ記載シ又ハ期間ヲ指定シテ其期間内呈示ヲ爲スヘカラスト記載スルカ如キ其例ナリ其二ハ
手形行爲ヲ無効ナラシムルモノニシテ手形ノ本質ニ反スル事項トシテハ所持人ニ反對給付ヲ命ジ支拂
ニ條件ヲ附シ其他不定ノ條件ニ繫ラシムルモノノ如キハ皆手形ヲシテ無効タラシム爲替手形ノ振出人
カ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載シタル場合ニ於テ其效力如何ハ獨國學者ノ説ヲ異ニスル所ナリ然
レトモ未ダ引受アラサル手形ニ在リテハ振出人唯一ノ債務者タリ唯一ノ債務者ニシテ手形上ノ責任ヲ
負擔セサルトキハ債務者ナキ手形ト云ハサルヘカラス振出人ニ於テ責任ヲ除斥スルハ手形上ノ要件
ヲ缺クモノナリ而シテ我商法ハ振出人ノ無擔保ノ發行ヲ認メス故ニ其發行ハ無効ニシテ裏書ノ引受其
他手形行爲ノ基礎タルヲ得サルナリ

第四節 振出ノ效力

爲替手形ノ振出人ハ手形ノ發行ニ依リテ受取人及ヒ被裏書人ノ總員ニ對シテ引受及ヒ支拂アルヘキヲ
擔保ス此擔保義務ハ發行行爲ニ當然附隨スルモノニシテ振出人ニ於テ之ヲ負擔スル意思アルト否トヲ
問ハス又發行ノ直接ノ效果トシテ發生シ引受ノ拒絶又ハ支拂ノ拒絶アリテ始メテ成立スルモノニ非ス
獨國手形法ハ振出人ノ擔保義務ヲ明言ス我商法之ニ反シテ所持人ノ方面ヨリ引受拒絶ノ場合ニ於テハ
前者ニ對シ擔保ヲ請求スルヲ得(四七四條)支拂拒絶ノ場合ニ於テハ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スヲ得
(四八六條)ト定メ以テ振出人カ前者トシテ擔保義務アルヲ明カニス

第一 引受擔保義務 爲替手形ノ所持人ハ何時ニテモ之ヲ支拂人ニ呈示シ引受ヲ爲シ主タル債
務者トシテ手形上ノ債務ヲ負擔スルヤ否ヤノ意思ヲ表示セシムルヲ得之ヲ爲替手形ノ引受性(acceptance)
pflicht der Entsch.)ト稱ス蓋シ引受ハ手形ノ擔保力流通力ヲ増進スルモノニシテ支拂人一旦引受ヲ
爲シタルトキハ所持人ハ主タル債務者ヲ得テ其權利確實ナルニ至ル支拂人未ダ引受ヲ爲ササルトキ
ハ所持人之ニ對シテ支拂ヲ請求スルノ權利ヲ有セサルハ勿論振出人ニ於テ或ハ支拂ノ委託ヲ取消シ
資金ヲ回收シ又ハ資金處分ノ方法ヲ變スルノ自由ヲ有シ支拂人ハ其命ニ從ハサルヘカラスト雖モ一
度引受アリタルトキハ資金ハ則チ支拂ニ充當セラルヘク所持人ノ支拂ヲ得ルノ希望太ニ増加スヘキ
ナリ

振出人カ擔保ヲ供セサルヘカラスル場合ハ支拂人引受ヲ拒絶シ若クハ單純ナラサル引受ヲ爲シタル
トキ及ヒ支拂人引受ヲ爲シタル後破産ノ宣告ヲ受ケ所持人ノ請求ニ應ジテ擔保ヲ供セサルトキ是ナ
リ(四七四條、四六九條、四八〇條)

第二 支拂擔保義務 満期日到来ノ後所持人支拂ヲ求ムルカ爲メニ手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ之ヲ
得サルトキハ前者ニ對シテ償還請求權ヲ行フコトヲ得償還金額ノ支拂ヲ内容トスル債務ハ即チ振出

人ノ支拂擔保義務ナリ

約束手形ノ振出人ハ主タル義務者ニシテ其地位ハ爲替手形ノ引受人ニ同シ從テ引受擔保義務或ハ支拂擔保義務ヲ負擔セサルハ當然ナリ

第二章 裏書

第一節 裏書性

凡ソ證券ヲシテ裏書ニ依リテ權轉スルヲ得セシムルニハ指圖式ノ發行即チ指圖文句ノ記載ヲ必要トス然レトモ手形ハ法律上ノ指圖證券、當然ノ指圖證券、若クハ推定的ノ指圖證券ト稱スルモノニシテ裏書ヲ以テ通常ノ性質トス然レトモ裏書ハ手形ノ通性タルニ過キスシテ要素ニ非ス故ニ手形トシテ裏書ヲ爲スヲ得サルモノト爲スヲ妨ケス我商法ニ於テ爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ讓渡スコトヲ得ト定メタルハ則チ裏書性 (Analogie) ヲ認メタルモノナリ又振出人ニ於テ裏書ヲ禁止スルヲ得トシタルハ此禁止ハ手形タルノ性質ヲ傷フモノニ非サルノ意ヲ明カニス(四四五條)手形ハ當然裏書ヲ爲スヲ得ルモノナルヲ以テ此性質ヲ奪ハント欲セハ特ニ其旨ヲ記載セサルヘカラス之ヲ裏書禁止ト云フ(禁轉文句ト稱スル者アリ)此禁止ヲ命スルノ目ハ振出人ニ於テ引受人ニ對シテ有スル抗辯ヲ利用スルヲ得サルノ不利益ヲ免カレ且手形ノ流通ニ伴フ費用ノ償還ヲ免ルルニ在リ振出人ハ發行者トシテ手形ノ體樣ヲ定ムルノ全權ヲ有スルカ故ニ裏書ヲ禁止シタルトキハ裏書ヲ爲スヲ得サルハ當然ナリ然レトモ手形上ノ債權ヲシテ性質上讓渡スヲ得サルモノトスルニ非ス債權一般ノ

原則ニ從ヒ指名債權トシテ之カ讓渡ヲ爲スヲ得其讓渡ノ效力ニ付テハ民法ノ原則ニ從フカ故ニ振出人ハ抗辯制限ノ不利ヲ被ラサルナリ而シテ取立委任ノ裏書ヲ爲スヲ得ルヤ否ヤニ付テハ學說同シカラスト雖モ予ハ積極論ヲ採ルモノナリ取立委任ノ裏書ニ於テハ被裏書人ハ裏書人ノ權利ヲ行フモノニシテ自己ノ資格ニ於テ若クハ自ら手形ノ所有者トシテ其權利ヲ行フモノニ非ス從テ振出人ハ被裏書人ニ對シテ引受人ニ對抗スルヲ得ヘキ抗辯ヲ利用スルヲ得既ニ人的抗辯ヲ對抗スルヲ得ハ裏書禁止ヲ爲シタル趣旨ニ反セサルナリ

終ニ一言スヘキハ裏書ハ手形ノ唯一ノ移轉方法ニ非ス相續、會社ノ合併、競賣ニ於ケル競落、民事訴訟法ニ定ムル轉付命令皆手形移轉ノ方法ナリ

第二節 裏書ノ方式

裏書ハ手形行爲トシテ裏書人ノ手形ニ署名スルヲ要スルモ必スシモ手形其モノニ爲スヲ必要トセス補箋又ハ謄本ニ依リテ之ヲ爲スハ我商法ノ明定スル所ナリ(四五七條)手形ノ流通久シキニ亙リ許多ノ裏書アリテ遂ニ餘白ナキニ至リタルトキハ裏書ヲ爲サントスル者ハ所謂補箋ヲ作リ之ニ裏書ヲ爲スナリ補箋ハ手形ノ構成部分ヲ成スモノニシテ實質上竝ニ法律上ノ權利ノ執行ニ於テ分離スヘカラスル唯一ノ手形タリ又謄本ハ所持人ニ於テ之ヲ作ルモノニシテ(五二二條)原本ハ引受ヲ求ムルカ爲メニ送付シタル其間ニ於テ裏書ヲ爲サントスルトキ之ヲ用フルナリ(五二三條)複本ハ各通共ニ手形ヲ代表スルノ資格ヲ具有スルカ故ニ之ニ裏書ヲ爲スヲ得ルハ明文ヲ俟タサルナリ

裏書ハ手形行爲トシテ法定ノ形式ヲ履行セサルヘカラス其形式ニ二アリ裏書人カ被裏書人ノ氏名又ハ

商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シテ署名スルモノ之ヲ完全ナル裏書又ハ記名式ノ裏書ト稱シ裏書人カ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セス單ニ署名ノミヲ以テ爲スモノ之ヲ白地裏書 略式裏書(民訴七七八條)又ハ無記名式裏書ト稱ス(四六一條)

第一 記名式裏書 (Volindossament, special indorsement, indorsement in full)

記名式ノ裏書ニハ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルヲ要シ其裏書人カ別人ナルコト手形ニ明カナラサルヘカ

ラズ之ニ裏書ノ年月日ヲ記載スルハ其當時ニ於テ裏書人ノ能力者ナルヤ否ヤ支拂不能ノ状態ニ在リテ特定ノ債權者ヲ利シ若クハ一般ノ債權者ヲ害スルノ目的ニ出テタルヤ否ヤ拒絕證書作成期間ノ經過後ニ爲シタル裏書ナルヤ否ヤヲ知ルノ便アリ而シテ我商法ハ指圖文句、原因文句等ノ記載ヲ必要トセス裏書地ヲ記載セシムルハ裏書人ノ何人ナルカラ明カニシ擔保請求若クハ償還請求ヲ爲スニ當リ通知ヲ爲シ其他ノ效果ナキニ非スト雖モ亦裏書ノ要件ナラス獨國手形法ニ於テハ記名式ノ裏書ハ其年月日ヲ必要トセス而シテ學者ノ論スル所ニ依レハ其年月日カ事實ト符合セザルトキハ勿論其不能ナルトキ(例セハ二月三十日トスルカ如シ)後ノ裏書ノ日附カ前ノ裏書ノ日附ニ先ダツトキト雖モ裏書ノ效力ヲ妨クス又裏書ノ連續ヲ傷ケザルモノトス我商法ハ年月日ノ記載ヲ要件トスルヲ以テ年月日ニ關スル一般ノ原則ニ從ハサルヘカザサルナリ唯日附ヲ溯記スルノ妨ナキハ彼ノ外觀的解釋ノ原則上明カナリ大審院ノ判例(判決錄第九輯第三卷一四四頁)之ニ反スルハ不可ナリ

第二 無記名式裏書 (Blankindossament, Blankindorsements, indorsement in blank)

無記名式裏書トハ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セザル裏書ナリ之ヲ記載セザレハ裏書ノ年月日ヲ記載スルヲ妨

グス(大審院判決錄第九輯第二一卷一〇七一頁)裏書地、原因文句等ヲ記載スルヲ得ヘキハ言テ俟ク要セス
無記名式裏書ハ單ニ裏書人ノ署名ヲ以テ成ルカ故ニ手形ノ表面ニ爲ストキハ引受若クハ保證ト讀別スルヲ得サルヘシト雖モ其署名タルヤ裏書ナルノ意ヲ明カニ推知スルヲ得ハ必スシモ裏面タルヲ要セス
無記名式ノ裏書ハ被裏書人ヲ示ササルカ故ニ一度此裏書アリタルトキハ所得者ハ占有者タルノ資格ニ於テ當然手形上ノ權利ヲ行フヲ得ルニ至ルナリ無記名式ノ裏書アリタルトキハ爾後引渡ノミニ依リテ手形ヲ移轉スルヲ得ト云フ(四五七條二項)ハ則チ此意ナリ然レトモ無記名式裏書ハ手形ヲシテ純然タル無記名式手形ト變セシムルニ非ス當ニ其發行ノ形式ニ於テ異ナルノミナラス無記名式ノ裏書アリタル後ト雖モ其前ノ記名式ノ裏書ハ連續ノ形式ヲ備ヘサルヘカラス唯無記名式ノ裏書アリタル後ハ無記名式手形ノ如ク引渡ノミニ依リテ手形ヲ移轉スルヲ得ルニ至ルノミニ
無記名式裏書ハ手形ノ流通ヲ圓滿ナラシム且所持人ハ補充ヲ爲サス手形行爲ヲ爲サス引渡ニ依リテ手形ヲ移轉スルヲ得ルカ故ニ手形ノ活動ニ與カル者ハ自ら手形上ノ責任ヲ負擔スルコトナキナリ後者ニ對シテ擔保義務ヲ負擔セス又前者ニ對シテ請求ニ依リテ擔保償還ノ請求權ヲ有セザルナリ無擔保ノ裏書ニ於テモ裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負擔セスト雖モ裏書人ニ於テ引受又ハ支拂ヲ疑ヒ擔保義務ノ履行ヲ免カレントシ若クハ前者ニ信ヲ措カサルヲ表白スルカ故ニ大ニ手形ノ信用ヲ薄弱ナラシメ其流通ヲ阻害ス是ヲ以テ自ら無擔保ノ裏書ヲ爲サンヨリハ寧ロ前者ヲシテ無記名式裏書ヲ爲サシメ己ハ唯引渡ノミニ依リテ手形ヲ移轉スルノ便ナルニ如カス

無記名式ノ裏書ハ外國ノ法律ニ於テ認メサルモノ始ト之ナン佛法ハ第一三七條ニ於テ唯完全ナル裏書ノ形式ヲ定メ無記名式ノ裏書ニ付テハ何等明定スル所ナシ而シテ學者ハ代理權ノ授與トシテ其

效力アリト論シ手形ノ所得者ハ法律ノ定ムル要件ヲ補充シ即チ完全ナル裏書ノ形式ヲ完備セシメ (endossamentgültig)ト爲シタル後ニ於テ始メテ手形上ノ權利ヲ行フヲ得ルモノト説明ス
無記名式ノ裏書ニ依リテ手形ヲ所得シタル者ハ單ニ引渡ニ依リテ手形ヲ移轉スルヲ得ト雖モ固ヨリ裏書ヲ爲スヲ妨ケス而シテ其裏書ノ記名式タルト無記名式タルトヲ問ハサルナリ
無記名ノ裏書アルトキハ所持人ハ自己ヲ其裏書ノ被裏書人ト爲スコトヲ得(四六一條)之ヲ Umwandlung des Indossaments; Conversion of blank into special indossamentト稱ス是レ佛法ノ補充ト其義一ナラス其裏書ニ依リ若クハ引渡ニ依リテ手形ヲ取得シタル者共ニ手形ノ占有者トシテ當然手形上ノ權利ヲ行フヲ得ルナリ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルトキハ其裏書アルニ在ラサルハ裏書ノ連續ヲ缺クモノニシテ盗失若クハ遺失ニ因リテ他人カ權利者ト爲ルノ危険ヲ減セントスルノ趣意ニ外ナラサルナリ

第三節 裏書ノ效力

裏書ノ效力ヲ明カニセント欲セハ先ツ裏書ノ法律上ノ性質如何ヲ研究セサルヘカラス裏書ヲ以テ債權ノ讓渡トシタル(所謂 Cessionstheorie)ハ最古ノ學說ニシテ今日尙ホ稀ニ之ヲ主張スルモノアリ「ベルンスタイン」ブルンチル」ノ如シ然レトモ裏書人ハ裏書ニ依リテ全然權利ヲ喪失スルニ非ス裏書ノ後ト雖モ依然トシテ債權者タルノ資格ヲ保有シ又裏書人ノ擔保義務ノ普通ノ場合ニ於テ存スルコト裏書人カ權利者ナラサル場合ニ於テ善意ノ被裏書人ハ完全ナル權利者タルヲ得ルコト共ニ債權讓渡說ト相容レサルモノト謂ハサルヘカラサルナリ又裏書ヲ以テ債權讓渡ニ類似スル債權移轉ノ一種ナリトスル

ノ説「ブラッハマン」ハルトマン」ブルンチル」ノ如シモ同一ノ理由ニ因リテ採ルヘカラス裏書ハ振出ナリ(Das Indossament ist eine Transfer. Every indorser of a bill is in the nature of a new drawer)ト云フハ裏書及ヒ振出ハ各獨立ノ手形行爲ニシテ而カモ裏書ハ形式上振出行爲アルヲ前提トスルノ原則ヲ忘却セルモノナリ加之無擔保ノ振出ハ法律之ヲ認メス裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルヲ得ヘク又裏書人ハ振出人ト異ナリテ其前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ有ス是レ皆裏書ト振出トヲ同一視スヘカラサルノ證ナリ唯裏書人ハ振出人ト同一ノ義務ヲ負擔スル形容ノ文字トシテハ必スシモ不當ナラサルヘシ裏書ノ法律上ノ性質ヲ解明スルニハ足ラサルナリ裏書ヲ以テ保證ト解スル「アイチモルト」ハ保證ノ從タル手形行爲タリ無擔保ノ裏書タル所以ヲ説明スヘカラス又裏書ヲ更改トスル「ウンデル」ハ裏書ハ既存ノ法律關係ヲ消滅セシメサルニ視テ誤レルコト明瞭ナリ予ハ手形理論ノ章ニ於テ詳述シタル如ク裏書ハ手形ニ存スル權利ノ取得行爲ナリト説明セント欲ス惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ノ占有ヲ得タル者ハ完全ナル手形ノ所有者ト爲リ手形ノ所有者トシテ手形上ノ債權ヲ取得スルハ第四四〇條ノ解釋トシテ既ニ論シタル所ニシテ此規定ハ裏書ノ場合ニ最モ其適用ヲ見サルヘカラス被裏書人ハ裏書ニ依リテ手形ノ所有權ヲ取得シ從テ手形上ノ債權者ト爲ルナリ則チ物權ノ作用ハ裏書ノ主タル效力ニシテ債權ノ作用ハ寧ロ從タル效力ナリ債權ヲ取得ハ所有權取得ノ必然ノ結果ト稱スルキナリ(s. Randa Eigentumsrecht, 2. A. f. 12 s. 312 n. 6, Carlin Z. F. H. R. XXXVI s. 16 ff., Glucke abrid. XXIX s. 256, Afritzer ebend. XXXIX s. 375, Lehmann Wechsrecht § 123 s. 485, Derselle ebend. XXIX s. 26 ff., Tappenheim Begriff und Arten des Wechselpapiers s. 40 ff., Staub zu Vrt. 10 § 2 v. Canstein Wechsrecht § 20 s. 285)前述セル如ク被裏書人ハ裏書ニ依リテ手形ノ所有權ヲ取得スル

シテ其所有權ヲ取得スルハ所有權ノ移轉ナルカ將タ原始ノ取得ナルカハ是レ別個ノ問題ナリ此問題ニ對シテハ予ハ原則トシテハ所有權ノ承繼ノ取得トシ裏書人カ正當ノ權利者ナラサル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失ナキ取得者トシテ所有權ヲ取得スルハ之ヲ原始ノ取得ト解セント欲ス而シテ手形上ノ債權ニ至リテハ手形ノ所有權取得ノ當然ノ結果トシテ之ヲ取得スルモノニシテ當事者ノ契約ニ因ルニ非ス法律ノ規定ニ因ルカ故ニ之ヲ原始ノ取得ト説明スヘキハ理ノ當然ナリトス所有權ハ原則トシテ承繼ノナリト云ヒ債權ハ常ニ原始ノ取得ナリト説クハ一見甚ダ奇ナルカ如シト雖モ第四〇〇條ヲ基礎トシテ手形ノ物權ノ效力ヨリ斯ク論決セサルヘカラサルナリ尙ホ一言附加スヘキハ學者往往論シテ曰ク裏書ト債權ノ讓渡トハ當事者ノ意思ニ於テ異ナル所アリ普通ノ債權ニ在リテハ債務者ハ直接ニ其當初ノ債權者ニ辨濟スルノ意思ヲ有ス他人ニ辨濟セサルヘカラサルニ至ルハ債權カ其私法上ノ性質ニ於テ移轉スルヲ得ヘキカ故ナリ之ニ反シテ指圖式ノ證券ニ在リテハ債務者ハ證券發行ノ當時ヨリ債權ノ移轉アルヘキヲ豫想シ債權者ノ誰タルヲ問ハス之ニ債務ヲ履行スヘキ意思ヲ表示シタルナリ此故ニ普通債權ノ讓渡人ノ有シタル權利ヲ承繼シ又讓渡人カ權利ヲ有シタルカ故ニ讓受人モ亦權利ヲ取得ス讓受人ノ取得スル權利ハ讓渡人ノ有シタル權利ヨリ大ナルヲ得ス債務者ハ讓渡人ニ對シテ有スル人の抗辯ヲ利用スルヲ得之ニ反シテ指圖式ノ證券ニ在リテハ讓受人ハ皆債務者ノ豫期シタル債權者ナルヲ以テ當初ノ債權者若クハ中間ノ讓受人ニ對スル人の抗辯ニ對抗スルヲ得スト是レ頗ル巧妙ナル説明ニシテ我民法指名債權、指圖債權讓渡ニ應用シテ極メテ適切ナルヘシ然レトモ予ノ被裏書人獨立ノ權利ヲ取得スト云フハ此區別ニ基クニ非ス被裏書人ハ手形ノ物權ヲ承繼セシテ原始ノ債權者トシテ債權ヲ取得ストスルニ在ルナリ債務者ノ裏書人ニ對スル人の抗辯ヲ認メサルハ原始ノ取得ノ當然ノ結果ナ

學者裏書ノ效力トシテ移轉力及ヒ擔保力ヲ舉クルヲ通例トス移轉力(Transportfunktion = effect)トハ主トシテ手形上ノ債權カ被裏書人ニ移轉スルヲ説明スルノ文字ナリ然レトモ所有權ニ付テハ承繼ノ若クハ原始ノ取得トシ債權ニ付テハ原始ノ取得トスルカ故ニ移轉力ナル文字ヲ用フルモ唯所有權ノ承繼ノ取得ヲ表スルニ過キス而カモ移轉力ハ裏書ニ缺クヘカラサル效力ニ非サルナリ前者正當ノ權利者ニ非スシテ後者完全ナル權利ヲ取得スレハナリ又擔保力(Garantiefunktion = effect)トハ裏書人ニ於テ手形上ノ擔保義務ヲ負擔スルノ意ヲ表スルノ文字ナリ然レトモ擔保力亦裏書ノ要素ニ非サルナリ無擔保ノ上ノ擔保義務ヲ負擔セス(四五九條)支拂拒絕證書作成ノ期間經過後ニ於ケル裏書ハ均シク裏書ナリト雖モ裏書人亦手裏書アリ(四五九條)支拂拒絕證書作成ノ期間經過後ニ於ケル裏書ハ均シク裏書ナリト雖モ裏書人亦手形上ノ債務ヲ負擔セス(四六三條)唯裏書人裏書ヲ爲スニ當リテ何等記載スル所ナクハ當然被裏書人形上ノ債務ノ全員ニ對シテ引受及ヒ支拂アルヘキヲ擔保シ其義務ノ本體ニ於テハ振出人ノ擔保義務ト及ヒ其後者ノ全員ニ對シテ引受及ヒ支拂アルヘキヲ擔保シ其義務ノ本體ニ於テハ振出人ノ擔保義務ト異ナルナシ擔保義務ハ裏書ノ常素ナルノ意ニ於テ擔保力ヲ論スルハ敢テ失當ナルニ非ス約束手形ノ裏書ニ於テハ裏書人ハ固ヨリ引受アルヲ擔保スヘキニ非ス所謂支拂擔保義務ヲ負擔スルノ意アルト否裏書人ノ擔保義務ハ法律ノ規定ニ因リテ當然發生シ裏書人ニ於テ之ヲ負擔スルヲ欲スルノ意アルト否トヲ問ハス當然裏書ニ伴フモノナリ然レトモ此義務ハ裏書ノ本體ヲ爲スニ非スシテ裏書人裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ負ハサルヲ記載スルハ我商法ノ認ムル所ナリ(四五九條)予ハ之ヲ無擔保ノ裏書(ohne oblige, sans recours, without recourse)ト稱ス此裏書ハ手形ノ信用ヲ傷タルカ故ニ外國ニ於テハ之ヲ爲ス極メテ稀ナリ而シテ無擔保ノ裏書ヲ爲シタル者ハ其後者ノ各員ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負擔セサルハ論ナク其效力ハ唯其裏書ニ付テノミ存スルモノニシテ他ノ手形行爲ニ關セス前ニ裏書ヲ爲

シタル者ハ固ヨリ後ニ裏書ヲ爲シタル者モ亦無擔保ノ利益ヲ主張スルヲ得ス是レ手形行爲ハ各獨立シテ其效果ヲ生シ行爲者ハ各其自ラ爲シタル行爲ノ拘束ヲ受タルノ原則ヨリ生スル結果ナリ尙ホ一言加フヘキハ裏書人ニ於テ手形上ノ責任ヲ負ハサルハ之ヲ手形ニ明記スルトキハ物の效力ヲ生シ之ヲ記載セサルモ裏書人及ヒ被裏書人ノ間ニ於テ其效力ヲ有スルナリ

裏書ハ手形ニ存スル權利及ヒ手形ヨリ生スル權利ニ關スルノミ故ニ裏書ハ當然質權、抵當權、保證、違約金等ノ附屬的權利ヲ移轉セズ振出人ノ支拂人ニ對シテ引受ヲ爲サシムルノ民法上ノ權利ヲ移轉セズ支拂人ノ手ニ存スル資金移轉ノ效果ヲ有セス裏書人ノ其前者ニ對スル特約上ノ權利ニ關スルコトナク又裏書ノ實質上ノ基礎タル法律關係ハ被裏書人ノ干與スル所ニ非サルナリ

被裏書人カ手形ノ占有ヲ取得セサルヘカラサル手形上ノ權利ハ手形ト雖ルヘカラサル關係ヲ有スルノ原則ニ照シテ當然ラサルヲ得ス手形ノ所有者トシテ手形上ノ債權者タルニハ手形ノ占有ナカルヘカラス裏書ニ手形ノ交付ヲ必要トスル(大審院判決錄第九輯第一〇卷七五四頁)ハ明白ナリ爲替訴訟ハ證書訴訟ノ一種ニシテ手形ト雖ルヘカラス又裏書人カ其後者ノ請求ニ應ジテ償還ヲ爲シ更ニ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニ當リテハ手形ノ占有ヲ必要トスルモノニシテ擔保義務者ハ手形ト交換的ニ其義務ヲ履行スルナリ(四九五條)

裏書人ノ其前者ニ對シテ行フ權利ハ擔保請求權タルト償還請求權タルトヲ問ハス管テ被裏書人トシテ有シタル權利ニシテ自ラ擔保義務ヲ履行シテ新ニ取得スル權利ニ非サルハ學者ノ普ク認ムル所ナリ故ニ債務者ハ償還ヲ爲シタル裏書人ニ對シテハ其後者ニ對抗スルヲ得ヘカリシ抗辯ヲ利用スルヲ得サルハ當然ナリ債務者ト後者トノ間ニ於ケル關係ハ償還ヲ爲シタル裏書人ノ與リ知ル所ニ非ス然レトモ其

權利ノ成立ノ時期ニ付テハ學者其說ヲ異ニス「レーマン」曰ク相次ク手形ノ所持人ハ共同債權者ニシテ手形ヲ所持スルトキハ各其權利ヲ行フコトヲ得裏書人ハ手形ノ所有權ヲ喪失シタル後ト雖モ其前者ニ對スル請求權ハ同時ニ消滅スルニ非ス裏書人ハ裏書ノ後依然トシテ前者ニ對スル請求權ヲ保有ス裏書ハ唯手形ノ所有權及ヒ直接支拂ヲ請求スル權利ヲ移轉スルニ過キスト (Wechsrecht § 60 s. 255 ff.) 「スタウプ」曰ク裏書人ハ裏書ヲ爲シタルニ拘ハラズ尙ホ債權者タルノ資格ヲ保有ス唯其權利ノ行使ハ償還ヲ條件トスト (Art. 10 § 6) 之ニ反シテ「グリント」ハ論シテ曰ク後者カ債權者タルニ至リタルトキハ同時ニ前者ハ債權者タルノ資格ヲ喪失スト雖モ其權利ノ消滅ハ解除條件附ニシテ則チ溯求權行使ノ結果再ヒ手形ヲ取得スルニ至ラサルヲ條件トス故ニ其條件成就シタルトキハ前者ノ管テ有シタル債權ハ再々其效果ヲ現ハスト (Wechsrecht II § 28 s. 362) 「ヤルンスタイン」モ亦其說ヲ同シケス (Art. 10 § 3. 2) 然レトモ解除條件ハ其成就ノ時ヨリ其效力ヲ生スル(民一七七條二項)ノミナラス裏書人ノ權利ハ手形カ再ヒ其有ニ歸セサルヲ條件トシテ消滅スト解スルハ甚タ奇ナリ而カモ法律ニ於テ必要トスルモノハ則チ法律上ノ條件ト稱スルモノニシテ真正ノ意義ニ於ケル條件ニ非サルナリ裏書人カ引受拒絕證書ト引換ニ後者擔保ヲ供シタルトキハ手形ヲ取得スルコトナクシテ其前者ニ對シ擔保請求權ヲ行フヲ得ルハ裏書人カ尙ホ債權者タルノ資格ヲ保有スルノ明證ト云フヘキナリ

第四節 一部裏書

一部裏書 (Teilindossament) トハ手形金額ノ一部ニ付テ他人ヲ被裏書人タラシムル裏書ヲ謂フ一部裏書ノ效力ニ付テハ學說同シカラサルモ之ヲ講究スルノ實益ハ殆ト之アルナシ然レトモ手形金額カ頗ル大

ニシテ一時ニ之ヲ利用スルノ途ナキ場合ニ於テハ第一通第二通ニ各別ノ金額ヲ記載シ各別ニ之カ裏書ヲ爲スハ裏書人ノ便トスル所ナルヘシ而シテ先ツ注意スヘキハ一部裏書トハ一箇ノ手形ニ依リテ數人カ各別ニ手形上ノ權利ヲ行フノ結果ヲ來スモノナラサルヘカラス故ニ一箇ノ手形ヲ數人ニ裏書シタル場合ニ於テ其裏書人カ共同シテ權利ヲ行フハ之ヲ一部裏書ト稱スヘカラス又手形金額ノ一部ノ支拂アリタル場合ニ於テ被裏書人其殘額ノ全部ニ付テ權利ヲ行フモ亦一部裏書ニ非ス

一部裏書ノ效力如何ニ付テハ獨國學者ノ說消極積極相半スト謂フヘシ而シテ我商法ノ解釋トシテハ予ハ一部裏書ノ無効ナルヲ主張ス其理由ヲ略述スレバ取立委任ノ裏書、質入裏書、無擔保ノ裏書、裏書禁止ノ裏書等凡ソ法律ノ有效ト認ムル裏書ハ各之カ明條ヲ掲ク而シテ獨リ一部裏書ニ及ハサルハ豈以ナシトセシヤ殊ニ我商法ハ第四三九條ニ於テ凡ソ手形上ノ效力ヲ生スヘキ事項ハ皆法律ノ規定アルヲ要ストセルヲ以テ一部裏書ハ我商法ノ認メサル所タルヤ明瞭ナリ或ハ一部ノ引受一部ノ支拂有效ニシテ獨リ一部裏書ヲ無効トスルノ謂ハレナシト論スト雖モ前者ハ共ニ我商法ノ明定スル所ニシテ決シテ之ヲ以テ彼ヲ推スヘカラサルナリ予ハ獨國手形法ノ解釋トシテ一部裏書ヲ無効トスルノ說ニ賛成ス今參考ノ爲メ有效說ノ主要ナル理由ヲ綜合スレバ

- 一 一部裏書ヲ禁シタル明文アルナシ而シテ金額ノ支拂ヲ目的トスル請求權ハ其性質可分ナルヲ原則トス一部引受、一部支拂ヲ認メ獨リ一部裏書ヲ認メサルノ理由ナシ
- 二 數人ニテ手形上ノ權利ヲ相續スルハ固ヨリ有效ニシテ一部裏書ト何等區別スル所アラズ
- 三 一覽拂ノ手形ニ在リテハ滿期日ハ手形金額ノ全部ニ付キ一定ナラサルヘカラス故ニ一部裏書ニ於ケル被裏書人ノ一人支拂ヲ求ムルカ爲メニ手形ヲ呈示シタルトキハ他ノ被裏書人ニ對シテモ滿期日

到來シタルモノトセサルヘカラス

四 裏書人ハ數通ノ複本ニ依リテ數人ニ手形金額ノ全部ヲ裏書シ裏書人ハ之カ爲メ各通ニ付テ全額ノ責任ヲ有スルニ至ルヘキナリ果シテ然ラハ何故ニ有效ニ一部ノ裏書ヲ爲スヲ得サルヤ

五 支拂人ハ引受ノ義務ヲ負擔セサルカ故ニ分割的ノ支拂ヲ爲スヲ好マサレハ唯支拂ヲ拒絕シテ可ナリ分割拂ニ對シテ異議ヲ唱フルノ理由ナシ

以上ハ有效說ノ論據ナルモノトシテ首肯スヘキモノナシ第一點ニ付テハ一部引受ヤ一部支拂ヲ有效トスルハ擔保義務者ノ利益ヲ謀リタルニ在リテ所持人ノ之ヲ拒絕スヘカラサルノミ權利トシテ一部支拂、一部引受ヲ請求スルヲ得セシムルノ意ニ非ス第二點ニ付テハ予ハ數人ノ相續人ハ共同シテ權利ヲ行フモノニシテ觀念ニ於テ一部裏書ト同シカラス第三點ニ付テハ數人ノ被裏書人共同シテ呈示スヘシト論セハ一部裏書ヲ認ムルノ精神ニ反スヘク亦事實ニ於テ不可能ナリ又有效論者ノ云フ如ク一人ノ呈示アリトキハ他人ノ之ヲ知ラサルモ全額ニ付テ當然滿期日到來ストスルハ被裏書人ハ一覽拂手形ノ所持人トシテ各獨立シテ手形ヲ呈示スルノ權利ヲ有スルノ趣意ニ適ハス第四點ハ手形ノ濫用ヲ根據トスルモノナリ終ニ第五點ハ引受ヲ爲シタル後ニ在リテハ全ク當ラズ未タ引受ヲ爲ササルトキト雖モ引受若クハ支拂ノ拒絕ハ振出人ニ對スル契約上ノ義務ニ違反スルニ至ルヘキナリ其他微細ノ點ニ至リテハ茲ニ説述スルノ限ニ在ラス

第五節 裏裏書

裏裏書 (Ankündigung) トハ既ニ手形上ノ法律關係ニ立チタル者ニ爲ス裏書ヲ謂フ故ニ裏裏書ニ依

リテハ既ニ手形行為ヲ爲シテ手形上ノ債務ヲ負擔シタル者カ更ニ被裏書人トシテ手形ヲ取得スル場合ヲ生ス我商法第四五六條ニ於テ振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ手形ヲ讓渡セタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ト定メタルハ一ハ此等ノ債務者ト雖モ尚ホ被裏書人タルヲ得ヘキヲ示シ一ハ被裏書人トシテ更ニ裏書ヲ爲スヲ得ヘキヲ明カニシタルナリ蓋シ流通證券トシテ發行シタルモノハ其満期ノ到來スルマテハ活動力ヲ具フルモノニシテ單ニ特定ノ債權者ノ爲メニ設定シタル通常ノ債權債務ト同視スヘカラサルモノアリ而シテ我商法ハ振出人、引受人、裏書人ノ三者ヲ擧スルニ過キスト雖モ之ヲ制限ノ列擧ト解スルハ甚タ非ナリ引受人ハ爲替手形ノ主タル債務者ニシテ被裏書人トシテ債權者タルニ至リタルトキハ混同ノ條件ノ最モ備ハレルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ法律ハ引受人モ尚ホ裏書ヲ爲スヲ得ト定メタルヨリ推論スレハ參加引受人モ亦然リトセサルヘカラス又保證人ハ從タル債務者ニシテ其主タル債務者タル引受人、振出人、裏書人裏書ヲ爲スヲ得テ獨リ保證人ノ之ヲ爲スヲ得ナルノ理由アラズ其他手形行為ヲ爲サス債務ヲ負擔セサル支拂人、豫備支拂人、支拂擔當者ノ如キハ手形上ノ法律關係ヨリ見レハ其地位毫モ第三者ト異ナラス

手形上ノ債務ヲ負擔シタル者戻裏書ニ依リテ被裏書人タルトキハ一方ニ在リテハ債務者タリ他ノ一方ニ在リテハ債權者タルカ故ニ一人ニシテ二者ノ資格ヲ併有スルノ狀ヲ呈ス此場合ニ於テハ債務者タル資格ニ於ケル債權者ニ對シテハ已レ債權者タル資格ニ於テ手形上ノ權利ヲ行フヲ得サルナリ然レトモ其權利行使ノ故障ハ已レ一方ニ於テ債務者タル資格ヲ有スルカ故ニシテ則チ人的故障ナリ他ノ債務者ノ手形行為カ爲メニ消滅シ若クハ其效力ヲ失フニ非ス故ニ更ニ裏書ヲ爲シタルトキハ其被裏書人ハ一切ノ債務者ニ對シテ權利ヲ取得シ又之ヲ行使スルヲ得ルナリ

ヲ得「獨逸」ノ「コーレル」氏ハ以上ノ見解ニ反シテ匿名組合員ノ債權額ヲ算定スルノ標準タル組合營業ノ狀態ハ該營業カ管財人ノ營業ノ續行ニ因リ利益ヲ生スルニ至ルコトアルヲ以テ匿名組合員ノ破産債權ハ破産宣告ノ當時ニ於テハ條件附債權ト謂フヘク又組合營業カ管財人ノ營業ノ續行ニ依リ終了シタル場合ニ於テハ匿名組合員ノ債權額ノ確定ハ破産手續ニ依ルヘキ旨ヲ主張シタルト雖モ這ハ「イェゲル」
「シュタウツ」氏ノ贊成セサル所ナリ)法人ノ債務ニ付キ其債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ旨殊ニ合資會社ノ有限責任社員(商一〇四條)ノ破産ニ在リテハ法人ノ債權者ハ有限責任ヲ負フ者カ未タ法人ニ給付セサル出資額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ蓋シ有限責任ヲ負フ者ハ唯其未済ノ出資額ノミ付キ法人ノ債權者ニ對シ責任ヲ負フモノナレハナリ故ニ法人ノ數多ノ債權者ノ届出ヲタル債權總額カ未済ノ出資額ヲ超越シタル場合ニ於テハ各債權者其金額ノ割合ニ應シテ減少シ其減少額ニ對シ配當ヲ爲スコト爲ル(獨商一七一條)破産手續ニ於テ斟酌スヘキ破産債權ノ額ニ付テハ債權調查會ニ於テ之ヲ確定ス無限ノ責任ヲ負フ者殊ニ無限責任社員(商六三條、一〇條、二三五條)ノ破産ニ在リテハ法人ノ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ(破案一七條、瑞破二二八條二項)蓋シ法人ノ債權者ハ法人ノ債務ニ付キ其債務者ノ爲メニ無限ノ責任ヲ負フ者ニ對シ財產上ノ請求權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ヲ無限責任ヲ負フ者ノ他ノ債權者ト區別スルノ理ナケレハナリ故ニ無限責任ヲ負フ者ノ破産ニ於テ法人ノ債權者カ配當ヲ受ケタルトキハ破産者タル無限責任ヲ負フ者カ配當額ノ割合ニ應シ法人ノ債權者ニ代位ス(民五〇〇條)無限責任社員ハ保證人ト其法律上ノ地位ヲ同シウス(2)法人殊ニ會社ノ破産ニ在リテハ社員及ヒ株主カ法人ニ對シ貸借其他ノ原因ニ基キ有スル債權ハ他ノ債權ト同シク破産債權ナリト雖モ社員及ヒ株主カ法人ニ對シテ有スル持分權ハ破産債權ニ非ス蓋シ社員及ヒ株

主ハ其持分ニ應シテ法人ノ解散ニ際シ其債務ヲ完済シタル殘餘財産ニ付キ配當ヲ受クルニ止マルヲ以テ社員及ヒ株主ノ持分權ハ法人ノ借方ニ屬セス隨テ之ヲ法人ニ對スル債權ト謂フコト能ハサレハナリ然レトモ株式會社ノ破産宣告前ニ於テ適法ニ株主ノ受クヘキ利益ノ配當額ニシテ未タ支拂ハレサルモノハ破産債權タルコトヲ妨ケス何トナレハ、斯ル配當額ハ持分ヲ增加スルモノニ非サルヲ以テ之ニ持分ニ伴フ危險ノ存スヘキ理ナクレハナリ(3)單純承認ヲ爲シタル相續人ノ破産ニ在リテハ相續債權者及ヒ受遺者ハ財産ノ分離アリタルトキト雖モ其債權ノ全額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ蓋シ相續人ハ單純承認ノ效果トシテ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ總財産相續財産及ヒ固有財産ヲ以テ辨濟ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒ又相續人ノ債權者ノ爲メニシタル財産ノ分離ハ相續人ノ固有財産ニ付キ相續人ノ債權者カ相續債權者及ヒ受遺者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ原因ト爲リ相續債權者及ヒ受遺者ノ爲メニシタル財産ノ分離ハ相續財産ニ付キ相續債權者及ヒ受遺者カ相續人ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ原因ト爲ルニ過キサレハナリ限定承認ヲ爲シタル相續人ノ破産ニ在リテハ相續債權者及ヒ受遺者ハ破産債權者ト爲ラス何トナレハ相續債權者及ヒ受遺者ハ唯相續財産ノミニ付キ満足ヲ受クルニ止マレハナリ(破産一九條、二一條、民一〇二五條、一〇四八條、一〇五〇條、(4)相續財産ノ破産ニ在リテハ(破産及獨破ニ於テ)相續財産ニ對シ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルハ疑ナシト雖モ現行破産法及ヒ佛法系ノ破産法ニ於テハ相續財産ニ對シ破産ノ宣告ヲ爲スコトナシ蓋シ相續財産ハ商人ニ非サルヲ以テナリ)相續債權者及ヒ受遺者カ破産債權者ト爲ル蓋シ相續債權ハ被相續人カ負ヒタル債務又遺贈ニ基ク債權ハ相續人カ其資格ニ於テ負ヒタル債務ニシテ孰レモ相續財産ヲ以テ之カ辨濟ヲ爲スヘキモノナレハナリ被相續人ニ對シ債權ヲ有スル相續人ハ相續ノ結果トシテ該債權カ消滅セサルトキニ限り破産

債權者ト爲ル故ニ相續人ハ相續財産ニ對スル破産ノ宣告前ニ未タ何等ノ承認ヲ爲サス若クハ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テ破産債權者ト爲ルト雖モ(民一〇二七條)相續財産ニ對スル破産ノ宣告前又ハ其後ニ於テ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産債權者ト爲ラス何トナレハ、斯ル場合ニ於テハ相續人ノ權利ハ混同ニ依リ消滅セルヲ以テナリ又被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ出捐ヲ爲シタル相續人ハ其出捐カ相續財産ニ對スル破産ノ宣告前ナルト否トニ拘ハラズ單純承認ヲ爲ササルトキニ限り該出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ是レ蓋シ相續人ヲシテ其出捐ニ因リ辨濟ヲ受ケタル債權者ニ法律上當然代位スルコトヲ得セシメ以テ該債權者ト同順位ニ又ハ之ヨリ劣等ノ順位ニ在ル他ノ債權者カ相續財産ニ對スル破産ニ於テ受クヘカリシ金額ニ付キ相續人ノ損害ニ於テ不當ニ利得スルニ至ルノ結果ヲ避ケタルノ法意ニ外ナラス然レトモ被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ出捐ヲ爲シタル相續人カ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ其承認ノ破産宣告前タルト否トニ拘ハラズ該出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ス何トナレハ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ其相續人ハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルモノナルヲ以テ被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ爲シタル出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行ハシムルモノ徒ニ手續ヲ煩雜ナラシムルニ止マリ何等ノ實益ナクレハナリ(破産二三條、民九六七條、九九三條、一〇二一條、一〇二三條、一〇二四條、一〇二七條、一〇二八條、一〇四四條、一〇五〇條、獨破二二五條、獨民一九七八條、一九七九條)

(D) 破産宣告前ニ發生シタル原因ニ由ル權利 破産債權ハ破産宣告前ニ發生シタル原因ニ由ル權利ナルコト即チ破産宣告後ニ成立シタル權利ニ非サル權利ナルコトヲ要ス權利ハ實體法即チ公私法ニ於テ定メタル成立要件カ完備スルニ至リタルトキニ於テ成立ス故ニ權利ノ成立ニ必要ナル要件カ破産宣告

後ニ完備スルニ至リタル場合ニ於テハ縱令權利ヲ發生セシムル法律關係カ破産宣告前ニ現存スルトキト雖モ之ニ因リテ成立シタル權利ヲ破産債權ト爲スコトヲ得ス是レ蓋シ債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ爾後破産財團ニ屬スル財産ニ付キ破産債權者ニ對シ有效ナル處分ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ破産宣告後ニ成立シタル權利ハ破産者ノ法律行為ニ因ルモノナルト不法行為ニ因ルモノナルトノ區別ヲ問ハス之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得サルノ當然ナル論結ニ過キサルヘシ是ヲ以テ(1)期限附權利即チ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ期限ノ到來セサル權利ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得終期附權利即チ債務者カ破産宣告ヲ受ケタル當時ニ於テ未タ終期ノ到來セサル權利ハ解除條件附權利ト同シク該宣告ノ當時ニ於テ既ニ成立セルモノナルヲ以テ之ヲ破産債權トシテ期限ヲ附セサル權利ト同シク主張スルコトヲ得ルヤ言フ俟タス(民二三五條二項、獨民一六三條一、五八條)始期附權利即チ債務者カ破産宣告ヲ受ケタル當時ニ於テ未タ履行期ノ到來セサル權利ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得蓋シ始期ハ單ニ權利ノ履行ヲ延引セシムルモノニシテ權利ノ成立ヲ妨タルモノニ非ス隨テ破産宣告ノ當時未タ履行期ノ到來セサル權利ハ破産宣告ノ當時ニ於テ既ニ成立シタルモノト謂ハサルヲ得サルレハナリ(民二三五條一項、獨民一六三條)加之履行期ノ未タ到來セサル債權ハ債務者ノ破産宣告ニ因リテ法律上當然履行期ニ至リタルモノト爲ル(民一三七條一號、破案九條、商九八八條一項、獨破六五條一項、佛商四四四條一項、埃破一四條、英破補則債權調査法二一條等)其理由ハ總破産債權者間ニ於テ平等ノ關係ヲ嚴格ニ維持シ履行期ニ達セサル債權者ヲ害シテ履行期ニ達セル債權者ノミ支拂ヲ受クルノ不公平ナル結果ヲ除去シ履行期ニ達セサル債權者モ亦破産手續ニ從ヒテ満足ヲ受タルコトヲ得セシムルノ法意及ヒ成立ノ確實ナル期限附權利ニ對スル配當額ヲ履行期ノ到來マテ供託スルカ如キハ徒ニ破

産手續ノ遅延ヲ來シ期限附債權者及ヒ其他ノ破産債權者ノ利益ニ反スルヲ以テ成ルヘク迅速ニ破産手續ヲ終結セシムルノ法意ニ存シ破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ支拂上ノ信用ヲ喪失スルカ故ニ該信用ニ根據セル期限ノ利益ヲ喪失スルモノナリト云フカ如キ趣意ニ存セス斯ノ如ク未タ履行期ニ達セサル權利ハ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ルト雖モ之カ爲メニ平等保護ノ法則ニ反シ該權利ヲ有スル者ニ特別ノ利益ヲ得セシムルコトヲ得ス故ニ期限附權利ニシテ利息ヲ生スルモノハ債務者ノ破産宣告ノ當時ニ於ケル元利合額即チ現存價額ニ付キ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ルヤ當然ナリト雖モ確定ノ期限附權利ニシテ利息ヲ生セサルモノハ債務者ノ破産宣告ノ當時(利息ハ破産財團ニ對シ破産宣告ノ日ヨリ發生ヲ止ムルヲ以テ)ヨリ履行期ニ至ルマテノ法定利息現存價額ト券面額トノ差額ヲ割引シタル金額即チ現存價額ニ非サレハ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ履行期ニ達シタル無利息ノ權利ハ其額ヲ同シウスル無利息ノ權利ニシテ未タ履行期ニ達セサルモノト同價額ニ非サレハナリ是ヲ以テ獨逸破産法第六五條第二項、瑞西破産法第二〇八條、西班牙商法第八八三條、伊太利商法第七〇一條、第七六八條、白日義商法第四五〇條等ハ何レモ破産宣告ノ時ヨリ履行期同シク割引最モ正確ナル隨テ又法律上最モ正確ナル「ホフマン」式ヲ採用シ債務者ノ破産宣告後ニ到來スヘキ期限ノ存スル無利息債權ノ破産債權額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ルマテノ法定利息ヲ加ヘタル或金額ニシテ該債權ノ券面額ニ相當スルモノナルコトヲ明示シタリ故ニ未知ノ破産債權額タル或金額ノXTトシナラ券面額トシヨラ年數トシ利息百分ノ五トセハ前示ノ破産債權額ハXT+100=Z故ニX=100Zノ算式ニ依リ之ヲ容易ニ算出スルコトヲ得日數ニ應シテ算出スルニハ「ハ」日數トシX+100X5x100+5x

以故ニ依ル算式ニ依ル然レトモ我現行破産法ハ佛國商法ト同シク債務者ノ破産宣告後ニ到來スヘキ履行期ノ存スル無利息ノ債權ニ付キ斯ル利息割引ノ法則ヲ認メサリシレ蓋シ商事ニ於テハ通常債權ニ付キ長期限ヲ附スルコトナキヲ以テ法定利息ノ割引ヲ是認スルモ爲メニ著シキ利益ナク却テ計算上ノ不便ヲ來シ徒ニ破産手續ノ進行ヲ遅延セシムルノ虞アルノミナラス履行前ニ於ケル辨濟ハ必スシモ債權者ノ利益ニ非ストノ理由ニ歸著スルモノナルヘシト雖モ這ハ前述セル債權者平等保護ノ法則ニ反スル失當ノ立法タルヤ言フ俟タサルナリ是レ破産法案ニ於テ現行法ヲ修正シタル所以ナリ未タ確定ノ期限附權利ニシテ利息ヲ生セサルモノニ關シテハ債權者自ラ破産宣告ノ當時ヲ標準トシ控除スヘキ金額ヲ評定シ其評定額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ破産債權トス(破産二條、獨破六九條又定期ノ給付ヲ目的トスル權利ハ破産宣告後ニ於テ辨濟ヲ受クヘキ定期ノ給付ニ關シ給付ヲ受クヘキ權利カ自己ノ履行スヘキ給付ニ對スル賠償トシテ新ニ成立スルモノニ非サルトキニ限り破産債權ト爲ル故ニ貸金ノ支拂、保險料ノ支拂若クハ利息ノ支拂ヲ目的トスル權利等ハ破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ給付ニ關シ破産債權ト爲ラス蓋シ斯ル債權ハ破産者若クハ管財人ニ對シテ爲シタル給付ニ對スル賠償トシテ新ニ成立シタルモノ即チ破産宣告後ニ於ケル貸金及ヒ利息ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ物件若クハ元金ノ使用ニ對スル賠償トシテ又破産宣告後ニ於ケル保險料々拂ヲ目的トスル債權ハ危險負擔ニ對スル賠償トシテ破産宣告後新ニ成立スルモノナルヲ以テ貸貸人、保險者及ヒ貸主カ其義務タル給付ヲ爲ス以前ニ發生スルコトナケレハナリ換言スレハ破産宣告ノ當時ニ於テハ唯將來ニ於テ成立スヘキ請求權タルニ止マレハナリ又夫婦、親子等ノ如キ親族關係ニ基ク法定扶養請求權(民七四七條、七九〇條)ハ破産宣告後ニ於テ辨濟セラルヘキ給付ニ付キ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレ

ハ斯ル請求權ハ各定期ニ於ケル必要ニ因リ新ニ成立スルモノナルヲ以テ唯破産宣告ノ當時迄ニ發生シタル給付ヲ目的トスル請求權ノミヲ破産債權ト謂フヲ得ヘケレハナリ權利者ノ必要ノ存否及ヒ義務者ノ資力ノ有無ヲ條件トシテ契約又ハ遺贈ニ因リテ成立シタル養料請求權亦然何トナレハ斯ル請求權ハ法律上法定養料請求權ト同一地位ニ在レハナリ之ニ反シテ金額及ヒ期間ノ特定セル定期金債權、終身定期金ノ債權並ニ權利者ノ必要ノ存否及ヒ義務者ノ資力ノ有無ニ關係ナク契約又ハ遺贈ニ因リテ成立シタル養料請求權(斯ル權利ノ發生原因カ契約ナルトキハ該契約カ破産宣告前ニ成立セルコトヲ要シ又遺贈ナルトキハ破産宣告ヲ受ケタル相續人カ破産宣告前ニ負擔附相續ヲ承認セルコトヲ要スルヤ言フ俟タス等)ハ破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ給付ニ付テモ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得何トナレハ斯ル權利ハ當初ヨリ單一的ニ成立セル請求權ニシテ唯爾後定期ニ辨濟セラルヘキ給付ニ關シ期限附若クハ條件附タルニ過キサレハナリ換言スレハ斯ル權利ハ根本ノ權利ニシテ又破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ給付ヲ目的トスル請求權ハ斯ル權利ノ放棄ニ過キサレハナリ而シテ五年間毎年金百圓ヲ支拂フト云フカ如キ金額及ヒ期間ノ確定セル定期金債權ニ關スル破産宣告後ニ受クヘキ給付ニ付キ何等ノ割引ヲ爲スコトナク債權額ヲ算定スルハ該債權者ニ特別ノ利益ヲ與フルモノト爲ルヤ前述ノ如シ故ニ獨逸破産法及ヒ我破産法案ニ於テハ法律上最モ正當ナル算定方法ヲ規定シタリ獨破七〇條、六五條二項、破産一〇條)此方法ニ依レハ破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ各定期ノ給付額ヨリ各給付期マテ法定利息ノ割引ヲ爲シタルモノノ總額ヲ以テ破産債權額トシ該總額カ各定期ノ給付額ニ相當スル法定利息ヲ生スヘキ元本額ヨリ多キトキハ此元本額ヲ以テ破産債權額トス是ヲ以テ定期金ノ數額カ金百圓ニシテ其期限カ五箇年ナルトキハ各定期金ニ相當スル破産宣告ノ日ヨリ其辨濟期ニ至ルマテノ法定利息

ヲ加ヘタル或金額ヲ算出シ(又)或金額トシテ年數トシテ券面額トシテ利息ヲ5%トシテ以テ算出シ即チ之ニ10%ノ式ニ依リテ算出ス)其算出シタル各定期金ノ總額ヲ破産債權額トシ、定期金債權ノ期限カ六十年ナルトキハ、斯ル方式ニ依リ算出シタル各定期金ノ總額カ定期金百圓ノ給付ニ相當スル年五分ノ法定利息ヲ生スヘキ元本額二千圓ヲ超過スルヤ當然ナルヲ以テ此元本額ヲ破産債權額トスルコトナル終身毎年金百圓ヲ支拂フト云フカ如キ金額カ確定シ期限カ不確定ナル定期金債權ニ關シ破産宣告後ニ受クヘキ給付ニ付テハ不確定期限ノ債權ト同シク債權者自ラ破産宣告ノ當時ニ於ケル狀態ヲ標準トシテ控除スヘキ金額ヲ評定シ其評定額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ破産債權額トス(破産案一)條、獨破六九條)但破産宣告後ニ於ケル給付ヲモ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ル定期ノ給付ヲ目的トスル債權カ破産手續ニ於テ元本額ヲ確定セラレタルトキハ此確定ハ他ノ債權ノ確定ト同シク破産手續終結後ニ於テモ其效力ヲ存シ債權者及ヒ債務者ハ其一方行爲ヲ以テ之ヲ破毀スルコトヲ得ズ然レトモ法定利息ノ割引ニ關スル法則(破産案九條)ハ相續財產ニ對スル破産宣告ノ場合ニ於テハ適用ナシ(破産案一一條、二八條、獨破二二六條)是レ相續財產ニ對スル破産宣告ノ場合ニ於テハ成ルヘク相續財產ヲ以テ相續債權者ニ辨濟ヲ得セシムルノ法意ニ出テタルモノナリ換言セバ相續財產ノ破産ニ在リテハ通常ノ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ破産債權額ニ對スル配當ヲ爲シタル後ニ尙ホ相續財產ノ殘存スルコトアリ此殘餘財產ノ配當ハ之ヲ相續人ノ意思ニ放任スルハ其當ヲ得タルモノニ非ス然レトモ之カ爲メニ該殘餘財產ニ付キ特別ナル破産手續ヲ開始スルハ事煩雜ニ失シ且徒ニ費用ヲ費スノ虞アリ又相續人ニ對シ法定ノ順位ニ從ヒ該殘餘財產分配ノ義務ヲ負ハシムルハ相續人ノ耐ヘサル所ニシテ又債權者ノ爲メニ安全ヲ缺ク故ニ法律ハ相續債權者ヲシテ通常ノ破産手續ニ於テ控除スヘキ金額ニ付テモ他ノ

破産債權ノ侵害セサル範圍内ニ於テ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得セシメタリ(2)條、附權利即チ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ條件ノ成就セサル權利ハ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得(破産案一三條)是ヲ以テ第一ニ解除條件ハ其性質上權利ノ發生ニ非スシテ却テ權利ノ消滅ヲ條件ノ成就ニ繋ラシムルモノナルヲ以テ解除條件附權利者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ其債權全額ニ付キ無條件ノ權利者ト同シク破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキノ理ナリ故ニ現行法及ヒ獨逸破産法ニ於テハ解除條件附權利者ニ斯ル權利ヲ認メタリ(獨破六六條)然レトモ我破産法案ニ於テハ解除條件附權利者カ條件ノ成就ニ際シ其受ケタル給付ヲ返還スルノ義務ヲ履行スルコト能ハス爲メニ破産債權者、破産者其他ノ破産關係人ニ不利益ヲ被ラシムルニ至ルコトヲ慮リ解除條件附債權者カ其債務ニ付キ相殺ヲ爲ストキハ其相殺額ニ付キ擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要シ又配當ヲ受クルニハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要スル旨ヲ規定シ(破産案一三條、八三條、二五九條)又解除條件附權利者カ條件ノ成就ニ際シ其受クヘキ給付ヲ受クルコト能ハサルノ不利益ヲ被ルニ至ルコトヲ慮リ相當ノ擔保ヲ供セザル解除條件附權利者ノ受クヘキ配當額ハ管財人カ之ヲ寄託スル旨ヲ規定シタリ(破産案二六四條四號)其他解除條件附權利ノ爲メニ破産手續ノ終結ヲ延滞スルハ總破産關係人ノ利益ニ反スルヲ以テ解除條件カ最後ノ配當ノ除斥期間經過前ニ成就セザルトキハ解除條件附權利者ノ供シタル擔保ハ法律上當然其效力ヲ失ヒ又該權利者ノ爲メニ寄託シタル金額ハ之ヲ該權利者ニ支拂フヘキモノト規定シタリ(破産案二六六條、二六八條)而シテ現行破産法ニ依ルト破産法案ニ依ルトノ區別ヲ問ハス解除條件カ破産手續繼續中ニ成就シタルトキハ權利ハ民法上ノ原則ニ從ヒテ消滅ス故ニ管財人ハ解除條件附權利カ債權調査會ニ於テ未タ確定セザルトキハ異議ノ申立ニ因リ又既に確定セルトキハ確定シタル請求ニ對スル異議

ノ訴ニ因リ(五四五條)權利ノ消滅シタル旨ヲ主張シ且解除條件附權利者ニ支拂ヒタル配當額ヲ不當辨濟トシテ取戻スコトヲ要シ(破産法案ニ依レハ第二六七條ニ從ヒ配當額ノ通知ヲ發シタル後解除條件成就アリタルトキハ取戻シタル配當額ヲ追加配當ニ充ツルモノナリ)(破産二七八條)之ニ反シ解除條件カ破産手續終結後ニ成就シタルトキハ解除條件附權利者ノ破産手續ニ於ケル權利ノ行使ニ因リテ割合上少額ノ配當ヲ受ケ爲メニ損害ヲ受ケタル各破産債權者ハ解除條件附權利者ニ對シ不當利得ニ基クテ求償權ヲ有ス解除條件カ成就セルモ當事者カ未タ之ヲ知ラサル間ハ尙ホ解除條件附破産債權トシテ之ヲ主張スルヲ妨ケラレルコトナク(民一二二條)又寄託若クハ供託ニ因リテ生ジタル利息ハ破産財團ニ屬スルヤ言フ俟タズ第二ニ停止條件附權利ハ其性質上條件ノ成否未定ノ間ニ於テモ單ニ將來權利ヲ取得スヘキ事實上ノ期望ニ止マラスシテ却テ法律上保護セラレ且處分スルコトヲ得ヘキ正當ナル權利取得ノ期望權(Arbeitslosheitsrecht)ナルヲ以テ破産債權タルニ足ルモノナリ故ニ停止條件附權利者ハ其全額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得(破産二三條)然レトモ停止條件附權利者ハ其條件ノ成否ニ繫リタル權利ニ對スル配當額ヲ受取ルコトヲ得ス唯擔保ヲ立ツルコトヲ請求スルヲ得ルノミ蓋シ停止條件ニ繫リタル權利其モノハ停止條件ノ成就前ニ於テハ未タ成立セザルヲ以テ停止條件附權利者ハ條件ノ成就ニ際シテ其條件ノ成就ニ因リテ成立セル權利ノ目的ニ付キ満足ヲ享クルニ必要ナル行爲ヲ爲スノ權利ヲ有スルニ過キサレハナリ換言スレハ停止條件附權利者ハ民法ノ規定ニ從ヒ無條件ナル擔保請求權ヲ有スレハナリ(民一二九條、獨破六七條)故ニ停止條件附債權者ハ其債務ヲ辨濟シタルトキハ後日相殺ヲ爲ス爲メ其債權額ヲ限度トシテ辨濟スル價額ノ供託(破産法案ニ依レハ寄託)ヲ請求スルコトヲ得(破産八二條、獨破五四條三項)又ハ管財人ニ對シ停止條件成就ノ場合ニ於テ受クヘ

雜 錄

◎大審院判例要旨

○執達吏ノ權限並ニ債還請求通知送達委託ノ無效 按スルニ執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄區域内ニ於テノミ其職務ヲ行フコトヲ得ルニ止マルモノナレハ執達吏トシテハ其管轄區域外ニ於テ執行スヘキ事務ノ委託ヲ受クルコトヲ得サルハ固ヨリ論ラ俟タズ故ニ原判決カ職務執行ノ權限ナキ執達吏梅津春五郎ニ對シ上告人ノ爲シタル債還請求通知ノ委託ヲ以テ適法ニアラスト說示シタルハ正當ナリト謂フヘク既ニ債還請求通知送達ノ委託ニシテ不法ナル以上ハ法律上ノ效果ヨリ觀察スルトキハ全ク通知送達ノ委託ヲ爲ササルト同一ニ論セサルヘカラス然ラハ即チ上告人ハ債還請求ノ通知ニ付キ被上告人ニ通常到達スヘキ方法ヲ採リタルモノニ非サルコト勿論ナリ(明治三〇年一月二日第一號民事部判決)

○執達吏ノ過失ト債權者ノ責任 凡ソ債權者ノ執達吏ニ爲ス委任ハ民法上ノ委任契約ト異ナリ執達吏カ債權者ヨリ法規ニ從ヒ強制執行ノ委任ヲ受ケタル以上ハ執達吏ノ爲ス強制執行爲ハ債權者ノ行爲ヲ代理スルニアラス債權者ノ意思ニ適合スルヤ否ヤヲ顧ミルコトナク執達吏タル職務ヲ執行スヘキモノニシテ其法意ハ民事訴訟法第五三一條以下數條ノ規定ニ依リ明カナリ故ニ強制執行上委任者タル執達吏ニ過失アルモ委任者タル債權者ハ必スシモ其責ヲ別ツヘキニアラス(明治三十八年一月二十五號判決)

校外生規則摘要

- 一 十个月以上本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス
- 一 講義録ノ講習ヲ終リタル者ハ校外生修業書ヲ請求スルコトヲ得但手數料金貳拾錢ヲ納ムヘシ
- 一 校外生ノ講習料ハ金九圓トシ一時前納金七圓五拾錢トシ二回前納金四圓トシ十五个月分納金六拾錢トス但講義録ハ十二个月ニテ完結ス
- 一 講習料ヲ納付シタルトキハ講義録ヲ郵送スルヲ以テ別ニ領収證ヲ交付セス若シ發信ノ日ヨリ二十日ヲ過キテ講義録 到達セザルトキハ其旨本大學出版局ニ通知スヘシ
- 一 校外生ニシテ講習十个月ヲ終リタルトキハ本人ノ認ニ依リ論文試験及ヒ筆記試験ヲ施行ス但時宜ニ依リ口達試験ヲ爲ス
- 一 前項ノ試験成績優等ナル者ハ本大學ノ學生又ハ聽講生ニ攝入シ有志者贈ノ獎學金ヲ以テ一學年中ノ授業料及ニ寄宿料ヲ支辨スヘシ
- 一 三十一年度校外生ニ付テハ三十一年八月及ヒ十二月ノ二回ニ試験ヲ施行シ優等生ヲ選拔スヘシ
- 一 校外生ハ講義録中ニ疑義アレトキハ講義録ノ番號科目頁數及ヒ疑問ノ要點ヲ記載シ本大學編輯局ヘ宛テ郵送スヘシ
- 一 質疑通信ノ文意解シ難キモノ、主旨明瞭ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノハ解答ヲ付セス
- 一 質疑中有從ト認ムルモノハ之ニ解答ヲ付シ法學志林又ハ講義録ニ登載スヘシ

(明治三十一年十一月九日第三種郵便物認可) 毎月三十日二十日三十日發行

明治三十一年一月廿七日印刷
明治三十一年一月三十日發行
(定價金參拾錢)

編輯者 萩原敬之
發行所 東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮山信好
東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 金子活版所
東京市芝區明舟町十一番地

發行所 司法省 法政大學
東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

(電話番町七拾四番)